

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

※ 日本免疫学会	17
※ 日本農芸化学会	14
※ 日本薬学会	12
※ 日本RNA学会	9
※ 日本ウイルス学会	9
※ 日本動物学会	6
※ 日本放射線影響学会	5
※ 日本育種学会	4
※ 日本化学会	4
※ 日本人類遺伝学会	4
※ 日本生物物理学会	4
※ 酵母遺伝学フォーラム	3
※ 生物物理学会	3
※ 動物学会	3
※ 日本バイオインフォマティクス学会	3
※ 日本細菌学会	3
※ 日本植物学会	3
※ 日本進化学会	3
※ 日本生物工学会	3
※ 日本蛋白質科学会	3
※ 日本薬理学会	3
※ ゲノム微生物学会	2
※ 実験動物学会	2
※ 日本エピジェネティクス研究会	2
※ 日本プロテオーム学会	2
※ 日本生理学会	2
※ 日本農芸化学会酵母遺伝学フォーラム	2
※ American society of biochemistry and molecular biology	1
※ ASCB ENDO GRS	1
※ ISSCR	1
※ JSIDISSCR	1
※ NYAS	1
※ RNA JSPP IPBM 植物学会、	1
※ RNA 生物物理	1
※ RNA学会	1
※ RNA学会、エピジェネティクス研究会	1
※ SfN	1
※ アメリカ細胞生物学会	1
※ アメリカ人類遺伝学会	1
※ アンドロロジー学会、口腔外科学会、進化学会、	1
※ いくつかの国際学会	1
※ ウィルス学会 RNA学会	1
※ ウィルス学会、免疫学会	1
※ エピジェネティクス研究会	1
※ がん分子治療標的学会	1
※ ゲノム微生物学会、進化学会	1
※ ゲノム微生物学会、日本放線菌学会	1
※ なし	1
※ バイオインフォマティクス学会、ゲノム微生物学会、iSSCR	1
※ ミトコンドリア学会	1
※ 衛生学会、エピジェネティクス研究会	1
※ 癌転移学会、日本免疫学会	1
※ 癌分子標的治療学会、薬理学会、	1
※ 結晶学会、蛋白質科学会	1
※ 結晶成長学会	1
※ 顕微鏡学会	1
※ 再生医療学会	1
※ 自律神経学会	1
※ 実験動物学会、薬理学会	1
※ 主に植物系の会員	1
※ 情報計算化学生物学会(CBI学会)、日本放射線影響学会	1
※ 植物化学調節学会、植物学会、農芸化学会、農薬学会、	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

※ 植物学会 藻類学会	1
※ 植物学会、数理生物学会	1
※ 植物病理学会、植物細胞分子生物学会	1
※ 神経化学学会、RNA学会、薬理学会	1
※ 生物工学会	1
※ 生物工学会、蛋白質科学会	1
※ 生物物理、物理、応用物理、化学、高分子	1
※ 生物物理学会 バイオインフォマティクス学会 CBI学会 植物学会 基礎老化学会	1
※ 生命の起源および進化学会、RNA学会	1
※ 他はありません	1
※ 体力医学会	1
※ 蛋白質科学会	1
※ 動物学会、比較生理生化学会、進化学会、生態学会	1
※ 毒性学会 薬学会	1
※ 日本RNA学会、酵母遺伝学フォーラム	1
※ 日本RNA学会、日本進化学会、RNA Society等	1
※ 日本RNA学会、日本薬学会	1
※ 日本ウイルス学会、日本肝臓学会、肝細胞研究会	1
※ 日本ゲノム微生物学会日本進化学会日本ヘリコバクター学会	1
※ 日本ケミカルバイオロジー学会	1
※ 日本バイオインフォマティクス学会、日本進化学会	1
※ 日本フードファクター学会	1
※ 日本ペプチド学会、日本薬学会、日本核磁気共鳴学会	1
※ 日本ホスファターゼ研究会、造血器腫瘍研究会	1
※ 日本ミトコンドリア学会、日本RNA学会	1
※ 日本リウマチ学会	1
※ 日本リスク研究学会、日本マス・コミュニケーション学会	1
※ 日本遺伝カウンセリング学会、日本臨床検査医学会、日本家族性腫瘍学会、日本臨床検査学教育学会	1
※ 日本育種学会、日本作物学会	1
※ 日本栄養・食糧学会	1
※ 日本炎症・再生医学会、日本細菌学会	1
※ 日本炎症再生医学会	1
※ 日本化学会、日本人類遺伝学会他	1
※ 日本科学教育学会、日本生物教育学会	1
※ 日本環境変異原学会	1
※ 日本基礎老化学会	1
※ 日本寄生虫学会	1
※ 日本血液学会、日本再生医療学会	1
※ 日本呼吸器学会	1
※ 日本骨代謝学会、アメリカ骨代謝学会	1
※ 日本再生医療学会	1
※ 日本再生医療学会、日本免疫学会	1
※ 日本細胞性粘菌学会	1
※ 日本細胞生物学会	1
※ 日本時間生物学会	1
※ 日本獣医学会	1
※ 日本獣医学会、日本農芸化学会、日本内分泌学会	1
※ 日本獣医学会日本ウイルス学会	1
※ 日本循環器学会、日本動脈硬化学会、日本血管生物医学会	1
※ 日本循環器学会、日本内科学会	1
※ 日本植物学会、日本光合成学会、日本ゲノム微生物学会、日本生物工学会	1
※ 日本植物病理学会、日本農芸化学会	1
※ 日本神経化学会、日本薬学会、北米神経科学会	1
※ 日本神経学会	1
※ 日本進化学会、日本農芸化学会、日本ゲノム微生物学会	1
※ 日本人類遺伝学会、日本再生医療学会、科学技術社会論学会、日本生命倫理学会、米国人類遺伝学会、国際幹細胞学会	1
※ 日本水産学会	1
※ 日本水産学会、日本比較内分泌学会、日本内分泌学会	1
※ 日本数理生物学会	1
※ 日本生物教育学会日本科学教育学会	1
※ 日本生物工学会、化学工学会、日本動物細胞工学会	1

#### 質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

※ 日本生物物理が会日本生物物理学会	1
※ 日本生物物理学学会、アメリカ細胞生物学会	1
※ 日本生物物理学学会・日本蛋白質科学会	1
※ 日本組織細胞化学会	1
※ 日本組織適合性学会、日本DNA多型学会	1
※ 日本組織培養学会、日本再生医療学会、日本がん分子標的治療学会	1
※ 日本蛋白質科学会、日本ウイルス学会、日本エイズ学会、日本生物物理学学会	1
※ 日本畜産学会、日本家禽学会、本動物遺伝育種学会	1
※ 日本畜産学会、日本動物遺伝育種学会	1
※ 日本土壤肥料学会、日本農芸化学会	1
※ 日本糖質学会、日本プロテオーム学会、セルロース学会	1
※ 日本動物学会 日本進化学会	1
※ 日本動物学会、日本進化学会	1
※ 日本動物学会、日本生物物理学学会	1
※ 日本動物学会、比較生理学会	1
※ 日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会	1
※ 日本脳神経外科学会	1
※ 日本農芸化学会 日本ビタミン学会	1
※ 日本農芸化学会、ゲノム微生物学会	1
※ 日本農芸化学会、極限環境生物学会、国際極限環境生物学会、日本食品微生物学会	1
※ 日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム、日本植物分子生物学会、日本育種学会	1
※ 日本農芸化学会、植物細胞分子生物学会	1
※ 日本農芸化学会、日本ゲノム微生物学会	1
※ 日本農芸化学会、日本育種学会	1
※ 日本農芸化学会、日本再生医療学会	1
※ 日本農芸化学会、日本細菌学会	1
※ 日本農芸化学会、日本植物学会	1
※ 日本農芸化学会、日本生物工学会	1
※ 日本繁殖生物学会	1
※ 日本繁殖生物学会	1
※ 日本病態プロテアーゼ学会	1
※ 日本病理学会	1
※ 日本病理学会、日本宇宙生物科学会	1
※ 日本放射線影響学会、日本環境変異原学会、日本毒科学会、米国微生物学会、米国環境変異原学会	1
※ 日本麻醉科学会	1
※ 日本免疫学会、日本寄生虫学会、日本熱帯医学会	1
※ 日本免疫学会、日本生体防御学会、日本農芸化学会	1
※ 日本免疫学会、日本糖質学会、日本動脈硬化学会	1
※ 日本免疫学会日本アレルギー学会	1
※ 日本薬学会、日本生物物理学学会	1
※ 日本薬理学会、日本循環器学会	1
※ 日本薬理学会、日本循環薬理学会	1
※ 日本薬理学会、日本薬学会、日本再生医療学会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本免疫学会、日本プロテオーム学会、日本レギュラトリーサイエンス学会、日本毒性学会、国際幹細胞学会、アメリカ化学会	1
※ 日本靈長類学会、日本動物学会、日本ウイルス学会	1
※ 農芸化学会	1
※ 農芸化学会、栄養・食糧学会	1
※ 農芸化学会、土壤肥料学会、進化学会	1
※ 農芸化学会、日本ビタミン学会	1
※ 物理学会、結晶学会	1
※ 米国腎臓学会、米国分子生物生化学会	1
※ 免疫、がん免疫	1
※ 免疫学会	1
※ 免疫学会、再生医療学会	1
※ 免疫学会エビジェネティクス研究会	1
※ 薬学会	1

## 質問5 第35回年会コンセプトについて（その他）

※ 参加しなかったのでよくわからない。
※ 電子媒体をもっていない人のことをあまり考えていないと思った。多くの人が分厚いプログラムとコンピューターを持って歩いていた。これなら要旨集を1つ持つて歩いた方がまし。
※ あまり利用できなかつたのでよくわからない。
※ 要旨を見るために重い要旨集を持たなくて済んだのは助かったが、結局プログラム集が発表を探すには欠かせず、フォントが大きくて重かった。ウェブ上で発表を検索できるだけでなくブラウズできるようにして欲しかった。双方向の点はあいにく植物分野なので実感できなかつたが、発表へのコメントを見るかぎり十分活用されていなかつたように感じた。
※ 良い部分もたくさんあつと思います。特に、アブストラクトの電子化と端末による会場での参照が行えるようネット環境も含めて改善された点は良かったと思います。ただしかしながら、印刷媒体へのaffinityもなくしてほしくはないです。
※ よい点と改善と両方があつたが、トライした結果いろいろ見えてきたわけで、コンセプトとしては非常によかったです。
※ 良い点と悪い点と両方
※ 正直、アブストラクト集を持ち歩く必要がなく便利だった以上のものは感じませんでしたが、それだけでも評価できると思います。
※ 新しいだけで、内容は散漫で、何がやりたいのか分からなかつた。
※ ネットで要旨を見れるようにしたのは良かったが、逆にネットに繋がないと要旨を見れないという欠点もあり、PDF版も事前にダウンロードして持参できるようにしてほしかつた。また、ショートトークについては発表のために途中で聞きたいシンポジウムを抜けなければならず、またシンポジウム会場とショートトーク会場が離れていることもあり非常に不便だつた。
※ 本当に模索していることがわかり、好感を持つた。一時マンネリ化していたが、年々良くなっているように思う。これからも頑張って欲しい。
※ 以前からPCは持ち歩いていたのであまり変わりなかつた。今年か来年にはiPadも買うつもりなので、今後続けば便利かもしれない。ただ、講演中にiPadで暇つぶしをしている人も増えたのが気にはなつた。
※ スマートフォンを利用するのと便利で今後も継続してほしい。ただ現在のスマートフォンは電池切れをすぐに起こすので、無料の充電所を随所に設けて欲しい。
※ 例年通りのやり方で参加したので特に新しいスタイルということに気にしなかつた。なのでよくわからない。
※ コンセプトは良かったかもしれないが、実際のショートトークはいまいちだったと思う。
※ ポスター発表が最後にあるため、学会が終わる時間が遅いと感じた。これまでのよう、昼～夕方の間にポスター発表して、口頭発表を夜にしてほしい。その方が、自分が見たり聞いたりしたい発表を時間の無駄なく見れると思う。
※ ショートトークは止めてほしい。やるならポスター発表と同じ時間帯でやるべきと思う。大事な発表が聞けなかつたり、ショートトークに間に合わなかつたりする。
※ IT化は良かったが、WiFi接続不良が多発したこと、貸出用iPadの数が全然足りていなかつたことが非常に残念。
※ 結果には改善の余地は多いがコンセプトには賛同
※ 初参加だったので、以前の会と比較できないが、ポスターのショートトークは、会場も音響上聞きづらく、また特に意義を感じなかつた。
※ 時代の流れを感じ、近い将来、モバイル、スマート等を持たない者は学会から排除されることになると思った。
※ そのこと自体はいいと思うし賛同もできるが、コンセプトとして大会の最初に掲げるのはすこし疑問が残る。、
※ 前回「分子からヒトへ」よりはマシ。ヒトにあらずは研究にあらずの姿勢を前面に出した前回大会には参加する理由はなかつた。
※ SNSを使って開催しようというのはわかるけれど、英語のタイトル、もっとスマートの方がいいのでは。。。というか、いちいちそんな銘打たなくとも、もはやみんな普通に活用しているツールなので…という気もして。。。？？
※ 参加しなかつたので、よくわかりません。ただ、プログラム集は見やすかったです(分厚いという難点はありました)。
※ IT企画は良かったと思います。ショートトークの環境が劣悪。実際のところ、学生の練習場のように。またポスター発表に時間を割かなかつたのもいかがなものかと。ワークショップを厳選した結果、似たようなアプローチで似たような現象を調べている研究が続くことに。もう少しゆとりがあったほうが(玉石混交したほうが)聞く方も休めていいかと。
※ おたく？
※ 便利な人にはかなり便利だが、不便な人にはかなり不便な形式だと感じました。また、スマホだけだと使えない機能、または使い方がわからなかつた機能があつたので、コンピュータやタブレットを持っていない人には不便だつたと思います。
※ 分生はデカすぎて、せっかくの阿形さんのやる気がうまく昇華していなかつた。でも、とにかく阿形さんの気持ちちは理解しますし、好きです。
※ 運営された方々が、本気で年会の新しいスタイルを模索しようと努力されたことが伝わってきた年会でした。革新的で素晴らしい試みが多く、とても感動しました。特に、個人的には、IT企画が非常に良かったです。次年度以降の年会にも、今回の年会の試みが活かされ、発展していくことを期待しています。
※ スタイルの模索はよかったです。それがコンセプトとイコールというの、どういうものかな、少し疑問もありました。
※ 電波状況が悪い部屋(の部分)があり、準備が若干不足していたのではないかと感じた。

## 質問5 第35回年会コンセプトについて（その他）

※ IT-basedという割には、お粗末だった。
※ 意図はわかるが、効果に疑問。大型化した学会の中身に工夫があつてこそ、IT化の効果もでる。まず中身を整理し実あるものへ改善、が先。
※ よかつたが、あまりにスマホ、ipad、PCの画面に見入っている人々が多く、通勤電車のような雰囲気だった。あまりにこのシステムの構築にとらわれ、プログラム本来の吟味がたらなかつたように感じられる。
※ IT機器を用いた誘導はわかりやすかつたが、これが、新しい年会のスタイルかと言われると、やってることは、従来と同じで、新しいスタイルとは思えない。
※ 試みとして賛同する。今回実施した試みを取捨選択していく。
※ 生化学会との合同開催で、4-5日間程度でもよかつたと思う。
※ ITとともに抄録を印刷物として残したいと思う。
※ コンセプトは面白かった。「いいね」は自分の発表の反響度が反映されるので、面白かった。ただし今回は試行でもあり、実態は、まだ中身が完全に伴っていたとはいえないと思う。参加者の利便性は、そのシステムに慣れているか否かに強く左右されるので、単純には評価しづらい。スマートフォンやPadに慣れていないと、つまはじきになる。
※ 「新しいスタイルを模索する」というコンセプトの割に、チラシのデザインはiPhoneの画面にアプリみたいに各研究分野が並んでおり、iphoneはの33gsフォルム。これでは「古いスタイルの模倣」であり、コンセプトを目指し切れていない。
※ 例年通りのスケジュールでやってほしい。ショートトーク、ポスターセッション開始時間の遅さ、帰りの足の準備不足等、今回の学会は不満だらけ。次回も同じなら参加しない。
※ 新しい試みは理解できるが、従来のスタイルの良い点も残した上で、本当に効果的で意義あるものだったかどうかは疑問
※ 年会コンセプト「生化学会と分離・連続開催となるので、分子生物学会のアイデンティティが問われる年会となります。分子生物学会に発表するんだー」という高いモチベーションをもつて奮ってご参加ください。」これについて、もっと具体的な説明が欲しかった。たとえば「分子生物学会のアイデンティティ」とは何か？このままでは、単に他学会との軋轢をあおる内容と思われても仕方ない。多くの会員(特に若者)の心にこのコンセプトが届いたらどうか。
※ テーマに沿つてということだと思いますが、新しい方に偏り過ぎていたように感じました。
※ 新しい時代を感じました。試みとして面白かったと思います。
※ IT環境が使いやすかつたことはよかつたが、ポスターの議論にもっと長い時間が欲しかった。
※ 要旨は必要なものだけプリントアウトして学会に参加しているのですが、Web上の操作について、今年は使いづらかった。私としては昨年までの方式も復活して欲しいと思います。

## 質問6 IT企画について <複数回答可> (その他)

※ 来年も行うべしIT企画についてのアンケートを行わないので不思議
※ 人物検索ができないこと、実際の会場で抄録検索を行なっても、うまく繋がらなかつた点が不便であった。タブレットを使用する方法も便利だと思うが、できれば、コンピューター上で抄録付きのマイスケジュールを作り、紙媒体として打ち出して持参できるようなシステムも構築して欲しい。
※ いいねボタンを押さないとスケジュールに入れられないのは不便であった。
※ 参加しなかつたのでよくわからない。
※ 大学検索ができた方がより便利だと思った。
※ 新しい取り組みは非常に機能したと思う。このために尽力下さった関係者には感謝している。
※ 機器を持っておらず、会場で試せなかつた。
※ 「いいね！」ボタンはよくない。流行の研究の動向がわかるのは良いが、学生はその数で研究の善し悪しが判断されていると感じているようだ。
※ 参加を公表したくない発表をしない参加者にとって、キーワードで検索可能であったことは、事前の告知がはっきりしていなかつた印象があります。講演中に不意に電子機器からまぶしい光が反射してくることが複数回ありました。不必要に振り回さぬよう、マナー向上の啓蒙も合わせてお願ひします。
※ スマホでなかつたので恩恵にあずかれなかつた。iPadの予約制の貸し出しシステムがあつたことを後で知つた。
※ いいね！数は混雑するしないの目安にもなり、マイスケジュールは工夫の余地はあるけれどよかったです。
※ 自分のいいね！を誰がしてくれたのかを見ることができなかつた他の人に聞くと見ることができたそうなのですがパソコン スマホ双方とも見れなかつたのでそこが残念
※ 「いいね！」ボタンは結局知り合いが押すことが多く、タイトル、ショートトークを聞いて、客観的に押すことは少なかつたと思う。
※ 閉会後もオンライン要旨閲覧システムをみたい。ダウンロード方法が不明
※ WiFi がつながりやすかったのは評価できる。
※ ポスターの一覧表示、ショートトーク一覧の実装がもう少し早いとよかったです。
※ ITに踊らされすぎ。レンタルにするぐらいなら、全員に格安でiPadやiPhoneを販売してからにして欲しい。
※ 「いいね！」の人数が人気投票みたいで良くない
※ 年回プログラムを持っていかなかつたので、講演会場全体の地図を別リンクでも貼つていただいた方が助かります。
※ 会場全体図に、すぐに行けるようリンクを作つてほしかつた。
※ 検索ができる点がよかつたが、従来の冊子にある情報が全てあつたわけではない(例えばバイオテクノロジーセミナーなどがスケジュールに入つていない)のでスムーズに代替できたわけではなかつた。
※ IT企画は良い試みであったが、webページにバグが最後まで残るなど改善すべき点も多くあつた。
※ オンラインのプログラムが非常に見やすく、重い冊子から開放されました。
※ オンライン化されて重い上に見にくいくらいのプログラムを持ち運ばなくてよくなつた。検索性が非常によくなつたため、ポスター発表でさまざまな人が見に来てくれて議論が盛り上がつた。毎年、要旨登録時にキーワードを登録させられるが、あれは役に立つてゐるのか?せつかくなので、そのあたりも検索性の向上に役立ててほしい。しかもどうしてキーワードを英語で登録させるのか?今回のオンラインシステムに、会場や交通地図があればプログラム集はいらなくなつてよいと思うのだが。せつかくなのでサイトを閉じずにそのまま残しておいてほしい。業績欄に書く段になつてサイトが閉じているとタイトルなどわからなくなつたりして困る。
※ プログラムがみやすいのと、演者ごとにsortされて出てくるのは良い。いいね！を押さないと自分のプログラムができるのは不満。自動的にbig data を収集するようなシステムを議論無く簡単に導入することに危惧を感じる。
※ HPそのものはアクセシビリティーが良いとは言えなかつたのが残念です。例えば、会場の場所などをHTML形式で探すことができなかつたと思います。また、抄録まで進んでから、再度検索に戻るのが難しかつたです。冊子は希望者のみ会場で入手するか、必要な方にのみ送付すれば良いと思います。
※ セミナー情報が載つてなく使いづらかった
※ いいね！とMyスケジュールが良かった。全体的にオンライン要旨は使いやすかった。
※ 「マイ・スケジュール」機能は、会場を回る順序などをシステムティックに決めることができて良かった。「いいね！」で、発表者と聴衆との間の親近感を深めることができた。おかげで、新たな知り合いもできた。会場では、iPod touch を利用。重いプログラムを持ち歩く必要がなく、とても快適(初日はバックアップの意味もあって持ち歩きましたが、大丈夫なことがわかり、2日目以降は冊子は宿においてきました)。次回も、ぜひ！
※ オンライン要旨システムにバグあり? ページ遷移中にログインセッションが切れることが頻発した。
※ いいね、ボタンやオンラインの要旨の検索のしやすさはとても優れていた。来年もお願ひします。
※ 使いにくく仕様だった。会場が多く、かつ、離れている以上、各演題に会場マップへのリンクを付けるなど、より工夫が必要。
※ 会期中は専らiPhoneで専用ページにアクセスしていたが、うまくデザインされていて使い易かった。
※ IT企画はすばらしかつた。人名が公開されるか否かについては、もう少し考慮した方が良いのでは。
※ 今回の年会の「革命的」な企画であったように思う。この便利さに慣れてしまうと、前大会以前のスタイルには戻れないと感じた。次回以降はもちろん、さらには他学会へも技術供与するなどして、学会運営のスタンダードとすべき。
※ スマートフォン、iPadを持っていない人に不利であった
※ オンライン要旨がサクサク動かず使いづらかった。ただコンセプトはすごく良いと思うので、快適さがもっとでれば完璧だと思います。

## 質問6 IT企画について <複数回答可> (その他)

※ マイスケジュール機能が使いやすかった。
※ 会場ではIT企画を全く利用しなかった。事前に設定内容をプリントしようと試みたが、画面通りには印字されず、結局、例年通りプログラム集を持ち歩いた。「ITが人を分断してはいけない」ので携帯電話でも使えるように---の段階で排除された?スケジュールに入れたい発表を必ずしも「いいね！」と思っている訳ではなく、ボタンの利用に抵抗があった。
※ 夜ゼミはとてもいい企画だと思いました。ただ、今回は利用者側が慣れていない為か、多くが堅い目的(あるワークショップの懇親会的)で使われているのが残念でした。来年からも継続していただき、次回は自分でもっとフランクな集まりを企画してみたいです。
※ 試みは評価するが、IT音痴にはログオンの仕方等がわかりずらかった。
※ ITを使いきれる人ばかりではないので、会場にどこでなにをしているかの立て看板のひとつくらいはほしかった。ないので会場を探すのに苦労した。展示場もどこでなんの展示をしているのかまったくわからないのですべて回るしかないという状態であった。
※ いいね！システムを使う事で自分の発表に興味を持ってくれた人が誰だかわかったので、すばらしいシステムだと感じた。シンポジウム等がマイスケジュールに入れられないため不便だった。
※ ショートトークのプログラムが当初見られないなどの不都合があった。今後もショートトークをするのであれば、きめ細やかな情報アクセスができるこを望む。また、一方でショートトークの聴衆が集まっている現状を考えると、今後聴衆集めに特段の工夫をしないのであれば、ショートトーク自体の必要性も感じない(事前データの提出など余分な負担が増えるだけ)。
※ 地図はもっとわかりやすくてきたはず。ランチョンセミナーもオンライン要旨に乗せるべきかと。
※ プログラムは見やすかったのでよかったです。「いいね！」ボタンは、誰が押したのかがわかる場合とわからない場合とがあり、押すのにためらいを感じた。自分のPCでは最初表示されたが、その後表示されなくなったので、誰が押したのかがわからないように変更されたのかと思ったが、他の人に押してくれてありがとうと言われたこともあり、そのあたりがどうなっているのかがわからなかった。「いいね！」のシステムについての説明が不十分であったと思う。
※ 会の日程やシンポジウム演目リストなど、まとまった情報だけをごく薄い枚数の紙で持ち歩けるようにプログラム集を工夫すれば、IT機器と紙の併用でもっと便利になると思う。IT機器での閲覧は、要旨まで簡単にたどれて便利だが、全貌を一覧するには紙にはかなわない。アナログな工夫も取り入れればさらに良くなると思う。
※ 研究室の学生さんが、自分の発表に「いいね！」がされていてとても喜んでいました。また、重い要旨集を持ち歩かなくてもよくなり、要旨へのアクセスもかなりしやすくなつてとても便利でした。また来年も引き続き実施して欲しいです。
※ オンライン要旨は非常によかったです！
※ 特に4は関連発表がすぐにわかつてすごく良かった。次回も是非やって欲しい。
※ My スケジュールに複数に分けて登録したポスター発表演題が、演題番号順に並ばなかつたので、改善の余地あり。また、口演について、進行遅れ何分というようなリアルタイム情報がMy スケジュール上に表示されると一層、有意義になると思う。単に身軽になるだけでなく、演題数の多い学会で時間・体力を無駄にしない効果は絶大であったと実感する。
※ スケジュールが自動的にできるのがよかったです。関連性ネットワーク図はおもしろい。
※ ●ポスターマップは役に立つた。ただ、スケジュールに入れた特定のポスター位置をタップしようとして、指がふといため関連全演題が開いてしまう点がイライラした。●端末によっては会場でうまくマイスケジュールに入れられない事があった。●社交辞令的に知人発表へ「いいね！」しておいたほうが良いかと、変に気を遣うこともあった。●関連演題のネットワークマップは役に立ちそうであったが、画像のみで各ノードへのリンクが有るわけではなかつたので実際には活用できなかつた。
※ Poster 発表番号とプレビューの位置関係がわかりずらかった。
※ •いいね！を押すと自動的に演者に誰が押したか分かってしまうのは、やや不都合(知らされる旨の記載がなかつたため、驚きました)。•いいね！自体は、各演題の人気度？が分かり、発表者にも励み(落ち込み？)になったと思われる。・ショートトークのスケジュールが口演スケジュールと完全に分離していたことと、そのサイトを見てもタイムテーブルが分かりにくく、結局行けなかつた。
※ いいねボタンの名前がするのは、いい面もあるが、ライバルだと厳しいと思う。
※ ショートトークの情報が初日について、リンクしていなくて不便でした。また、パスワードの設定において、記載内容(名札の裏面)と実際との違いが、ところどころあり、アクセスできず困りました。例えば、小文字のエルと数字の1や、英語のOと数字のゼロの区別などです。
※ アプリ化して欲しかった。
※ プログラムの冊子を持ち歩いて重かったので、プログラム自体をPDFデータなどにしてキーワード検索して興味のある項目や題目を調べられるようにしてほしかつた。
※ 発表者の相関図は良かったが、名前から各発表者の要旨へとべるようになるとより良くなると思う。
※ いいね！は、所属関係者による組織票になる可能性がある？
※ 「いいね！」をクリックしないと見たいと思ったポスターを登録できないので、使わなかつた。せめて、「いいね！」をクリックしても、相手に名前が分からぬようになつていればよかつたのですが。電子機器で、口頭発表のプログラムをチェックできるのは便利だつた。特に、分厚い要旨集を持ち運ばなくてよいことが、大きなメリット。
※ 企画はいいが、使いづらい面が多々あった。オンラインでしか使えないのは要改善。ASHGや癌学会のようにアプリをインストールする形式にできるはす。

## 質問6 IT企画について <複数回答可> (その他)

※ 興味のある演題をスケジュールに入れられるのは便利だった。でもMyスケジュールに自分の発表の予定が入ってないのは…笑
※ ワークショップそのものに「いいね」ができるとか。スケジュールで時間が重なっているかどうか見た目でわかるようにする。ポスター・マップをクリックすると演題がわかるようになります。ネットワークの図を利用して、聞きに行くべき演題を推薦してくれる。など、いろいろ改善が期待できると思いますので、ますます、IT化を進めていただきたいです！
※ ITを使わない参加者へのケアも引き続きお願いいたします。
※ スケジューリングが簡単かつ自在にでき、非常によかったです。
※マイスケジュール、キーワードリンクおよび検索システムなどはとても良かったです。しかし、「いいね」を押さなくてもマイスケジュールに入れられるようにした方がいいと思います。たとえば、マイスケジュールに入れた人のリストをaudience表として提示すればいいのではないかでしょうか。
※ ワークショップのトークを聞いて感じた印象：自分の発表に「いいね！」を押してくれた人やその人の研究分野を知ることができるのは励みにもなるし、「いいね！」の数と合わせて自身の研究を客観視する機会を与えてくれた。一方他の人達の発表に関しては、「いいね！」の数と、話されるデータの緻密さ、量、そこから導かれるタイトル名も兼ねた結論に対する説得力などが、必ずしも相関関係にはないことがよくわかった。学会で受ける（お金の取れる？）研究や分野、学会で受ける（お金の取れる？）タイトル、などの勉強にとてもなった。
※ 参加予定にチェックを入れると予定時間表が出来るのは素晴らしいアイデアだと思います。今後も、ぜひこの形を続けていただきたいと思います。（しかし予定と「いいね！」は別にしても良いのではないか？）ランチョンや各企画などのセミナーも予定があると良かったかもしれません。また、各会場の地図みたいなものがあれば良かったようにも思います。（もちろん全体地図はありましたが、わりと会場で迷いました。）なお、iPadやスマートフォンなどを持たず、借りなかつた（要旨集だけだった）方からは不満が聞こえましたが、借りない方が悪いので気にしなくて良いと思います。
※ 演題要旨集を発表者索引付きで全てダウンロードできるようにして、移動中にオフラインでチェックできるようにして欲しい。あるいは、プログラム+要旨集をCD-ROMで配布して、紙の冊子を廃止にして欲しい。
※ すばらしい試みでした！ぜひ今後ともお続けください。
※ 「いいね！」という言葉 자체が軽い感じがするので、知り合いでない目上の人に「いいね！」とするのは気が引けた。試み自体は良かったので、「いいね！」に変わる言葉に置き換えてはどうか（興味ある、とか）。
※ ログインIDとパスワードが覚えにくいで、ログインするのが億劫でした。
※ ポスター会場の雰囲気でほんとうに「いいね」を押したい演題がたくさんありました。その場で臨機応変に対応するためにも、出来れば今後も出版物でのプログラムをなくさないでほしいです。
※ 統合TVのムービーが大変役に立った
※ 「いいね」によって発表のみの一方向ではなく双方向になるのがよかったです。夜ゼミはさらにつながりができて大変ありがたかったです。マイスケジュールに登録した時間帯にお知らせが来たり、マイスケジュールを印刷できる仕組みがあればさらに良いと思いました。iPadの貸し出しも助かりました。
※ 利用しなかったので、評価できない。
※ 演題以外の情報がなく、結局分厚いプログラムも持参しなければならなかった。IT化とともに完全なペーパーレス化も実現して欲しかった。ただ、現在のプログラムの冊子がなくなるのもよくないと思うので、冊子は残したまま、かつその内容をすべてオンラインあるいはPDF化してほしかった。
※ ウェブで目的の演題をチェックするのが非常に便利になったが、iPad系/スマフォを持っていない参加者には逆に不便になった。また前回までのように、要旨をひとまとめにしたpdfファイルをダウンロードできれば、要旨の流し読みが出来て便利だったと思いました。
※ スマートフォンを利用したスケジュール管理機能が使いやすく大変役に立った。
※ 夜ゼミを学会主体でもう少し宣伝しても良かったと感じました。
※ 会場内でネットにつながるのは助かった。プログラムの確認などに役立った。「いいね！」を押さないと自分のスケジュールがマークできないのは良くない。聴いてみたら「がっかり」と言うものもあるのだし、「いいね！」ボタンがどのように役立つか分からなかった。
※ 毎年してもらいたいくらいによかった。
※ iPhone持つていれば十分だったので良かった。重い紙のプログラムを持ち歩かく必要がないのは助かった。
※ 複数の演題を比べて予定をたてるにはやはり紙媒体のプログラムが必要だと感じた。
※ IT難民にはつらい学会だった。
※ 演題検索ページは全体としては良かったが、日付や発表形態などでソート可能であれば、なお利便性が高かったと思う。基本的なコンセプトは非常に良かったと思うので、アンケート結果を来年度に生かして、さらなる改良をして頂ければと思う。
※ 参加していないので不明だけど、会場でWi-Fi使えるなら、電子情報はかなり有用かと。
※ 参加しなかったので、よくわかりません。
※ メッセージを残す、が使いにくかった。普通にメールアドレスがあったほうがいいと思います。顔も晒して発表しながら、連絡先さえ書かない発表者というのも妙な話です。
※ 出来れば同システムを次回にも利用したり、他の学会が利用する際に低コストで構築運営できるような方向を模索していただけたら良いように思いました。

## 質問6 IT企画について <複数回答可> (その他)

※ スケジュール管理できるのは良かった、ただ、まだスマホやタブレットを持っていない人にに対して、もう少しサポートというか配慮がほしかった。iPadの貸し出し台数を増やすとか、古いガラケーしか持っていない人に優先的に貸し出すとか…。IT化というのをコンセプトとして打ち出すのであれば、皆が同じようにそれを享受できなければあまり意味がないと思う。
※ ポスター発表のショートトークは、時間帯や場所が質疑応答と離れていて、良くなかった。ポスター発表の時間帯が遅かった。
※ 要旨集のIT化は大変便利でした。iPad貸出も良かった。ぜひ来年度以降もこれらの企画継続してください。欲をいえば、IT難民にもわかりやすい説明が欲しいところです？いいね、を押して不利益被ることがないのか、など。
※ アナログ世代なので、ご企画頂いたITツールは、特に何も使いませんでした。(使わなかったのは、ご企画の良し悪しとは関連ないです)
※ 要旨集を持ち歩かないで済んだので良かったです。wirelessもほぼ全ての場所で繋がり、快適でした。
※ 今回のITの試みは非常に良かった。特に「いいね」をしないとスケジュール予約できない点や、夜ゼミは良かった。難点は、スケジュールをコンピュータ上に落とせないことである。ウェブに接続しないオフラインの状態でもスケジュールを確認できるよかったです。
※ 年会中は、初代iPad+GoodReaderで一日単位のPDF要旨を閲覧しましたが、「軽い・見やすい・使いやすい」で素晴らしかったです。ワークショップ等講演の遅延状況をリアルタイムにオンラインで確認できると良いと思いました(前の講演が延びていて、20分待っても始まらず、聞けなかった講演があったので)。通常の年会ではダウンロードできたランチョン予定表や会場の地図などのPDFが今回は公開されなかつたのが不便でした(プログラム集を自炊しました)。
※ あまり利用しませんでした。
※ リンクが接続しにくかった。
※ 次世代端末を持っていないため、スマートフォンではなく携帯電話のインターネットでもプログラムや要旨を閲覧・検索できたのがよかったです。遠方からの参加だったため、結果としてノートパソコンやプログラム集など重い荷物を持たなくてよいのも負担軽減に繋がった。オンライン要旨だと、全演題を見るには何ステップかクリックして頁を移動する=面倒なため、どうしても使い方が検索メインになってしまう。演題の見逃しに繋がると思った。
※ 今回のオンライン要旨は、研究者間の「つながり」を学会の場で広げるのに確実に役立ったと感じる。とくに、自分の要旨に対して「いいね！」ボタンを誰が押したことかがわかることで、どのような分野の研究者が自分の研究に興味を持っているのかが明確になることは有意義であった。今後もこのオンライン要旨のスタイルは継続して欲しい。
※ 自分の発表時間がマイスケジュールに入るようになっていたら良かったと思います。特にショートトークに関しては時間が分かりにくかった。チェックしたポスターについてもいつショートトークをしているかが分かれればもう少し聞きにいけたかと思います。
※ パソコンを開かないと詳細がわからず、座って作業をする場所が足りないため、両手がふさがっているときに困った。
※ 会場でのWiFi環境がきちんと整っており、iPadで検索ができた。そのため、抄録を持ち歩かずに済み、非常によかったです。
※ IT化をすすめるためにプログラムを重くするのなら、IT化には反対します。チェックしたポスターをまわるのに順番を指示してくれたけど、あまり回りやすくはなかった。これまで、興味のある分野のポスターセクションをぶらぶら眺めながら回って、プログラムでは見落としていた面白いポスターに出会うことがあったが、チャックしたポスターのみを見ることになると、そういう偶然の出会いが減つて若干淋しい感じもした。今までプログラムに付箋を付けていたのと比べると便利なのは確か。夜ゼミは、今回は関係したものが無かったので利用しなかつたが、続けることが大事だと思う。ただ、経費と効率の兼ね合いは検証すべき。
※ 「いいね！」を押さないとスケジュールに登録できない仕様は良くないと思いました。
※ 「いいね！」を押さないとマイスケジュールに組み込めないのは良くなかった。貸し出しがiPadだけというのもどうかと思う。
※ IT化のおかげで冊子を持ち歩く必要がなくなり楽になった。ネットに接続しないと見れないのは良くない。多数の人がアクセスするため時間がかかる。生化学会のように演題タイトル、講演者、時間、場所だけわかるようなアプリを事前ダウンロードするほうがよい。ポスターの詳細な場所はポスター会場に行けばわかる。むしろ第～会場が何階か、ショートトークの会場がどこにあって何時に誰が話すのか、といった情報のほうがすぐに知りたい。時間割に関して、シンポジウムとワークショップ以外も表示してほしい。「いいね！」ボタンは相手に自分の名前を知らせるかどうか選択権がほしい。
※ 各演題のabstractのページに、個人的なメモ欄が欲しかった。ipadを持ってabstractを読みながらポスターを見に行っても、いちいちメモ帳をひらかなければいけないのが面倒。全体的に2012年のneuroscienceのプログラムの方がずっと使いやすかった。ご検討下さい。
※ it was good to be able to make a list of talks to attend by clicking 'like' but it would have been nice to see who liked my presentation.
※ まさしく「人と人との繋げるIT企画」であったと思います。私自身の演題に対して、知り合いが「いいね！」を押してくれた場合には、「この人、年会に来るんだ」ということがわかり連絡を取ることができたり、知らない方が押してくれた場合には、「この人はどのような研究をしているのだろう」と調べて、その研究に興味を持つことができたり、とても有意義に活用させていただきました。重い冊子を持ち歩く必要がなく、ネットで簡単に検索できるのは非常に有り難かったですし、各演題・演者ページの各種リンクは、情報を収集するうえで非常に役立ちました。これからも、このような企画を是非とも強力に推し進めていただきたいと希望します。

## 質問6 IT企画について <複数回答可> (その他)

- ※ 学会は出会いのための場でもあるが、本質的に学問の場である。「抄録から自身に必要な情報を読み取る」という本質から外れた企画・機能にどれだけ学会がどれだけ補助すべきか、疑問である。コスト・エコの問題はあるが、過去のような網羅的抄録集も有料・実費・pdf等で事前に用意して、抄録をすべて一気に読みたいという希望者へのフォローをも是非お願いしたい。
- ※ 会場の地図が見れないのは不便。
- ※ そもそもどうしてプラス評価の選択肢しかこの質問項目にないのですか？
- ※ 学会プログラムの仕様が(1)演題情報へのリンク、(2)マイスケジュールへの登録、(3)抄録へのリンクなど、良かった。
- ※ 「いいね！」ボタンで評価を交換できるのいいね。しかし私のipadからはなぜかその機能が使えず残念でした。
- ※ サーバーエラーが多かった
- ※ 独自仕様あまり使いやすくなかった。IT化はオンラインにこだわる必要があるのだろうか？PDFファイルの一括ダウンロードや、分割ダウンロードにより、使い慣れたソフトからも要旨集とプログラム、会場地図などにアクセスできるようにしてほしい。
- ※ ポスター・マップは、演題内容がわかるセッションからマップが検索できないと意味ない。全体像が捉えにくい。各論から入る仕組みが前面に出ている。
- ※ 検索の対象が絞れたらなお良かった（口頭だけとかポスターだけとか）。
- ※ IT化するのであれば、会場に行かなくとも、講演が聴けるようにしてもらえるとありがたい。あるいは、学会終了後、ホームページから学会での講演や討論を、自身のパソコンから見える（聞こえる）ようにしてもらいたい。
- ※ いいね！を押すと、見たい演題がまとめて見れるので、見たいポスター・ワークショップも探しやすく便利だった。
- ※ スマートフォン等を所有していない人間に対しては恩恵がなかった。
- ※ いいね！をポチしてもらえたと意外とアガりました。
- ※ iPad等のネット対応機がないと意味が無いのでiPadの貸し出しが希望者全員に行き渡らなかつたのは残念。ノートとiPadの2つを同時に持つてポスター会場を回るのは厳しいものを感じた（最終的にはノートしか持ち歩かなかつた）。また、カメラ付きの電子機器を持ち歩くと写真等の盗撮が容易なのではと懐疑的に思えた。
- ※ 「いいね」をしないとスケジュールが作れない方はやめるべき。
- ※ ホームページ全体として使いやすく、マイスケジュールみたいな機能も良かった！
- ※ on-lineでのプログラム検索がとてもよかったです。
- ※ ウェブで予定を組めるのは便利だと思いました。要旨など、スマートフォンでも見やすくできていたので個人的には役に立ちました。また、IT企画について、お遊びっぽいところもありますが、単純におもしろいと思いました。
- ※ 演題の検索が非常にやりやすく、iPhoneだけを持ち歩けば自由に年会が閲覧できる、しかも聴講スケジュールまで立てられる、というのは素晴らしいと思いました。次回以降にも是非残していただきたいシステムです。
- ※ iPadでは、ファーラムやバイオテクノロジーセミナーが表示されなかつたが、これは非常に不便だしまづい。少なくともプログラムの冊子に掲載されている情報はもれなく表示されるべきだった。夜ゼミは表示されるのに、本来のプログラムである上記の内容が表示されないのは問題だった。IT化の方針 자체は評価するが、今回は準備不足だしシステムのデキもイマイチだった。
- ※ 聞きたい演題を曜日別時系列でピックアップして保存する機能があれば使いやすいと思いました。マイページというのがありました  
が、そこでできたのかもしれません、使い方が分からなかつたです。
- ※ ITにすべてを頼らず掲示をもっときちんとすべき！ 場所がわかりにくい会場なのに掲示が少なく本当に大変だった。
- ※ 「いいね！」とマイスケジュールの機能は分離すべき。
- ※ マイスケジュールに入れる際にいいねをチェックしておく必要があるのは良かったです。これまで交流のなかつた関連分野の研究者との交流の良い機会になりました！スマホ、iPad、PCのそれぞれで利用しましたが、どの端末でも非常にわかり易く速く表示されて、とても快適かつ楽しく利用させて頂きました。夜ゼミはコンセプトは良かったのですが、年会日程全体を通して夜までポスター発表があり、その後の集合となると躊躇してしまつた方も多いかったかもしれません。ショートトークは、今回折角のIT化でしたので、誰がいつどのブースで発表するのかが時期的に早い段階から分かりやすく表示されたら、もっと盛り上がつたと思います。
- ※ スケジュール表への入力に「いいね」ボタンが必須であったため、スケジュール表を使用出来なかつた。企業研究者にとって、興味のある演題を第3者に公開することは重大な禁止事項である。せっかくの機能を使用できず不便に感じた。
- ※ 会場内のほぼ全域でLANが使えたのは大変ありがたかったです。また、要旨集の検索ページは非常によく工夫されていたと思う。
- ※ 演題を演者名で検索できる点はよかったです
- ※ IT企画のスケジュール機能は重宝しました。来年も同じ様な機能が実装されることを期待しています。学会のIT化を進めるためのiPad貸出サービスはすごかったです。来年も期待しています。
- ※ 夜ゼミは運営側のアイデアとしては良かったと思いますが、あまり活発に利用されていない印象でした。参加者がもっと夜ゼミをたくさん提案すれば盛り上がつたのでしょうか。
- ※ いいね、は身内のものか、本当のものか不明。まあ、1つのいいねは等価なのだろうけれど。遊びとしては楽しめた。

## 質問6 IT企画について <複数回答可> (その他)

※ 学会中にIT機器をいじっている時間は余り無く、会場でいじっていると、講演に集中できない。一方、発表場所の表示はとても役に立った。夜ゼミ掲示板は、さびしい風が吹いていたように思います。各種リンクは役に立ちそうだったが、学会前後にホテルや職場に戻ってから検索するのが正しい使い方だと思った。なお、要旨の印刷版に自分で書き込みを入れることで記憶に残る事もある。したがって、事前に検索して興味のある発表の要旨だけでもちゃんと印刷して持参るのは、発表要旨を活用するためにも賢い手段だと思う。このプロセスを電子化するのは難しく、会場では、小さなメモ帳とIT機器を同時に持つて行動する姿がよく目に付いた。
※ マイスケジュールに入れた講演のみの要旨を印刷できるようにしていただけだと使いやすい。以前の年会ではできたように思う。その他のIT企画は大変使いやすかった。
※ 全体的に利用者の利便性を考えていないと判断せざるを得ない。各SNSとの連携についても形程度であり、新しいスタイルがどこにも見えない。「電子ポスター・マップ」とは何のことなのか？会場地図が“分かりやすく役に立った”ということであれば正氣を疑う。ただ、会場地図を画像で表示するだけの機能に利便性の欠片も無い。せめて「該当する会場を強調表示」するぐらいの頭は働かなかつたのだろうか。そもそもプログラム集を紙媒体で送りつけてくる時点ではIT企画とは笑いさえ生まれない。プログラム集を電子書籍化するなり、専用アプリを公開するなり、いくらでもIT企画する余地があつただろう。
※ IT化は良いと思っておりましたが、ひとたびITに問題が出来ると大変なことになります。今回、会場でなぜか私のMacBookAirのnet接続が不安定になり、分生大会のHPにアクセスすることができなくなりました。するとプログラムを知ることさえできなくなりました。かろうじて、pdf化してパソコン中に保存していたプログラムが開けたのでなんとかなりましたが、今回はIT化のメリットをほとんど感じずに終わりました。
※ 演題の関連性のネットワーク図はあまり関連性がピンと来ないものが多かった。またせっかくなのでネットワーク図上で直接ハイパーリンクが張られていると利便戦が高まつただろう。
※ ITは利用していない
※ 学会執行部の自己満足だけ。
※ 夜ゼミの登録が少なかった。
※ 生化学会と比べると、アプリで提供されるとスマホだと重かったのですが、分子のWEBベースは軽くて良い。しかし、後でのときこのような発表があったよなと思い出して、検索してみたいときに、選択してダウンロードしおかなくてはならない手間がある。多くの人は必要としている可能性はあるが、pdfもしくは、データベース形式でダウンロードできるようにしてくれると後で助かる。
※ 主要な講演や市民公開講座の様子については、後日ビデオストリーミングで見られるようにはできませんか？著作権の問題もあるのかも知れませんが…
※ 電子化には賛成だが、Webでは会場の場所や演題の全体像が見えにくいので、各会場の場所と進行中のシンポジウム・ワークショップの全体像が見渡せるような案内掲示も設置して欲しかった。
※ ITは利便性を上げる手段として今後も活用すべきだが、WiFiの繋がりにくさ等を解決するために、インフラの整備がもっと必要
※ スケジュール登録に「いいね！」ボタンを押すことが前提になっていることが分からない。発表を聞いてからの「いいね！」ではないのか？ポスター会場での学会が提供しているWiFiが非常に繋がりにくい。というか、ほとんど繋がらなかった。
※ 要旨集の電子化と検索能アップで十分ではなかったか。
※ 「電子ポスター・マップ」を印刷して持ち歩けると良いと思います。(もちろん、IT端末を持ち歩くのが前提なのでしょうが。紙の方が軽いし、チェックもしやすいです。)ipadの貸し出しで、実際に使用できたことは、とても有難かったです。
※ 抄録のオンライン化やポスター・マップについては、iPadやスマートフォン等のデバイスを持っている/いないで格差が生まれるため当初は評価していませんでしたが、iPadの貸出し企画である程度溝は埋まったように感じました。いいね！ボタンはいいね！する際の名前の公開/非公開が選択できればよかったと思いました。レコメンド(関連ネットワーク)は、私の場合、関連のある演題を拾い上げられておらず、まったく役に立ちませんでした。演題に登録されているキーワードと連動させるなど改善の余地はあると思います。
※ 「いいね！」の数を他の演題と比べてしまい気になってしまった。「いいね！」を付ける必要はないと思う。自分のスケジュールが作れる機能は良かった。リンクは、あまり参考にならなかった。
※ short talkは最低であった。同時にワークショップが進行しており、ワークショップに参加しているヒトは絶対に参加出来ない。会場も不便な所であったし、スピーカーの音も不適切で隣の発表が漏れてくるし、レーザーポインターも自前のを持って行けば良かった。演者が欠席した場合、3分間待機と言うのもお役所仕事のごときであった。ポスター会場で、ポスターの前で順番にすれば良いと思います。とつつけたような浅はかな企画と思いました。次回もするしたら参加しません。二度としないで欲しい。
※ 「いいね」をすると名前が出るのは良いものか疑問あり。
※ 「いいね！」のボタンは押さないと要旨が見ることが出来ないと勘違いしてしまい、すべて押していました。相手に名前が分かるのが恥ずかしく、出来ればやめてほしい。
※ Short Talk時間もTabletで演題を見た際に、時間を分かるようにしていただけともっといいと思いました。
※ オンライン要旨集は、単なる検索ページにとどまらず、実際に会場で見たい情報を上手に統合したつくりになっており良かった。パソコン用とiPad/iPhone用とで、それぞれに適した作りに変えており、動作が軽快で操作もやさしく、とても練られたものだと感じた。また、無線LAN環境が快適だった。

## 質問7 シンポジウムについて（その他）

- ※ 正会員であるにも関わらずどのような過程と基準でシンポジウムが選定されるのかを知る機会が全く無いのは寂しい。
- ※ 生化学会と共にシンポジストや同じ研究室の共同研究者が複数のシンポジウムで発表しているが、その中身が共通していた。
- ※ ものによります。海外から演者を招待して、がらがらの大会場というのはどうかと。ワークショップ並みの部屋にぎっしりのほうがいい。今の学生は、ワークショップやポスターに熱心な気がする。
- ※ 今回、核小体って全然なかったなあ
- ※ テーマはよいと思う。ポスターの口頭発表とかぶっているのはありえない。
- ※ シンポジウムとワークショップのすみわけが不明確。
- ※ 革新的な知見を得られる期待感のあるシンポジウムが少なかった。
- ※ もう少し、テーマを絞り込んで良いのではないか。シンポジウム、ワークショップが多すぎて、ポスターセッションが夜遅くになってしまっているのを是正していただきたい。
- ※ 数が少ない
- ※ テーマはその会の主催者の嗜好で変化してもよいとおもう
- ※ 不正関連のシンポジウムの時間に他の発表があり、不正シンポジウムを聞きにいく事ができなったため、もっと多くの人がいける時間帯に開催してほしい。ランチョンで行なわれたコミュニケーション関連のシンポジウムは、携帯電話でリアルタイムに意見が投稿できてとても斬新で面白い企画だった。ただ、投稿されたコメントに対する話よりもパネリスト同士の会話の方が多かったため、次も同様の企画を行なうなら、投稿されたコメントをメインにした企画にしてほしい。
- ※ 理論研究が取り上げられたのは斬新でよかったです。新しい視点で考えるきっかけとなり楽しかった。
- ※ 少々お年寄りが多かったです。もっと若手で実務をしている人の話を聞きたかった。
- ※ 数が少なかったような気がしますが、ワークショップを増やし、一般演題からの採択を多数取り入れることを優先していたように思えたので、不満はありません。
- ※ セッションが適切なものもあれば、そうでないものもあった。生化学会と連続開催であったためか、セッションのバランスが悪かったのかも。強引に演題を集めたものもあったのかも。合同開催ならよかったです。
- ※ 会場が狭くて入れなかった。
- ※ 数が多すぎる。もう少し大御所に創設的なお話をさせていただくのが良いと思った。
- ※ 生化学会との合同開催を希望します。
- ※ 面白いテーマが少なかった。
- ※ 未来志向のシンポジウムが少ないと感じました。
- ※ 会場が狭い。他の部屋に中継して欲しい。あと、日本語でやって下さい。
- ※ テーマは良かった。ITの活用をうたうのなら、何処でもシンポジウムが見れるように、ネットでのライブ放送、再視聴を可能にしてほしかった。
- ※ ピンキリのイメージが強く、得るものもあるが、時間を無駄にしてしまう感も否めない。
- ※ 参加しなかったので、よくわかりません。
- ※ セッション数が少なすぎるようだ。
- ※ すでにカバーしきれていない
- ※ 生化学会との重複が目立つ。同じテーマが繰り返されている。
- ※ 4日目星からの参加なので聞いていない
- ※ もう少し多くても良いと思う。ただ、シンポジウムとワークショップは、どのように区別分けされているのでしょうか？明確な存在意義が明確にされるべきだと思います。
- ※ 英語化に反対する。私は植物分野を中心に研究しており、ケミカルバイオロジー、インフォマティクス、生化学などの関連先端分野の最新知見を得るために参加している。近年シンポジウムは英語化されているが、専門外の分野、自分が知らない新たな研究について知識を深めるためには日本語が必須である。英語化の流れが進むのであれば、本学会の存在価値を感じない。日本分子生物学会は国際学会ではないし、国際学会にならないでほしい。また、我田引水型の自己研究宣伝シンポジウムでは無く、ポスター発表分野をカバーするような幅広い参加者を集めた偏りの無い企画を期待したい。
- ※ シンポジウムの選別と企画内容に、洗練さが欠けている。
- ※ シンポジウムの数が少なく、ワークショップの数を減らして、long-talkのシンポジウムの数を増やしてもらいたい。
- ※ 興味を持てるものがなかった
- ※ 英語での発表が少なかったので、外国の方が参加しにくいと感じた。
- ※ 興味が全くわからなかった。
- ※ 聞きたいシンポジウムとワークショップが重なることが多いのが残念だったが、やむを得ない面があると思う。
- ※ シンポジウムの数が少なかったと思う。ほとんどワークショップだった。
- ※ 今回、テーマについては充実していてとても良かったです。

## 質問8 ワークショップについて（その他）

- ※ 1. テーマ・セッション数ともに適切である、なのだが記述したいので4をチェック国際化と言われているが、発表言語は無理に英語化する必要なし(今回は発表者が予め言語を選べる方式だったので良かったが)、今後の事を考えると発表者が日本語か英語かを選べる方が良い、下手な英語で喋られて、ろくな討論が出来ないのならば、判りやすい日本語の法がよいし、分野が異なると、専門用語について行けない
- ※ 会場が狭いように感じたワークショップがありました。
- ※ この際、分子生物学会ではその発足の原点に戻り、シンポジウムを減らし、ワークショップを増やした方がよいと考えます。
- ※ 似たようなテーマで複数開催されているものが多い。残念ながら、そういうものに限って講演時間を守れない人(特に班会議と混同しているシニアPI)が多い。それらの不届者によってポスターを聞きにいく時間を奪われるのは至極迷惑。一方で、若手研究者が中心となってオーガナイズしているものには、分野の垣根を取り払い、興味深い題材を扱ったものがいくつかあった、進行も円滑だったのを評価したい。若手(概ね45歳まで)による企画を全体の8割採用するぐらいのことをやっていいと思う。また、今回は会場の広さ(数)に比べてセッションの数が多く、スケジュールがタイトになりすぎたことは次回以降見直されたい。
- ※ ワークショップによっては発表時間が短いところがあり、発表が時間内に収まっていたなかった。
- ※ セッション数が多すぎた感じがします。もう少し、絞り込んだ方がよかったです。
- ※ 今回、核小体って全然なかったなあ
- ※ 多すぎる。おかげでポスター発表の時間が圧迫されている。なぜあんなに遅い時間までやるのか?
- ※ テーマはよいと思う。セッション多すぎ。ポスターの口頭発表とかぶっているのはありえない。シンポジウムとWSで2スロットで良い。午後後半の3個目のスロットはポスター説明に。
- ※ ショートトークを減らし、ワークショップに振り分けるのが良いのではないか。
- ※ 上に記載。
- ※ 上記シンポジウムの項と同様。
- ※ 全体的に席が足りず、ほとんどのセッションで立ち見だった。
- ※ もっと若手中心の演題が欲しい
- ※ セッション数が多すぎ、トークの内容・レベルが玉石混交であるように感じた。もう少し数を絞る必要があるのではないか。
- ※ 数が多すぎたかもしれない。
- ※ 同じような分野のワークショップが分散していたことがあったため周りにくかった。
- ※ 会場が狭くて、途中からでは会場に入れないものが多かったので、その点を改善してもらいたい。
- ※ 全てのWSを見たわけではないが、過去に聞いたような内容の講演(多少新しい進展もあるのだろうが)や、一部WS主催側の内輪の集まり感を感じたのは私だけだろうか?
- ※ 会場の制限があるので難しいのかもしれないが、自分が聞きに行ったほとんどのワークショップで席が足りず、もうすこしひけば良かったのにと思いました。
- ※ 会場が狭い場合が多かった。それこそイネ数に応じて必要な会場の広さを予測できたのでは。
- ※ 演題が多く難しいかもしれないが、関連の企画が同時間帯に複数ある場合があり、出席するセッションを迷うケースがいくつかあった。
- ※ テーマ・セッション数は、ともに適切であるが、関連性の高いものについて、時間をずらす、会場を隣接させる等の配慮は更に必要かもしれない。
- ※ セッション数が多すぎる割にテーマが偏っていた。加えて演者の質が生化学会に比べて低く楽しめなかつた。
- ※ テーマが偏っている事と会場が狭い。
- ※ 偏っていると思う。
- ※ 会場間距離が近く、時間の近接した別会場発表へ移動しやすく良かった。
- ※ シンポジウム同様熟練者の発表が多く、もっと卒業間近とか修士の発表を聞きたかった。
- ※ 内容が偏っていて、セッション数も物足りなかつた
- ※ 新学術領域に採択されている領域は必ず、ワークショップを設定してほしい。
- ※ たくさんありすぎて、見たいものが見れず残念だった。
- ※ 似たテーマのワークショップが同じ時間帯に開催されていることがあるのは良くないと思う。
- ※ 聞きにくる人数が多すぎて椅子が、明らかに不足しているセッションがいくつか見受けられました。
- ※ 細胞接着のセッションが少なかつたか?
- ※ セッション数が多すぎて日程を圧迫しているように思われた。
- ※ 発表分野としては広いが、年々同じような人がオーガナイザーとなって催している感がある。せっかく「いいね！」マークをつけるようになったのであれば、その反応が高かった発表者に翌年、もしくは翌々年などにワークショップのオーガナイザーを依頼するのもよいのではないか。
- ※ 似たテーマでも違う会場で行われていたりして、一つのセッションに統一感がみられなかつた。まわりにくかった。
- ※ 悪くはなかつたが、偏りがあったかも。
- ※ セッション数が多すぎる。私の発表したワークショップ聴衆の大部分は同じ分野の人で、分野外の聴衆が来るまでに至らなかつた。セッション数を減らして分野外の人が来るようにしてほしい。
- ※ 聴者に偏りがあって、がらがらな会場と立ち見の会場があつた。会場の広さをもう少し調節してほしい。ある会場では、隣室を開放し、ビデオ上映と言ふ形にした場合もあったが、臨機応変に対応した良い例だと思う。
- ※ セッション数を増やすことは、学会のワークショップが、一部の仲良し有力研究者の私物化になることを防ぐ効果もあり、多くの学会員にフェアであると考える。
- ※ セッションの数が多すぎる。

## 質問8 ワークショップについて（その他）

- ※ ワークショップのタイトルと演題の中身があまり関係ないような発表が多く見受けられた気がします。そう言った意味ではもっと沢山セッションがあつて発表内容を細分化した方がよかつたと思います。
- ※ テーマはいいが、数が多い。
- ※ 部屋がいっぱい、途中から入ろうにも入れない状況があった。
- ※ 全く研究が進んでいない状態の発表が多かった。
- ※ 植物関係が少ないと思いました
- ※ 仕方ないこととは言え、全く入れない会場もあれば、空いている会場もあった。人数がちょうどバランスするようになつていてよいと思う。また似通つたテーマのワークショップも多かったと思う(分野外だからかもしれないが...)。
- ※ いつも同じような方が座長をやっています。
- ※ 同じ領域のテーマのセッションが同時並行で進まないように組んであることは良かった。一方、3~4日に分かれていた分、公務の都合で4日間全ては参加できなかつた立場として、興味があつても聴けなかつたセッションがあつたのは残念である。
- ※ セッション数多すぎです。減らしてポスターをもっと早い時間にやるべき。夜の部ができないです。
- ※ テーマが偏っている
- ※ セッションで、かなり研究レベルのばらつきがあつた。なれあいで発表者に選ばれた方も多い多かったのではと思えるものもあつた。
- ※ テーマは様々で良かったが、数が多くまわるのが大変だった。
- ※ テーマはよいが、セッション数が多く、同時間帯に重なってしまうものがありよくなかった。また、会場が狭くて立ち見が多く出た事にも不満が残つた。
- ※ ピンキリのイメージが強く、得るものもあるが、時間を無駄にしてしまう感も否めない。
- ※ 参加しなかつたので、よくわかりません。
- ※ 参加人数が多いわりに部屋が狭く、ききたい演題がきけなかつたのは問題でした。
- ※ もっと学生が立てる舞台を用意すべきだと思いました。
- ※ 分野がオーバーラップしている内容が多かったと思います。流行(=集客が見込めると予想される)とのバランスを取るのは難しいのでしょうか...。
- ※ 生化学会との重複が目立つ。同じテーマが繰り返されている。
- ※ ワークショップに一部ではあるが質の低い発表があつたのは残念
- ※ 席が少なく、入室が困難であつたため興味あるセッションを満足に聞けなかつたことが残念だつた。
- ※ セッションによって人の数が異なり、途中からでは入れないような部屋もあつたのが残念だつた。
- ※ 聞きに行っても、観客が入りきらない会場が多いので、見直して下さい。
- ※ セッション数が多すぎる
- ※ need a bigger venue to fit more chairs.
- ※ 沢山あるようで、自分が本当に聞きたいものは案外ないのだな、と思いました。
- ※ 寄せ集め感が拭えない。生化学会と一体となつた方が、充実したセッションも多かったのではないかと思われる。
- ※ 会場が狭く、入れないのは最悪
- ※ テーマはよかつたが、数が多すぎる気がした。
- ※ 4日目昼からの参加なので聞いていない
- ※ 英語化に反対する。私は植物分野を中心に研究しており、ケミカルバイオロジー、インフォマティクス、生化学などの関連先端分野の最新知見を得るために参加している。近年シンポジウムは英語化されているが、専門外の分野、自分が知らない新たな研究について知識を深めるためには日本語が必須である。英語化の流れが進むのであれば、本学会の存在価値を感じない。日本分子生物学会は国際学会ではないし、国際学会にならないでほしい。また、我田引水型の自己研究宣伝WSでは無く、ポスター発表分野を力バーするような幅広い参加者を集めた偏りの無い企画を期待したい。
- ※ テーマが整理されてなく、似たようなものが乱立している印象有り。したがつて全体にテーマに偏りがある。会場選択にも問題。聴衆があふれ出て聞けない状況が複数会場あつた。
- ※ 多すぎる。もう少し少なくして時間に余裕をもたせてほしい。
- ※ 人があふれている会場が多かつた
- ※ 同じようなテーマのワークショップが2つも3つもならんでいて、細切れの感を否めなかつた。もっとテーマを絞つて、講演+討論時間を長くすべきと考える。
- ※ 数が多すぎる、また多少オーバーラップしているような感じがした。例えばRNA関係では専門であるRNA学会のWSと同じような切り口で、この大きな学会ではもう少しそれらをくくつた、まとまつた切り口でのWSを見たかった。また各WSでは最初に全体のオーバービューが欲しい(それが徹底されておらず、単なる寄せ集めの発表と感じられるものが多かつた)。
- ※ 聴衆が入りきれない場合もあつた。会場の広さは一考する必要があるのでは。
- ※ 細かく分かれてたので、いくつか聞きたいのが重なつてしまつた。
- ※ 以前の年会に比べると、テーマ的に関連するWSがバッティングしない時間帯に配置されていて、プログラム編成の工夫が見られたことを評価する。類似(相似)ワークショップをもう少し整理すべき。
- ※ 1つのワークショップで発表する人数が多すぎて、他分野の人も理解出来るような説明をする時間や、質問する時間がなかつた。
- ※ 充実していたのは大変良かったですが、やや多すぎた感がありました。

## 質問8 ワークショップについて（その他）

- ※ とにかく数が多くすぎる。会場間を移動するのを諦めた。色んな思惑があってワークショップを開催するのだと思うが、一番大きな理由は自分の研究分野のプレゼンスを誇示したいためではなかろうか。もしもそうならば、一般発表を充実するのでもよかったです。各会場は軒並み満員であったのも今後の改善点の一つと思われる。
- ※ テーマが偏っている。
- ※ 開催日によって興味のある発表が偏っている気がした。
- ※ セッション数がやや多く感じられた。
- ※ 関連ある分野が同じ日の同じ時間帯に組み込まれており、聞きたくても一度に聞けない場合があった。もっと分野ごとの関連も含めて日程を考えてほしい。
- ※ もう少しテーマが多くてもよかったです。
- ※ 重複したテーマがやや多く、数も多すぎた。もっと絞って、ポスターの時間を繰り上げた方が良い。
- ※ 席数が少なく、見れなかつたものがいくつかあった。
- ※ シンポジウムや企画ワークショップは組織委員会の意志を反映する形で偏っていてよいと思う。一方、公募ワークショップは会員の希望をできる限り優先すべき。
- ※ 今回はじめて分子生物学会に参加した者です。ワークショップのテーマを公募で決めるにテーマの面白さは高まりますが、一方でテーマが包括的でなくなってしまうように感じました。適したテーマがワークショップリストにない場合、すぐれた研究内容であっても口頭発表の機会が与えられないのであれば残念に思います。
- ※ 内容的にはシンポジウムとワークショップの”差”が欲しかった
- ※ テーマが偏っていた。セッションの数も多すぎる。
- ※ もっと偏っても良いので、広く門戸を開けるべきだと思う。せっかくの福岡開催なので、九州の研究者を全面に出す企画が欲しかった。
- ※ 少し盛りだくさんすぎる。テーマはよいと思う。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

※ ショートトークの意義が不明、狭いブースで殆ど聞きに来ないし、時間帯によってはワークショップ、シンポジウムに行けなくなる。来年以降はショートトークは行わなくとも良い。
※ ポスター発表の時間が遅すぎるので、子供を預けている母親などは不便だったのではないかと思われる。
※ ショートトークのプログラムが分かりにくかった。聞きにいきたいシンポジウム、ワークショップとショートトーク重なり、また、会場が遠く不便な場所にあり、ほとんど聞きに行けなかった。ショートトーク会場の各部屋が近すぎ、モニターは小さいことなどから、とても聞きづらく、見づらく、改善すべき点が多いと感じた。ただし、ショートトークの企画自体には賛成である。
※ 参加しなかったのでよくわからない。
※ ショートトークはポスターの場所で行うと良い。ショートトークはあった方が良いが、今回は機能していなかった。
※ ショートトークの時間がワークショップ、シンポジウムと重なっており、発表者もいないセッションもあったようです。企画自体はよかったですと想いますので、時間帯や会場を工夫してほしいと思いました。
※ ワークショップの募集期間を広げて下さい。また、半数以上の演題はポスターから選ぶようにした方が、若い方に口頭発表の機会を与えることができると考えます。
※ 4に關しては、Q8にも述べた通り、スケジュール編成に無理があったと思う。そのしわ寄せを一般講演(特にショートトーク)が受けたことが非常に残念。ショートトーク(ワークショップに採用された一般講演も)を聞いて、ポスターで詳しい話を聞きたいと思わせる流れこそが重要だと思う。次回以降もショートトーク自体は開催すべきだが、ポスターの説明時間の直前で、かつ、ポスターの列毎に同じ会場で行うといったように工夫が必要。
※ ショートトーク自体の企画はいいと思いますが、時間帯がワークショップと重なっていること、会場が離れている、などの要因で、参加者が少ないので問題でした。
※ ポスターの発表時間を夜にやるのは止めてほしい。遅くとも午後7時には終わってほしい。発表する方も質問する方も大変です。
※ ショートトークのシステムは良いと思うが、関連するシンポジウムと並行しているため、参加出来なかつた。また、場所も良くなかった(隣の声が混じる、場所が分かり難い)と聞いています。
※ ショートトークは、ほぼ演者だけのような状態が続き、しかも、無駄に時間が空いてしまいシステムとしてはよくない。ポスター前で行う従来の方法を改良した方がいいのではないか。
※ 一日の日程が長すぎる。ポスターの後半は、みんな食事に出かけるので人がいない。
※ ショートトークの意味があまりないと思います。
※ スケジュールがタイト。ポスターセッションの時間帯が遅すぎる。
※ ショートトークをしないポスター発表者がいてもマイナスにならないのは改善すべきである。さもなくばショートトークはない方が発表者の負担にならなくてよい。
※ ポスターセッションの時間が遅過ぎる。前半の説明が終わると、さっさとポスターを剥がして帰ってしまう発表者もかなりいた。また、企業ブースの閉鎖後にポスターセッションを行うと、企業ブースに行く人が激減し、協賛企業に迷惑をかけたと思われる。
※ ショートトークは残念な感じでした。人数を絞って時間をもう少し長くした方が良いと思います。口頭発表は特に学生さんには経験してもらった方がいいと思うので学生もしくは若い人は口頭発表 みないなのはどうでしょうか
※ ポスターセッションの時間設定が遅すぎた。
※ ショートトークに必要性は感じられない。ポスターセッションの時間が遅すぎる。
※ ワークショップとショートトークが並行して行われており、会場が離れているので、不便である。
※ ショートトークは、マイクの音量が低すぎて聞こえない。隣のブースとの関係でそうなつたのだと思いますが、これなら、やらないほうが良いと感じました。
※ ショートトーク自体は良い試みである。しかし、今大会では、発表設備が良くなかった。小さいため見難いモニタ、音が反響し、発表が聞き難い会場といった具合に。
※ ショートトーク自体はよいが、実施場所・時間が良くなかった。ワークショップ等と重なっていたし、行きにくい場所になっていて効果が半減。
※ 研究室の学生のポスター発表が3日間に渡った。毎日9時-21時でやるなら勘弁して欲しい。今後、今回のスタイルでやるのなら連番希望登録だけでなく、発表日希望登録もあるべき。
※ ショートトークがシンポジウム・ワークショップと同時並行で行われていたため、参加人数が少なく、誰のために発表しているのかよくわからないような印象もありました。ポスターは発表時間帯に行けば聞けるという気持ちがあるのと、シンポやWSで聞きたい演題があると、そちらを優先してしまうのは当然であり、結果、ショートトークが浮いた存在になっていたのではないですか？
※ ポスター発表の時間をもう少し繰り上げてほしい。統合データベースのデモブース要員として参加したが、ポスターの時間(午後5時以降)はブースの電源を落とされてしまうためせっかく人が集まる時間にデモを行いたくても行えずもったいなかった。
※ ショートトークは、隣の声が聞こえる、スピーカボリュームが小さい、参加者は後に続くスピーカーが大半であり、誰のための、何のためのトークがわからなかった。会場への案内矢印なども少なく、会場も分かりにくい場所であった。「ショートトーク」は続けてもよいかもしれないが、やり方としては、根本的に改善してほしい。
※ ポスター時間が遅すぎて、企業ブースが先に閉まってしまうのは良くない。
※ ショートトークはやる意義が見いだせなかった。全般的に発表のレベルが低く、いわばカオス状態だった。これらは主に参加者側に問題があったが、例えば発表のガイドライン(お手本となるスライドを示すなど)を提示する、モニターをより大きいものにするなど運営側にも工夫の余地はあったと思われる。
※ ショートトークの試みは良いが他のセッションが重なって開催されていて他のセッションへの参加が難しいことがあった。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

- ※ 時間が遅すぎ。あの後 食事に出ると、帰るのが遅くなつて翌日に響く。英語に比重を置きすぎでは。日本人なのだから日本語でも要旨を書くべき(下手な英語を読み書きするよりは)。せっかくオンライン化されているのだから、その方が検索性があがるはず。発表も、最低でもタイトルくらいは日本語を書いておくべき。ショートトークはひどすぎる。いつ誰が発表するのかまったくわからないので聞きに行けない。あれを見に行くならポスターを直接 見に行く。
- ※ 大会の中心となるべきポスター一般演題の説明時間が常に何かとかぶっている編成はあり得ない。同じテーマの発表が毎日あるのも不便。終了時間が遅すぎ。
- ※ シンポジスト、オーガナイザー、座長に女性のプレゼンスが足りなかつた。
- ※ 抄録を印刷しないのであれば、抄録の図表を入れられるようにして、オンラインで見られるようなシステムは難しいのでしょうか？
- ※ ショートトークはあまり意味なかつたかなと。場所が遠い、いつどこでやつているのかわかりにくかつた、しかも演者が現れないことがおおかつた。自身のポスター前でやつた方がよい。
- ※ ショートトークをやるなら、ビデオに撮つて、学会期間中いつでも見れるようにすべきである。個別に仕切られた小部屋で数人の前で話して、何の役に立つか甚だ疑問である。今学会最大の失敗である！！
- ※ ポスター発表の時間が遅すぎる。
- ※ ショートトークのメリットは殆ど全く感じられませんでしたが、時間的な拘束があるため参加出来ないシンポジウムやワークショップがありました。
- ※ ショートトークは今年のような形式だと必要ないと思いました。もう少し人が集まりやすい状況を作らないと、発表の準備や時間が無駄に感じられる。
- ※ ショートトークが重なつて大きなシンポジウムが聞けず、発表しない演者も多かつた。
- ※ ショートトークは、思いつきだけの企画と受け取りました。会場の人数が、見た限り数人のときもありました。企画された方すら、会場にいなかつたのではないか？・ギャラリーもいないのでは、学部生・院生の口頭発表練習にもならない。・3分では何も話せない。義務化せず、希望者のみ実施すれば、一課題あたりの時間は5-10分取れたはず。・集めた膨大な電子ファイルを責任持って廃棄する(できる)のか？・根本的な問題として、「どうせ話すのであれば、よりきちんと話せるオーラルを選択する」のではないでしょうか？
- ※ ショートトークの時間帯はワークショップと重なつており、自分の発表時以外は参加しなかつた。聴衆の数は限られており、他の人も同様だったと思われる。残念ながらこの試みは、成功しなかつた様に思う。
- ※ ショートトーク自体はあってもいいが、シンポジウム、ワークショップの時間と重なるのは問題が多い。演者(だけ)がその時間だけショートトーク会場に行くのでは本来の目的が達成されないので。
- ※ ショートトークそのものは問題ありませんが、あのようなはずれた人気もいない場所でやるのでは意味がないと思います。やるならば生化学会のようにワークショップなどとは重ならない時間帯に設定すべきであると考えます。
- ※ ショートトークは聞いている人が皆無に近く、発表に来ない演者も多数。同じ時間帯に幾つもワークショップがあるのだから当たり前。
- ※ 英語のショートトークはずなのに、結局みんな日本語で発表した、しかも発表者以外にほとんど聞く人がいない。それがあるから、発表者にも他のワークショップに行けなくなつた。ただの時間の無駄だけだ。
- ※ ショートトークは会場の地理的要因もあると思うが、あまり効果的でなかつたように思う。従来のポスターセッションから選出した口頭演題に戻したほうが良い。
- ※ ショートトークは裏でシンポジウムやワークショップがあり、ほとんど聴衆がいなくてよくなかった
- ※ 大きい会場で参加者が少ないワークショップ。小さい会場で参加者が入りきらないワークショップが有つた。聴講したいワークショップが同じ時間帯で開催されていて多く聞くことができなかつた。
- ※ 全体としてゆつたり聴けたのは良かったが、ポスター発表の時間が遅いのが困つた。ショートトークのため、ワークショップが聴けなかつた。
- ※ ショートトークは聞いてくれる人がほとんどおらず、会場も遠かつたので、正直やつた意味はなかつたと思う。
- ※ ショートトーク会場が本会場と離れていたため、積極的に聞きに行こうと思えなかつた。面白い企画だが、問題があつたことは否めない。ポスターについても関連演題をもう少しまとめるなどした方が人も集まり活発な議論ができるのではないかと思う。
- ※ ポスター終了が8時というの遅すぎる。
- ※ ショートトークの必要性が分からなかつた。興味のある似たような分野の演題が全部ばらばらな日程だった。
- ※ ショートトークの試みはいいのだが、多くの人が聞きに来るような状況ではなかつたのが残念。ポスターを一日の最後にもつくる編成は、考え直すべきなのではないか(ポスター発表を軽視しているように感じられる)。ポスター発表時には多くの企業展示ブースが終了しており、見て回ることができなかつた。
- ※ ショートトークに行く隙間が全くなかった。
- ※ 今回の分子生物学会のショートトーク会場本会場から一番離れた場所かつ板一枚のみで仕切られた環境、モニターの大きさ、マイクの音量全てがプレゼンに適していない。ショートトークを継続するならば、きちんとした会場を提供してほしい。ショートトークしたこと、ポスター発表をさいしょから聞かずに質問だけの対応は良かったです
- ※ ショートトークは聞きたかったが、参加できなかつた(口演参加)。
- ※ ショートトーク自体の企画は良い(口頭発表の場がある、関連テーマー連について概観できる)と感じたが、ワークショップと同時刻に開催されたため、興味のある口頭発表と重なつた。プログラム編成に改善を求めていい。
- ※ ショートトークの時間が研究に関連するワークショップ等の時間とかぶつていて残念だった。また、ショートトークの会場(設備)・係員等が良くなかった。ポスター時間も遅すぎたと思う。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

※ short talkはあの形態では全く行なう意味がなかった。short talk自体は大変よいことで次回以降も行なってほしいがやはりポスターの会場内で液晶と小さくてもよいのでスクリーンを用意してポスターに来た人が集まってきて聞くことができるようにしてほしい。今回は場所のメインの会場から遠くはなれており、また時間帯もシンポジウム、WSなどと重なっておりほとんど聞きにいっている人はいない状態であった。
※ ショートトークを欠席する人が結構いたように感じる。また毎年のことだが、所定時間にポスターを貼らない発表者が多数見られた。事前に十分に発表内容を把握してから、要点に絞った質問をしたいと考えているので、ちょっと困る事態です。
※ ショートトーク会場にいる大半の聴衆は自分の発表の順番待ちの人だったので、ショートトークをやる意味が全くなかった。また、ショートトークを行なうために聞いていたワークショップ会場をいったん出てしまう人が多すぎてワークショップ会場に入れなくなってしまった。これらの点から、デメリットが多すぎてメリットが全くないため、ショートトークは次からやらないでほしい。
※ ショートトークの会場が分かりにくい場所にあり、発表者しか来場していないようであった。また、ワークショップなどと並行して行われているので、あまり聞きに行こうとも思わなかった。会場も簡素で、マイクの音量が小さく、最後列では何を話しているのかよくわからなかつた。これでは、発表者の負担が増えるだけで、ショートトークを行う意味がない。また、希望者のみの発表でも良いと思う。
※ ワークショップ＆シンポジウムが、一日を通して行われたため、ポスター発表会場での盛り上がりが感じられなかつた。また、発表のコアタイムも各日遅い時間に設定されており、発表者が期待するほどの議論などはできなかつたのではなかつたか？少なくとも私はそう感じた。特に1・2日目に関しては、夕食時間帯とコアタイムが重なつたため、ポスター会場を早々に引き上げる参加者も多かつたように思えた。もしこの方式で行うなら、容易に外に出られないような会場に缶詰になつてでないと難しいと思う。でも、この規模ではそれも甚だ難しいか。
※ ポスターで使う言語を英語で統一するのは、果たして意味ある事だろうか？日英併記で良いと思う。ポスター発表の時間を遅くした事は、便利な点と不便な点の両方を感じた。いっその事、ポスター発表の時間を1日に2度設けるのは、どうだろうか。
※ ポスター発表の時間が遅すぎた。
※ ショートトークの企画はよかつたが、ポスター会場と同一建物にも関わらず、あまりにも遠く、場所がわかりにくかつた。また、人によつてはスライドの字が小さすぎて全然見えなかつたため、ある程度字の大きさの目安を伝えた方がよかつたのではないか。
※ ポスター発表の時間がよくない
※ ポスター発表にショートトークは不要だと思う
※ 同じ分野のポスターは一日にまとめてよいのでは？自分のポスターのショートトークと自分に近い分野のワークショップが同じ時間だったのが残念だった（調整するのは難しいことだと理解していますが、それにしても）。
※ ポスター発表の時間が遅すぎる。今後変更してほしい
※ ショートトークを取り入れたのは評価できるが、忙しない感じがした。3分前後は許容範囲にして欲しい。強制的に次に移るのは少し疑問が残つた。
※ 話す時間が短い。演者以外が見に来ない。
※ ポスター・ショートトーク会場が離れていて、ワークショップ等と時間がかぶっているので参加が難しい。また、ポスター会場に行く頃には企業ブースが終了していたりするので、8時過ぎまでという時間設定は改善すべきかもしれない感じた。
※ プログラム編成・日程振り分け等については特になし。「ポスターからワークショップに採択されるシステムがよかつた」が、それならば、全日程参加できない会員に考慮して、1・2日目のポスターから3・4日目のワークショップ発表があるという方が良かったかもしれない。
※ 時間が遅すぎる。ショートトークをワークショップの建物でやらないと閑散とする。フォーラムとポスターセッションの時間をかぶせるべきではない。ワークショップの時間を削ってポスターセッションの枠を早い時間に移すべき。
※ ショートトークの意図は良かったが、聴衆が限られており、機能していなかつたのは残念。
※ ショートトークは質問時間もなく、意味がないのでやめるべき。何のためなのか分からない。
※ ショートトークの会場がわかりにくかつた。ポスター会場にショートトーク会場への行き方を示した方が良かった。
※ ポスターのショートトークのやり方は無理があつたと思う。（いたのは前後の演者、共同研究者がほとんどだったのでは？）
※ ポスター発表時間が遅すぎる。発表を聞く聴衆が例年より少なかつた。
※ ショートトークは直近の発表者数名が聴いているのみで、有意義とは感じられなかつた。ポスター発表とワークショップのテーマが同日であることが多いため、自分の関連分野ワークショップを聞きたくても、ショートトーク発表のため聞けないという人が多かつた。
※ ショートトーク自体は評価するが、場所がものすごく端っこだったことと、隣の声が響いて聞きたい話が聞けないような会場は不満だった。やるならしっかりと小さめの部屋を設けてやるべき。
※ ショートトークの時間がシンポジウムの時間と重なつたのが残念であった。また、個室でなく衝立て区切られた会場では周囲の音がうるさく、とても集中できる環境ではなかつた。次年度以降はショートトークを廃止して欲しい。
※ 自分のショートトークと聞きたいワークショップが重なり、聞けなかつたのが不満。ショートトーク発表時、自分の声の反響が聞こえず、声が出ているのか分からず、発表しづらかつた。
※ ポスターがテーマが縦割りなのが非常に良かったので、来年以降も是非継続してほしい
※ ショートトークは特によくない。メイン会場から離れ過ぎていたうえに時間配分も不適切だった。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

※ ショートトークの2番ブースのマイクの音量が小さく(集音能力が低い)、何度係が来られて工夫してもよくならなかった。逆に、他のブースからの音量が大きすぎて困った。このくらいの距離で各ブース設定するのであれば、各ブースの音響設定を適切化する必要があると思います。また、2番ブースには、女性の進行係?が2人おられましたが、すぐそばのマイクのケア(集音能力のないマイクの方向や高さのケアなど)をすべきであるのに、全くされていませんでした。アルバイトの方々かとは思いますが、仕事内容の教育がされていなかつたように思います。
※ ショートトークの聴講人数が少ない
※ •Q6とも関係するが、発表の機会を作ったはずのショートトークのスケジュールが分かりづらく、しかも会場が他の口演会場から離れていたので、参加者が演者ぐらいしかいなかつたと聞いた。•ポスター・展示会場が離れていて、しかも日中は口演、夕刻からポスターだったので、会場に行く頃には展示が閉まっている、というのは不都合であった。展示に用事がある場合、わざわざそこに昼間出かける必要があった(展示側も不満があると聞いた)。
※ 終了時間(20:10)がちょっと遅いと感じた。また、分子生物学会・最終日のポスター発表・後半と生化学会のシンポジウムが重なっていたため、ポスター発表・後半に参加できなかつた。
※ ショートトークがシンポジウムorワークショップとかぶっているのであまり行く気がしなかつた。別の形態を模索すべきと思う。
※ ポスター前でのディスカッション時間があるのに、ベルトコンベア方式の流れ作業的なショートトークがある意味がわからなかつた。
※ ショートトークは順番を待つ演者しか聞いていなかつた。また、シンポジウムの途中に抜け出し、ショートトークを行うのは無意味である。
※ ショートトークを実施するのは良いが、大きな部屋を仕切って実施するのは辞めて欲しい。マイクの音声が聞き取りにくいし、他のセッションの音と重なつてしまい、不快にさえ思えた。
※ ショートトークの部屋が板で仕切られているのみの部屋で、雑音が多く集中して聞くことができない。セッションと平行した時間帯にショートトークを行つても、セッションを優先する場合が多く必要があるのか疑問。ショートトークの欠席者も多く見受けられた。
※ ワークショップが英語である必要性が感じられない。英語であるために、指導教員が代わりに発表している演題も見受けられた。ショートトークも必要性が感じられない。ショートトークは、希望者のみにしてはどうか?
※ ショートトークが思いの外良かったのでワークショップと同じ時間に行われているのはもったいない。できればポスター発表はもう少し早い時間にしてほしい。
※ ショートトークは必要性が感じられなかつた。
※ ショートトークとワークショップの時間が重なつていて、かつ場所が遠いのでショートトークに人が来ないのがよくない。あの形ならいいと思う。ワークショップの採択に関しては、ワークショップのタイトルだけから判断すると、自分の発表を出してよいのかよく分からなかつた。
※ 前の質問と同じ
※ ショートトークのコンセプトはとてもいいと思う。あらかじめ、ショートトークの時間割の配布が必要である。ショートトークが時間通りに進行しなかつた。進行が早すぎて、行つたら終わっていた。持ち時間に対して許されたスライドの枚数が少なかつた(内容2枚)ので、みんな早く終わつてしまつたのだと思う。会場は、ポスター会場の隣などにし、わざわざ足を運ばなくていい場所が好ましい。
※ ショートトークがワークショップと平行しておこなわれ、参加者も少なかつたように思われます。ポスターの場所での発表でよいと思います。
※ 自分のショートトークと聞きたいワークショップが重なつて、聞くことが出来なかつた。ショートトークには聞きに来る人もほとんどないし、すっぽかず演者もいて時間とスペースの無駄だと思う。本当にやるならば、ショートトークは他のセッションと別にやるべきで、それが出来ないならやらない方がました。
※ ショートトークは人の入りも良くなかったし、不要のように思われる。聴く側としてはポスターに直接行くので充分。発表する側も労力をかけて聞く人が少ないので割に合わないと思う。
※ ショートトークはお客様がゼロでした。わたしの前後で多くの演者が現れませんでした。
※ ポスターの時間が遅すぎた。学会は会場以外での親睦会、ディスカッションも魅力だと思うので、あまり遅い時間にするのはどうかと思う。
※ ショートトークの時間とワークショップの時間がなるべく被らないようにしたほうが良かった。(聞きに来る方が少ない)
※ ショートトークの場所が非常に行きにくい場所で見に来る人も少なく、行うメリットがあるか疑問であった。「若手にも口頭発表の場を設けたい」という目的であれば分子生物学会以外でもそのような機会はあるわけで、本年会のような中途半端な形でやる必要はないと思う(その点で、ポスターからワークショップに採用するシステムはよかつたと思う)。また、「参加者がポスターの概要を短時間で把握できるようにしたい」という目的であれば、ショートトークの場所をもう少し良い位置にしないと、人が来ないため意味がないと思う。要旨を2, 3枚にまとめたPDFをオンラインプログラム上に公開するなどで代用可能と思う。
※ ワークショップが多すぎ。ポスターの発表にもっと時間を割いたほうがいい。
※ 一般発表(ポスター発表、ショートトーク)を軽んじ過ぎている。シンポジスト、ワークショップ講演を重要視しているようであるが、学会、あるいは分子生物学分野を支えているのは院生を含めた一般参加者であり、ショートトークの会場設定や、初日にonlineシステムにショートトークが掲載されていなかつた点などは、運営側が明らかに一般発表を軽んじていた現れであり、そのような人たちが今後の学会を率いていくのであれば、お先真っ暗と言わざるを得ない。猛省を促したい。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

- ※ ショートトークの問題は以下の3点です。1)ワークショップなどと同時平行して行われた。2)会場がシンポジウム会場から遠かった。(近くで出来れば良いのですが)3)防音が不十分で周囲の声が邪魔だった。しかし、隣接した研究内容が近いポスターをまとめて、短時間で聞ける点は良かったです。これはもう少し練ればより良い企画になり得ると思います。ワークショップの内容がポスターでも発表されたことは優れた点だと思います。後から質問が出来たり、深い話が出来ました。是非、今後も続けて欲しいと思います。全体にはポスターの時間が短かったと思います。もう少しポスターに時間配分出来ると良いと思います。
- ※ ショートトークの会場をほかのトークの会場の近くにすべきと思いました。
- ※ ショートトークは必要ないかと思われた。存続する場合、もっとわかりやすく人を集めめるような形態にすべきかと。(画面が小さくて見にくい、会場が狭い 等)
- ※ ショートトークをやる場所がパーティションで仕切られているだけなので、隣のブースの音とかが入ってきて、ショートトークが聞き取りづらかった。
- ※ ポスタートークの時間が遅すぎる。ショートトークは短すぎてまったく参考にならない。発表者も聞き手も不満が残るだけなので止めた方がよい。
- ※ ポスター発表の時間が遅すぎるように感じた。奇数番号の1時間にはぎわっていたが、その後の偶数番号では人も減り、ポスターをはがして帰る演者も多かった。また、20時15分まで発表を行った後、ポスターの前でホッとしていると、学会運営関係者(?)がポスターの番号を控えてポスター板に番号を貼付したので、なぜかと尋ねると「この時間に発表していない番号を控えています」と不愉快な態度で返答された。人が少なく寂しい中でも聴講者に制限時間まで発表を行っていたにも関わらずこのような扱いを受けたのは非常に不愉快であった。
- ※ ショートトークの会場が騒がしく、演者の声が聞こえなかった。
- ※ ポスターの時間帯を少なくとも1時間ははやめたほうがよい。
- ※ ショートトークはかなり不評です。発表者以外に参加者がいない。欠席の発表者がいる。シンポジウムやワークショップの参加できない、等の理由です。次回から無くすか、参加者が自然と興味を持って増えるための何らかの工夫が必要と思います。
- ※ ショートトークが手間がかかったわりに会場で聞き取りにくく、あまり意味が無かった。ポスター発表の会場とオーラルの会場とが離れすぎていて、移動に疲れた。
- ※ ショートトークの試み(アディア)はとても良かったが、開催場所が適切でなかった。ワークショップ等の行われているメイン会場で行われるべき。
- ※ 他と時間がかぶった企画は極力避けるべきです。一人一回しゃべればいいのでは。
- ※ 自分のショートトークと聞きたいワークショップの時間が重なって聞きにいけなかった。同じカテゴリーのショートトークとワークショップは時間をずらしてほしい。
- ※ ショートトークの画面が小さくてわかりにくい
- ※ ショートトークの会場は、バーションで仕切られているだけでうるさく、質疑応答もないでの、若い研究者にとって発表の練習になつたのかどうかは疑問が残った。
- ※ ショートトークはこの規模の学会では不要。一般演題の時間ももっと早い時間にやるべき。
- ※ ショートトークのマイクが音が小さく(さらに隣の会場の音が大きく)、演者の方の声が聞こえないのが残念でした。会場が遠かったことで、参加人数もすくなかったのがもったいないと思いました。あそこまで細分化しない方が、もっといろんな発表を、時間が重なることもなく聞けるのでありがたいです。
- ※ ショートトークが他のシンポジウムやワークショップと重なっており、基本的に演者以外は会場にいなかったと思われる所以、改善の余地があると思う。
- ※ ショートトークの聴衆のほとんどは、発表時間の近い演者であり、ポスター発表と別の時間にわざわざ行う必要性を全く感じなかつた。ショートトークの間に聴きたかったシンポジウムに出席することもできなかつたので、今後は廃止していただきたい。
- ※ ポスターと時間がかぶってしまうスケジュールが一部不満でした。
- ※ 日本語のワークショップを増やしてほしいです。
- ※ ショートトークの間、聞きたい演題の場所から遠く離れた場所にいき、そこからまた戻らないといけない。3分の発表をわざわざ聞きに行くくらいなら、事前に好きな時間に、ポスター・チェックができる方がよい。発表も、議論の時間がなく、聴衆から反応もえられないので、なんのためにやっているのかわからない。デメリットが多すぎて、絶対にやめたほうがいい。断固反対。
- ※ 開始が火曜の朝からだと月曜日夜に移動することになり、宿泊費などのことを考えると不適切だと思う。地元の経済には良いことかと思うが、
- ※ ショートトークは必要ない。壮大なお金と時間の無駄遣い。
- ※ ショートトークは非常に良い試みだと思いましたが、もう少し目立つ形で行えればもっと良かったと思います。
- ※ 今回のポスター・ショートトークの運営手法は根本的に間違っている気がする。発表日は異なるがテーマが近い人を同じ会場に集めないと意味がない。あと、全員ではなく、もっと選抜して大きな会場でショートトークをさせるべき。
- ※ 今回のショートトークに関しては色々と実験的側面が強かったと思うが、発表会場の位置的問題、発表時間の短さなどから、多くの発表において前後の発表者ならびに発表者の関係者のみが見学するという閑散な状況を多々見かけた。口頭発表の機会を、特に学生や院生など若年の研究者に与えられる場としては今回の企画を評価するが、発表会場へのアクセスをより良くする、また、全員参加ではなく希望者のみまたは何らかの基準を持った選定など、ある程度の削減を行うなど、改善すべき点は多々あると思う。
- ※ 各テーマのポスターが毎日あることで、興味のあるポスターが日程の都合上見れなかつた。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

※ ポスター発表の時間帯が遅く、終了時刻には会場から駅へ向かうバスが無いため不便に感じた。ショートトークは、場所・時間帯ともに問題があり、ほとんど意味がなかったと思う。
※ ピンキリのイメージが強く、得るものもあるが、時間を無駄にしてしまう感も否めない。
※ 参加しなかったので、よくわかりません。
※ ワークショップから採択されたなかにおもしろい話が多かったです。でも、もっと聞きたいポスターはありました。
※ ワークショップと同じ時間なので、ショートトークは聞けません。ポスターの発表時間が午後8時過ぎまでというのは遅すぎます。帰ってしまう人も多いので、終了時間をもう少し早めるべき。ワークショップをもう少し絞って短くしても良かったと思います。
※ 他の参加者も同様の意見が聞かれましたが、ショートトーク会場は場所が遠すぎて、ワークショップとの行き来がすばやく、関係者と発表者以外は事実上聞きに行けない状況だったように感じます。ですが、自身のポスター発表時間帯と同一日、同一時間帯の方の発表をまとめて聞ける点、若手でも発表の機会を提供する点は大きく賛同できますし、助かりました。
※ ショートトークとワークショップの会場が遠いので、わざわざ3分間のトークを聞きに行くためにワークショップを中断して聴きに行く感じにならなかった。そのため会場に人が少なくてなんとか盛り上がり難いし、しかもショートトーク会場もパーテーションで仕切っているだけだと隣の声が漏れて聞きにくく、モニター小さくて字が見えないし、3分だと結局内容を理解するには短くて不十分な感じなので、形式を変えないのであればやらない方がいいと思う。ポスターと別に資料を用意するのも手間だったし…。日程や会場に対する配慮がないならば、もうやめた方がいいと思う。
※ ショートトークとワークショップ等がパラレルに開催されたことに不満が残る。ショートトーク会場が遠かったため、特にワークショップへ参加しにくかった。
※ ショートトークのコンセプトは良かったが、会場が遠く、発表者以外はほとんど来なかつたのではないだろうか。
※ ショートトークは趣旨に問題がある。3分間という時間でどれだけのことを伝えられるのか。ワークショップと並行させるとショートトークでの情報選択を包括的に行なうことは非効率的。今回の実施場所は非常に奥まったところで人が集まりにくい。事実、ショートトーク会場は活気がなかった。シンポジウム、ワークショップの時間とずらして行なうほど、年会の時間には余裕はないので、ショートトークの存在には大変疑問が残る。ただ、ポスター発表についての情報収集の効率性を良くする企画の存在は必要だと考える。具体的な妙案はない。
※ 同じ分野のポスター発表は、せめて2日間ぐらいにしてほしい。
※ ショートトークはやめて、ポスターに集中させた方がよかったです。ポスターで質問していたら、発表者のショートトークの時間のため、ディスカッションを切り上げざるを得なかった。ポスターには個人的に深い議論ができる利点があるので、それを最大限に生かすべきだろう。
※ ポスター発表者のショートトークは聞きに行きませんでした。申上げるまでもなく、「ポスター発表」は、「発表者がポスターの前で話す」のが、発表者にとっても聴衆にとっても、最良のかたち と思います。
※ ポスターセッションが遅すぎた。ショートトークの場所が遠すぎた。
※ ショートトークは要らないと思った
※ ポスターからワークショップに採択された場合は、ポスターは免除するべきだと考えます。準備の負担が大きくなりすぎるよう思いました。
※ 予想どおりショートトークが罰ゲームに感じられました。
※ ポスター発表が午後6時から遅く、かなりの数の人がポスター発表に参加せず、帰ってしまったようで、会場が閑散としていました。今のままだと大半のポスター発表をする参加者には、あまりメリットのない学会となりそうです。ショートトークは聞いているのが、その後にショートトークを行う人たちだけだったので、ほとんど意味がないと思います。
※ ショートトークの目的が定かでなかった。
※ 今回のような形だけのショートトークは無意味。こんな発表なら、わざわざ準備に時間を割くのがもったいないし、しない方がマシと感じた。リクルートブースでやればよかつたのでは？！特に不満だった点・足を運びたくないなるくらい遠く・他ブースとの音が干渉し発表が聞き取りづらい・スライド映写画面が小さすぎて何が書かれているかわからない・ワークショップ・シンポジウム会場から遠い（聴きたい発表が聴けなかった）
※ ショートトークは盛り上がっていなかった。発表者と同じラボの人しか聞きにきていないかった。
※ ●ショートトーク会場の場所がわかりにくいし、案内も良くない。●屋根裏のような場所で、馬鹿にされた感じがする。●枚数に制限があるのでアニメーションが使いたいが、pdfに変換しているために使えない。●聴衆が少ないため、意義が認められない。
※ ショートトークはワークショップ・シンポジウムと時間が重なっていることもあり、有効に機能していなかった。
※ ポスターセッションの時間が遅い。
※ ポスターのディスカッションは昼にやってほしかった。
※ フォーラムがポスターセッションと被っていたのが良くなかった。
※ ポスター発表の時間が遅すぎた。(発表者を含めた)参加者が食事に行ってしまい、議論できない場合があった。また、ショートトークは画面が予想以上に小さく、マイクも入っているのか分かりづらかった。そもそも、ショートトークを誰も聞いていないし、自分も他人の発表は一切聞いていない。
※ ショートトークが午前中の場合、ポスターが夕方であるため、それまでの時間の有効活用に困った。また、ショートトークの場所がうるさくて聞き取りにくく、また聴衆のほとんどは発表者の関係者であり、効果的に機能しているとはいえないと思った。それぞれのセッションを個別の部屋に設定し、隣の発表が聞こえないよう配慮が必要である。また、時間設定はポスターセッションの直前などにした方が質問などもしやすくてよいと思う。ポスターセッションの時間は遅すぎると思う。耐久レース(我慢会)である。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

※ ショートトークは場所、時間帯、やり方など問題が多いと思われる。
※ ショートトークは意味不明だった。ターゲット、目的が不明確。たしかに発生学会では良い感じだったが、分生の規模を考えよう。年会長の暴走を誰も止めることができなかつたのは残念。まわりにストップをかけられる人を配置するべき。ガンガン行く人だから(良い意味で)、うまい具合に手綱を絞れる騎手がいたら最高だったんだけど、なかなか難しいですね。ショートトークは英語を推奨するのかしないのか、インコンシスティント。
※ ショートトーク会場がポスター会場の奥深くで、発表するにも発表を聞くにも大変だと思いました。今回のようなショートトークをするのであれば、ショートトーク会場は一般的な講演会場のごく近くに配置するべきだと思います。
※ 質疑応答するショートトークの必要性を感じない。ショートトークのためにシンポジウムやワークショップに参加できない時間が生じることに非常に不満を感じた。
※ the distance between the short talks and the workshops meant having to miss short talks I would otherwise have attended.
※ ショートトークは、私たち学生に口頭発表のチャンスを与えてくださったということで、非常にありがたいことだと思いました。ただ、並行して、シンポジウムやワークショップがあると、そちらを聞きに行かれる方が大半だと思うので、そういう意味では、発表者以外の皆さんにとって、どれくらい役に立ったのかは、わからんと思います。
※ ポスター時間が夜に押し込まれ、シニアの先生方から十分にポスターをみていただく機会が奪われているような気がします。すべての世代が気持ちよくポスター発表に集い、演者と議論する機会を積極的に作っていただきますよう、ご配慮をお願いします。
※ ショートトークは場所が奥まつっていて良くなかったと思う。来場者が自然と通る場所など、わざわざ見に行く必要がないように会場を設置した方がいいと思う。場所は悪かったが、交流の輪が広がり新たな知見を得られる可能性が上がるという意味では宣伝効果抜群の企画であり、有意義だったと思う。
※ ポスター発表の時間が遅すぎて、子連れ参加の者はとても聴きに行けなかった
※ 最終日のショートトークはワークショップの時間帯と重なっており、ワークショップを途中退出して、ショートトーク発表せねばならなかつたのでとても非効率であったとおもわれます。そのためかショートトーク参加者が非常に少なく、タイムキーパーの方、案内の方など学会運営の方しか聴衆がいない会場もありました。時間帯などに配慮したものにしていただきたいです。
※ ショートトークからポスターまでの時間が長く、興味のあるセッション続かない場合、非常に時間をもてあります。
※ ショートトークが、他のセッションと同時進行であり、聞きに行くこと自体に無理があった。
※ 関連のワークショップと同時進行でショートトークが行われているため、ポスター発表の学生がワークショップを聞いて勉強できないとともに、ショートトークをわざわざ聞きにいく人も少なく発表の準備が大変な割にメリットがあったか疑問。
※ ポスター発表の時間が遅すぎたのではないかと思った。ポスター発表が終わる時間にはバスが無くなつており不便だったので、もう少し早い時間にした方が良かったと思う。
※ 4日目昼からの参加なので聞いていない
※ ワークショップ採択システムが良い。
※ 関連演題が、異なるセッションに分類されており、連続して聞いたり見たりできないのが不便。ショートトークの目的が不明。会場もわかりにくく、分散しそう。時間帯も講演時間と重複のため、何をしたいのかますますわかりにくい。
※ ショートトークは不要。
※ ショートトークは不要だと思う。ショートトークの画面が小さすぎて、会場もせまく、何より聴衆が少なすぎた。自分たちのような弱小地方大学では、決して若くはないパーマネントの教員が自らポスター発表をしないといけないことが多いが、若手に混ざってポスター発表をやるのは正直悲しい。学会側で「ポスター発表は、ポスドクまでに限る」とか、年齢制限をつけてほしい。ワークショップ発表者がポスターもやるのは別にいいと思うが。
※ ポスターとショートトーク会場がシンポジウム・ワークショップ会場から離れて不便であった。
※ ポスター会場が講演会場と離れており、ショートトークの場所はわかりにくかった。ショートトーク自体は、短時間に多くのポスターの要旨を理解することができたのでよかったですに、場所の不便さが残念だった。
※ ポスターの時間が遅かった。
※ ショートトークの意義づけがはつきりせず、ショートトークは朝早くてポスターは夜遅く時間拘束が長く不満であった。ポスター発表時には座長がディスカッションを盛んにさせる方がよい。
※ ショートトークを聞きたかったが、場所や特にプログラムがわからず、計画をたてられなかつたのが残念である。ポスターの時間帯をもう少し早くして、もうすこし早い時間帯に終わるようにしてほしい。ポスター会場内に座って話ができたり、お茶をのめるスペースがほしい。
※ ポスター発表終了の時間が遅すぎるため、その後の交流が難しい。
※ ポスター発表の討論時間が終了するのが遅すぎる。18時程度には、全てのプログラムが終了するようにするべき。
※ ポスターセッションを最後にあってくると聴衆の数がかなり減ってしまうと思われた。実際、ポスターセッションの前に帰つてしまふ人を多く見かけた。ショートトークは不要に思われる。参加聴衆もかなり少なく、発表時間も短すぎす気がした。
※ ポスターセッションを最後にあってくると聴衆の数がかなり減ってしまうと思われた。実際、ポスターセッションの前に帰つてしまふ人を多く見かけた。ショートトークは不要に思われる。参加聴衆もかなり少なく、発表時間も短すぎす気がした。
※ ポスターの後半になると参加者がかなり減った印象がある。食事の時間などを考えるとポスター発表の時間は遅すぎるのでないかと思った。また、ショートトークの宣伝が足りないのでなかつたかと思う。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

- ※ ショートトーク自体はあってもよいが、今回は時間帯、場所ともよくなかった。ポスター会場に隣接している必要がある。他のプログラムの進行中に行ったのはよくない。
- ※ ショートトーク自体は行なってもいいとは思うが、ポスターセッション開始までに時間がかかりすぎる。次に行うなら会場の数を増やして早めに終わらせることができるようにしておくべき。
- ※ ポスターの終了が遅かった
- ※ ショートトークはよくある方式だが、もっときちんとした形にすべきだった。今回のように「口頭の場所とポスターが離れているから、ポスターの中で注目するものを探す為に口頭発表の会場の一部でショートトークをやる」なら意味があったが、もともと場所もポスター会場の近くでしかもワークショップと重ねて裏番組として進行するのでは、存在意義がなかった。また全体的にポスター発表が軽んじられてる印象が強かった。業者のブースが終わってしまってからポスターが始まるというのも最悪だった。
- ※ ショートトークは時間帯や場所を改良しないと今回のような形式では全く意味がない。ワークショップと重なっている上に会場が離れていれば、ショートトーク発表する人しかブースにいないという状況がおこるのは容易に想像できたはず。ショートトーク会場の場所もわかりにくかったし、係員も人によって言う事が違うので大変だった(受付にいければ受付はいらないと言われ(冊子にはいらないと記載があったので問題ない)、ブースに行けば受付をしてこいと言われ(再び受け付けに行くはめになったがそちらで再び必要ないと言われ)、演者席に座ればタイムキーパーから受付したかと聞かれいいかげんにしろ！！！状態)。
- ※ 今回、ワークショップとして「Infection Biology」を企画しました。「感染、炎症、免疫」は、表裏一体であり、プログラムのカテゴリーとして、Infection Biologyをもっけて、そのなかで、感染、炎症、免疫をディスカッションするのは如何でしょうか？ 感染現象のカテゴリーも多くなってきたことですし、再編をよろしくお願い致します。 北里大学大学院感染制御科学府・細菌感染制御学研究室 阿部章夫
- ※ 特に聞きたかったワークショップの発表講演の時間に、自分のショートトークの時間が重なり、しかも実際にポスターの場にショートトークを見ててくれた人は皆無だったので、自分としてはショートトークの意味は全くなかった。むしろ迷惑なので、来年からはショートトークはなしにしてほしい。
- ※ プログラムが全体的に盛りだくさんで非常に充実していたのはとても良かったと思います。ただ一方でポスター発表等が夜にまでかかってしまうなどの点がこれまでと異なり、若干馴染みの無さを感じました。ただ海外の学会では遅くまでセッションがあるものも多いので、大きな問題ではないかもしれません。夜遅めのセッションでは、参加が義務付けられるようなタイプの物はあまり入れないほうが良いかもしれません。(そうするとみんな早く帰ってしまうかもしれませんか)あと、ポスター発表の時間帯と企業展示の時間帯はかぶるようにしたほうがよいという意見を多く耳にしました。
- ※ 20時過ぎまで開催されているのはかなり体にこたえます。特に交通の便が悪い今回の会場では終わった後が困る。
- ※ せっかくのショートトークがワークショップと重なって聞けなかった(今回は滞在日数が少なかったせいもあるが)。ワークショップよりも一般発表をメインにするのが本来の学会の姿のはずなので、ちょっと残念であった。
- ※ ショートトークは最悪だった。演者以外の観客が少ないので発表してもつまらない、音声が小さくて聞き取りにくい(大きくすると、隣のブースと音が被るので大きくできない)、場所が遠い、ITでの検索でショートトークがでてこない、3分という短い時間で演題説明がベルトコンベア式に流れしていくので聞いていてもつまらない。
- ※ ショートトークそのものは良い試みだと思うが、会場に人が集まらない。ショートトークを学会期間中、ネットで配信してくれれば、好きな時に気になる発表の概要を確認出来てとても便利だと思う。質問を受け付けない事、発表の概要紹介という趣旨からすると、セキュリティさえしっかりしていれば、ネット配信の方が効果的であると思う。
- ※ ポスター発表時刻が遅すぎる。観客が例年よりも少なく感じた。
- ※ ショートトークは聞きました。シンポジウムやワークショップを優先してしまったので。
- ※ ショートトークはワークショップと重なっており、わざわざ聞くのは非常に少数。張り逃げを防止する手段として考えたのでしょうか？なお、プログラムは、初日と最終日に興味のある発表が集中していた。
- ※ ショートトークの企画はいいと思うが、ショートトークの会場が孤立していて行きにくかった。また、シンポジウムなどと時間が完全にかぶっており、よほどのことがないと聞くことができない。せっかくの発表がもったいない。せめて会場が近ければ、空き時間に気軽に聞きにいくことが出来たように思う。私は、一般演題で発表したが、ショートトークの時間が昼のランチョンセミナーとかぶっており、誰が聞きに来るのだろう…？といった印象だった。会場の位置とスケジュールの改善を希望したい。
- ※ ショートトーク会場が孤立しすぎていて不便であり、シンポジウム等と時間が重なっていることもあり、発表をわざわざききに行く人がいるとは思えない。単なる義務的なイベントになっていたように思う。どうせならばポスター発表時にポスター会場内的一角で行なうなど、ポスターに感心を持ってきている人がすぐにきけるような状況でやるべきではないだろうか。
- ※ ショートトークの一部とはいって、会場をついたてで仕切ったリクルートブースのような場所での発表は良くない印象を持ちました。
- ※ ショートトークは意味がないと思います。
- ※ ショートトークのプログラムが当初無かったのはよくなかった。場所もよくわからなかった。
- ※ ショートトークの発表会場の音響設備が悪く、声が良く聞こえなかった。
- ※ ポスターのショートトークがあってもワークショップと同じ時間帯にあるため、聞きにいけなかった。なので、ショートトークの必要性がそこまで感じられなかった。
- ※ ポスター開始時間が遅すぎ。

## 質問9 一般演題について <複数回答可> (その他)

※ ショートトークの必要性を全く感じない。新しいことをやるにしてもアンケートか何のためにやるのかをこちらへ明確に示す必要がある。來た人もまばらであり、來年以降の廃止を強く求める。またあった場合でも参加はしないつもりだ。
※ 今回のショートトークでは、意味がないように思う。要旨で十分では？またIT化ということにこだわるのならビデオレターのようにしてアクセスするという方法で十分ではないか？
※ ポスターセッションの時間帯が良くなかった。
※ マイクの調子がいい人と悪い人の差が激しかった。
※ ワークショップが多すぎる。ショートトークの会場が遠く、ワークショップと同時に開いたため発表者以外聴衆がいない。
※ ショートトークに関して説明が少ないように思いました。発表者の声が聞こえなかったり大きかったりまちまちでした。また、他のセッションの発表者の声が聞こえるのはあまりよい印象を受けませんでした。表紙を入れて3枚は少ないと思います。スクリーンが小さく発表が見にくかったです。
※ あまりにも短いトークでは、討論も十分できないと思います。
※ ポスターの説明開始時間が遅すぎた。またショートトークはあまり機能していないようだった。
※ ショートトークの発表は義務化した方が良い。あるいは、ショートトークの希望をワークショップ同様に取り、発表したい人だけに絞るべき。ショートトークの発表者が会場に来ないために発表がキャンセルされていることが多い印象を受け、興味をもって聞きに来てくれた方の時間が無駄になる。また、他のショートトークブースの発表者の声が混ざってしまう会場も良くなかった。
※ ポスターのみがよい
※ ポスターの発表時間が遅く、例年より参加者が減っているように見えた。例年であれば、ポスター発表が終わったあとでも関西圏、関東圏の発表者は帰ることができたはずであるが、今回の時間割では宿泊せざるを得ない方々も居たと思われる。ショートトークについては意義は認めるが、会場が離れていたため参加者が少なく、せっかくの機会が生かし切れていないと思われる。
※ 総会や年会長主催懇親会が、ポスター討論時間と重なっているのは、よくない。
※ ショートトーク会場が非常に分かりにくく、ワークショップ会場と離れていたためにほとんど聞くことが出来なかつた。・ワークショップテーマが細分化され過ぎ、一般演題から希望できるものがなかつた。
※ ショートトークの場所が遠すぎる。ポスターの時間を早くに開始してほしい。終了20時はきつい。
※ ショートトークの形式についての詳細な説明(特に画面が非常に小さい液晶での発表になること)が事前にあるとよかったです。また、発表場所がわかりにくいことや、誰のショートトークがいつあるのかが事前配布のプログラムに盛り込まれていないので、企画側に相当の労力がかかったわりには、効果が少なかつたと思う。この形式で発表して、どれだけのことを伝えられるのか不安にも感じた。
※ 会場の都合かもしれませんのが、ショートトークの会場がポスター会場や口頭発表の会場から隔離されており、わざわざショートトークを聞きに行こうという気分になれませんでした。会場を近くする、あるいはテーマの近いワークショップ・シンポジウムと繋げて同じ会場で開催する、などすれば興味を持つ人も増えるのではないかでしょうか。
※ ショートトークの企画は良いと思いますが、ショートトークの時間とシンポジウム、ワークショップの時間が重なることがあります、この問題をなるべく避けられたら良いかと思います。
※ ポスター会場が離れていて物理的に不便でした。その代わり、広さ的(ポスターの前後間隔)は十分でした。
※ ショートトークは、不特定多数の人に発表できるものと想像して参加した(ポスター会場の一角で発表するのかと思った)。実際は、会場は小さく区切られたスペースで、モニターは小さいし、隣のブースのマイクの声も聞こえてくるので、聴いていてもよく分からなかつた。ショートトークとポスターと2重に発表準備をするのも大変。
※ ポスターはなかなか沢山見ることができない。ショートトークのような物を事前に録画して、学会前に見ることができるようにしておくなど、工夫があった方が良い。
※ 生化学会と分離した意味がつたわらなかつた。
※ ショートトークが終わったら勝手にポスターを剥がして帰ってるひとを何人かみた。開始時間が遅いため、疲れて見る気がしない日もあった。会場の大きさに制限があるとおもいますが、全日程もしくは、2日連続でポスターを貼り続けた方が絶対にいいと思います。
※ ポスターと他のセッションが並行して進むため、ポスター会場での議論に集中できなかつた。
※ 日程振り分けについて、もう少し早く行ってほしい。旅費が制限されているので、飛行機利用の場合、早い方が安くチケットを購入できるので。ショートトークはあっても良いが、こちらも早く日程を示してほしい。
※ ShortTalk自体は非常に発表の機会が増えるので次年度以降もお願いします。★問題点:会場のアクセスの悪さは、発表者も聴講者側も迷惑の域でした。アクセスの良い場所でお願いします。RIKEN RNA 2012(6月神戸開催)では、中の発表が、外の待合室や休憩Roomでリアルビデオ中継がされており、珈琲片手に他のMemberとディスカッションしながら気分転換を兼ねながら気楽に聴講できたので非常に良かったです。
※ 何であんな遅い時間にポスター発表なの？飲み会に行けないではないですか。また、企業ブースが閉じた後にポスター会場に人が集まるような設定は、企業にとって最悪だったのではと想像されます。ショートトークのせいでしょうか。

## 質問10 高校生の発表について（その他）

※ 1のよかったです、だけど記述したいので4のその他をチェックロ頭発表に質疑応答があつても良いと思う。来年以降も実施してほしい
※ 見ていないでよくわからない
※ 予定があり見に行けなかった。
※ 参加しなかったのでよくわからない。
※ 発表を聞いていないのでわからない。
※ 見ていない
※ わからない
※ スケジュールの都合上、聞くことができなかつた。発表要旨を読むと興味深い発表がいくつもあつたので残念。学会員と高校生双方の良い刺激になると思われるので、今後も開催して欲しい。2日目の午後のように多くの学会参加者が出向きやす日程、ポスター会場と同じ会場にするなどの改善を希望します。
※ 時間がなく見られず残念でした。
※ みていらない
※ 見なかつたので不明だが、多分良いと思う。
※ 見ていない
※ みていらない
※ 特になし。
※ 特になし
※ たいへん良いことだと思うが、実際には日程の関係で聞けなかつた。多くの人が聞けるような日程を組んでもらえないだろうか？
※ 高校生が遠路はるばるやって来るほどのものではないと思う。また、分子生物学会と生化学会の狭間にスケジュールが組まれていたので一般参加者が最も少なかつたと思われる。個人的には分子生物学会だけで帰る直前に質疑くらいしようと思っていたが、クローケが16時に閉まつたので荷物を抱えてはどうしようもなかつた。
※ 参加していないで、よくわからない
※ いかなかつたのでわかりません
※ 最終日の午後では多くの人には見てもらえないのではないか。高校生が参加することの意義は高いと思いますので、最終日以外の機会を作ってください。
※ わからない
※ 学会員の資格が特に定められていないのであれば、高校生であろうが、一般人であろうが、自由に参加すれば良いのではないか。
※ 残念ながら参加できませんでした。
※ 聞いてないのでわからない
※ 特になし
※ 最終日のため見ていません
※ すみません。その時間まで会場にいませんでした。
※ 見ていない
※ 押見させていただきたかったが都合によりできなかつた。
※ 見に行く必要がない。
※ 参加していない
※ 見ていないので評価できません。
※ 参加していない
※ 聞いていないので評価できない。つまり興味が無かつた。
※ 参加していないのでコメントなし
※ 特になし
※ 参加しなかつたので不明だが、発表者が負担にならなければ続けた方がよい。
※ 見ておりません
※ 参加していないので分からない。
※ 見ていない
※ もう少し続けてみないと、判断できない。
※ 聴いていない。
※ 非常に良い試み。SSH指定校を中心に積極的に招待していく等、より促進していくべきだと思う。
※ 見ていない
※ 参加していない
※ 不参加
※ 見ていません。
※ 見てないので不明。
※ 分子生物学会から高校に予算を出しても、もっともっと拡大すべきと感じた。
※ 見てない
※ 参加していないので不明
※ 見に行ってません
※ 行っていない
※ 参加の容易な時間帯に設定すべき。

## 質問10 高校生の発表について（その他）

※ 時間の関係上、関われなかつたためコメントできず
※ 見ていない
※ その日は不参加だったため不明
※ 帰路についた後で、見物できなかつた。
※ 申し訳ありませんが、見ていません。
※ 高校生に勘違いさせるのは大罪である。
※ なんとなく寂しい会になつてた印象がある。やるなら通常ポスターセッションと一緒にやる等しないと人が集まらないので可哀想。
※ 聞かなかつたので分からなが、高校生が発表する事自体は歓迎。もっと宣伝してあげてもよいと思う。
※ 発表自体を知らなかつた。
※ 聞けなかつた。
※ 良いことだとは思うが、聞きに行く時間がなかつたため評価できない。
※ 大会期間最終、それも全プログラム終了後ではなく、2、3日目など大会が最も盛り上がつているときの方が良いと思う。そのほうが見に来る人も多いし、逆に高校生に学術の最前線を体感してもらうこともできると思う。
※ 見てないので分からな
※ 知らなかつた
※ 企画は良いと思うが、参加していない。
※ 企画としてはよいが参加できなかつた
※ 年会と同時開催する理由が不明
※ 見に行つてない
※ 既に帰途についておりました。生化学会との兼ね合い、あるいは曜日の並びでこうなつたのだと思ひますが、中途半端な日付と時間帯だつたように思ひます。
※ 最終日の最後尾の発表ということもあって聞きにいけなかつた。もっと早い日程か時間にしてほしい。
※ 最終日の終了間際の発表でもあり、帰りの時間を考慮すると、時間的余裕がなく見ることができなかつたので、評価できない。厳しめに言えば、「取り敢えず、新しい試みをやりました。」という実績を作つただけだったので？あれもこれも盛り込みすぎて、ここでも発散てしまつてゐる。現場の主催スタッフの方々には申し訳ないのですが。
※ 見てない
※ 見ていない
※ 立派な発表が多くあり非常に感心した。高度な実験を行つてゐるケースがあり、大学等からの協力の必要性を感じた。協力が受けられれば高校生でも深く突っ込んだ興味で実験をして研究を進めることができることがよくわかり、啓蒙活動の大切さを再認識した。
※ 高校生発表を聞けなかつたため、評価できず。
※ みてない
※ 分子生物学会プログラムが終了してからおまけのような形での開催は、参加しにくいです。
※ 企画そのものはすばらしいが、割り当てられていた発表時間帯が多くの参加者が帰る時間帯であった。
※ 不参加なのでわからないが、開催に不満はない。
※ 聞いていないのでわからない
※ みていない
※ 最終日の遅い時間ではなく、別の日程にしたほうが盛り上がると思った。
※ 不参加のため今回の内容についてはノーコメント。ただし、理念としては大いに賛成する。実際、市民講演会をきっかけに研究者の道をめざし、今大会で発表した喜びをコメントした演者がいた。高校への出前講師のプロジェクトとカップリングさせて、「生物学甲子園」のように発展させることも良いのではないか。
※ わからない
※ みていません。
※ 最終日のほとんど帰られる時間帯ではなく、もっと人がいる時間帯の一つのセッションとしてやるのがいいと思う。
※ スケジュールが合わず、見る事ができなかつた。
※ 参加していないのでわかりません。さ
※ 発表活動はよいが内容は間違ひがおおかつたので、指摘しやすい環境が必要である。
※ 参加してない
※ 聞いてないので分からな
※ 未参加
※ 参加しなかつたので
※ 見てないのでわからな
※ 見なかつた。
※ 参加しなかつた
※ 参加せず。
※ 参加していない。
※ 時間が遅い上に、情報が少ないように感じました。IT化を有効に活用できるように工夫するべきでは。
※ 聞いてないので分からな
※ 時間があわず、不参加。

## 質問10 高校生の発表について（その他）

※ 見ていない
※ 見なかったので評価できない
※ 見ていない。
※ 参加しなかったのでわからない
※ 参加しなかったため評価できません。
※ 見ていないので分かりません。
※ 参加していないので評価できない
※ 時間の関係で聞けなかった。
※ 特になし
※ 参加していないがいい試みだと思う。
※ 見ていないので評価できない。
※ 聞いていないので分からない。
※ 高校生のみ分ける必要はない。良いものは、普通に採用して発表できる機会を与えるのが良いと考える。
※ 企画は良いが、開催日程が最終日の夕方では、参加者の多くは帰らなくてはならず、聞きたくても聞けなかつた人が多かったと思う。そこに不満が残った。高校生もかわいそう。
※ よくわからない
※ よかったと思います。次世代の研究者を育成するためには、このような経験の場を与えることは有用。
※ 聴きに行かなかつたのでわかりません。
※ 見ていない
※ 最終セッションから離れすぎているので、行かなかつた人が多数いたと思う。
※ 聞かなかつたのでわからない。
※ やるなら早めの時間帯がいいのではないか。
※ わからない
※ 発表は聞かなかつた
※ 気づかなかつた
※ 申し訳ありません。新幹線の時間があったもので参加しておりませんが、良い企画だと思います。学会がほとんど終わった後にやらずに、もっと真ん中に予定しても良かったような気がします。見てみたかったです。
※ 分かりません
※ 特になし
※ 見てないので良くわかりません。
※ 接点がなかつた。
※ 見てないのでわからない
※ 大半の人が帰っているであろう時間帯に開催するのはいかがなものか。
※ 見ていない
※ すいません。参加できませんでした。最終日以外の日にやって頂きたかったです。
※ 都合が付かず、聞きにいっていないのでわからない。
※ 参加していないのでよくわかりません
※ 見なかつた
※ 気づかなかつた
※ 見ていなかつたので、わかりません。
※ 聴いていないのでわかりません
※ 発表には参加しなかつたが、一部ポスターを見た印象では、良かっただろうと思う。
※ 未評価
※ 聞いていなかつたので良くわからない
※ 高校生の発表を聞く機会を逃したのですが、企画自体には賛成します。
※ 高校生の発表を聞きませんでした。
※ 参加者が少なかつた
※ わからない。
※ 参加してない。
※ 見られなかつた。
※ 参加していないので回答なし
※ 参加していない
※ 聴いていない。
※ 高校生が参加する意味はいったいどこにあるのか、本当に必要なのか、議論の余地もあるのでは？飛び級して研究して弱年齢大学生の参加とかならわかりますし、ここに参加して研究員に引っ張れるならいいかと思いますけれど。高校生の会をつくるくらいなら、お金がなくて参加できない院生のサポートとか、すでに研究分野にいる人たちががんばれるようなこと、何かしてあげてほしい気もします。
※ 参加しなかつたので、よくわかりません。
※ あれは別の日程と言うべきでは。もう皆さん帰ってますよ(私もですが)。
※ わからない
※ 高校生の参加は重要かもしれません、ポスドク問題や任期制問題など研究者身分不安定性の解決の方が先決ではないでしょうか。

## 質問10 高校生の発表について（その他）

※ 参加していない
※ 聞けませんでしたので、コメントは差し控えます。
※ 聞かなかつたのでわからない。
※ 参加できませんでした
※ 今回は聞いていない。
※ 見聞きしなかつたのでわかりません。
※ 特になし
※ 聞いていない。
※ 見ていないのでわからない。
※ 見ていない
※ 発表を聞いていない（見ていない）のですが、良い事と思います。ただ、個人的には、高校生くらいまでは、分子生物的な実験をするより、「生物そのものや生物の示す諸現象に興味を持って欲しい」と思っていますが。）
※ 見ていません。
※ 不参加
※ 参加していません。
※ よくわからない。
※ 不参加
※ 見ていないので、今後も実施すべきと思います。
※ 見ていないのでノーコメント
※ もっと注目されるようなよい場所で行うべきだった。かえってDiscourageしてしまう懸念有り。
※ 見てない
※ 発表を見ていない
※ 参加せず
※ 地域に差があったのではないかと思った。
※ 見ていないので特になし。
※ わからぬ。
※ 聞いていない。
※ did not attend
※ 聞いていませんが、試みは良いと思います。
※ 見ていない
※ わからない
※ 参加していません
※ 参加していないので評価できません。
※ よかったが、日程は中日の方が多くの人に見てもらえるきがした。
※ 見に行かなかったので、意見はありません。
※ 見られなかった。
※ 参加せず
※ 押見していないので分からぬ
※ 見ていない生化学会とかぶっているのはいかがなものか
※ 見ていない
※ 高校生の参加、聴講自体は理解するものの、発表の必要は無いと思う。出来るだけレベルの高い研究会を目指すべきです。高校生の課外活動程度では疑問。
※ 見ていない。
※ 不参加
※ 特になし
※ 発表を見る事ができなかつた。
※ 聞いていないので分からぬ。
※ そういう高校生はあまり好きではない。現在の研究社会の構造の劣悪ぶり、パーマネントポジションの少なさ、能力よりもはるかにコネ優先の恐ろしい社会に、まだ社会の怖さを知らない高校生に必要以上の刺激をインプットするのはどうかと思う。自分も子供を持つ親であるが、研究者だけにはしたくないと思っている。医師免許を持っていれば別ですが、臨床や外来をしない医学研究者にはしちゃないです。
※ 参加していないので分からぬ。
※ 参加日程の都合で、聞けませんでした。次回は、ぜひ、聞きたいです
※ 参加していない。
※ 良いとおもうが、参加していないので何ともいえない。
※ 知らなかつた。
※ みてない
※ 企画そのものは良いが、最終日の最終時間という、いかにも、とてつけ感がありあり。本気で取り組むなら、一番良い時間に持つべくのでは？
※ わからない。
※ わからない。
※ 参加出来ませんでした。

## 質問10 高校生の発表について（その他）

※ 参加していないのでわからない。学会開催中(通常の時間帯)にポスター発表の枠などで行つたらよい。
※ 見ていないので判断できない。
※ 聞いていない
※ 機会があるのは良いと思うが、残念ながら自分で目にしてないので良し悪しの評価はできない。
※ 参加していないので分かりません。
※ 見ていない
※ ポスター発表が接近しすぎていて、発表が窮屈に感じました。それでも研究者の方々にも聞いてもらえて、高校生としてはやり甲斐があり、いい経験だったと思います。しかし、もう少し高校生と研究者(大学院生)が交流できるしくみ(時間)が設定されているとなお良かったと思います。
※ 聞く時間がなくすいませんでした。
※ 時間が中途半端で見れなかった。
※ 今回は見る機会がなかったです。
※ 見ていない
※ 見ていない
※ 誰にとっていいのか悪いのか、質問の意図がわからないが、あえて学会員の立場で意見させていただくと、我々にとって発表の内容自体に何かプラスになるようなことはほとんどないと思われる。そもそも、そのような発表があつたことすら知らなかつた。これを継続させるメリットを感じません。
※ 不参加
※ 発表時間がよくなかったと思う。もう少しメインの時間にもってきても良いのではないか。
※ 残念ながら見ていない。しかし若い人の参加は良いと思う。
※ 残念ながら、聞きに行くことができませんでした。
※ すいません、発表があつたことさえ全く気づきませんでした。
※ 聞いていませんが、いいんじゃないでしょうか。
※ 高校生の皆さんのが感想が大切だと思います。
※ 認識できなかつた。
※ 高校生が参加することは良いが、発表は聞きに行こうとは思えない。時間があれば、聞いてみたいが、シンポジウムや他演題のスケジュールがいっぱいであり、高校生のを聞く余裕がない。
※ 最終日の午後に発表しても、関係者しか見ない。後ろに予定が無いのだから帰つてることぐらい予想つくと思う。本当に形だけだと思う。高校生がかわいそう。
※ 参加していないので分かりません
※ 参加していません
※ 聞いていないため、評価できない。
※ いいと思うが、タイミングが悪く聴けなかつた。
※ 関係なし
※ 参加していないので評価しません
※ 見ていないのでわからない
※ 参加自体は良いと思うが、高校関係者の内輪受けの感がした。市民公開講座が高校生で占拠されてしまうことを知つていたら、聴講しなかつたかもしれない。高校生が聴衆であることを演者もたびたび言及していたので、それとわかるようにして欲しかつた。
※ 時間の都合上発表を見られませんでした。
※ 時間の都合上発表を見られませんでした。
※ 見ていない
※ 特になし。
※ 聞かなかつた
※ 見ていないのでコメントできない
※ 野児的な試みで大変興味をそそられましたが、聴く時間を作れませんでした。何がどのような形で発表されるのかについて、事前の情報が少なかつたために足を運ぶモチベーションが上がらなかつたのもひとつの要因かと思います。
※ 参加していないのでわからない
※ 参加していません。
※ 残念ながら日程の関係で見られなかつた。
※ わかりません
※ 発表の時間が生じた時間帯であったため帰つてしましました。時間設定が早ければ聞きに行つたかもしれません。
※ 高校生の参加は、将来の研究者の育成に良いと思う。また、高校の研究活動を知ることでき、分子生物学実験が高校で進んでいることに驚いた。ポスターは密集していて、人だかりができる、よく見ることができなかつたのが残念。
※ 見に行つないので。
※ 年会に含める必要性を感じません。企画が甘いと思います。
※ 見に行けませんでした。
※ 未参加
※ 見ていないので、評価できません。

#### 質問10 高校生の発表について（その他）

- ※ 年会不参加
- ※ 見ることができなかった
- ※ 実際を見られていないので何とも。ただ試みは評価しています。

## 質問11 リクルートブースについて（その他）

- ※ 言っていないので回答できない  
※ 参加していないのでわからない  
※ 参加しなかったのでよくわからない。  
※ 少し違和感があります。研究発表の場、研究交流の場であるべきでしょう。  
※ 見ていない  
※ すみません。みていません。  
※ わからない  
※ 参加していないのでわからない。  
※ すみません。のぞかなかつたので。  
※ みていない  
※ そんなものあったんですか…  
※ 見なかつたので不明だが、多分良いと思う。  
※ みていない  
※ 特になし。  
※ 特になし  
※ 訪問しなかつたのでわからない。  
※ チェックしていないのでよくわからない。  
※ いかなかつたのでわかりません  
※ 申し訳ありません。その会場には行かなかつたので、評価が出来ません。一般論ですが、学生が参加しているので、展示ブースは異なつた企業の宣伝ブースがあつてもよいと思います。  
※ わからない  
※ リクルートする側も、される側も、盛り上がりが感じられない。  
※ 特にコメントはありません。  
※ 気づかなかつた。  
※ 特になし  
※ ショートトークと同様、場所が隅に追いやられていて、積極的な参加を促しているように思えなかつた  
※ よくわかりません  
※ 行っていない。  
※ もう少し数が多くてもよかつた  
※ あまりのぞいていない。  
※ 参加していない  
※ 見ていないで評価できません。  
※ 関係ないし、関係する人も周りに居なかつたので評価できない。  
※ 参加していないでコメントなし  
※ 特になし  
※ 行っておりません  
※ 参加していないで分からない。  
※ 見ていない  
※ もう少し続けてみると、判断できない。  
※ 行っていない。  
※ 利用しなかつた  
※ 企業ブースと連携してもよいかと思いました。  
※ リクルーターではないのでわからない  
※ 見に行つてない  
※ 不参加  
※ 企業の数が少なかつたと思います。  
※ 案内の放送の音量が大きすぎてびっくり。  
※ 参加していないで不明  
※ ポスドクのキャリアパスにつながるようなブースであれば良かったのですが…  
※ 見ないので、わかりません。  
※ 行っていない  
※ 時間の関係上、関われなかつたためコメントできず  
※ 見ていない  
※ 不参加のため不明  
※ 個人的にはあまり関心がないが、面白い試みかも知れない。  
※ 申し訳ありませんが、見ていません。  
※ 企業数が少なすぎる。百社は必要。  
※ いろいろな企画の時間が重なつていて、ゆっくり行けなかつた。  
※ 時間がなく、それどころでなかつた  
※ 利用しなかつたので分からない。  
※ 行かなかつた。  
※ 良い試みと思うが、自分にとつては評価が難しい。

## 質問11 リクルートブースについて（その他）

※ みてないです。
※ 見ていないので分からぬ。
※ 利用していないので分からぬ。
※ 知り合いが気軽に入れなかつたと言つてゐた
※ 参加していないので分からぬ。
※ 知らなかつた
※ どんどんやるべき
※ わからない
※ 新しい試みで良かったと思う。
※ 少しのぞいた程度だが、もっと多くの企業に参加してもらえたうら良いと思つた。企画は良いと思う。
※ ブースに行かなかつたため、分からぬ。
※ 行つてない
※ 見ていない
※ 見なかつたのでわからぬ。
※ 行つてないけど、いいと思います
※ あまり人気(ひとけ)がないようにみえたので、人の動線に合つた配置にしたほうがよいのではないか。
※ 不参加なのでわからぬが、開催に不満はない。
※ 関係ないのでみてない
※ 利用しなかつたが、試みとしては良いと思う。
※ 不参加のため今回の内容についてはノーコメント。
※ どこにあるのか分からなかつた。
※ わからない
※ 宣伝不足だと思う
※ 参加してない
※ 特になし
※ 行つてないので分からぬ。
※ 見なかつた。
※ 未参加
※ 自由な空気の分子生物学会？でラフな先生方の多い中に、リクルートスーツの学生というのは…。
※ 参加していないため、わかりません。
※ わからない。
※ 行かなかつた。
※ 参加しなかつた
※ 行きませんでした。
※ 行つてない。
※ 場所がわかりづらく、IT化を利用した情報リンクがなく、知る人ぞ知る感じに思えた。
※ 行つてないので分からぬ。ただ、外から見た感じでは、みんなスーツ姿だったので、もっと私服で気軽に入れるような雰囲気なら入りやすかったのにと感じた。
※ 知りませんでした。
※ 見ていない
※ どちらともいえない
※ 行つてない。
※ 参加しなかつたのでわからぬ
※ 利用しなかつたため、評価できません。
※ 利用していないので分かりません。
※ 自身が参加していないので評価できないが、必要な人も多くいたと感じている
※ 参加していないのでコメントなし
※ 見ていないので評価できない。
※ もっと規模がおおきければ、学生に参加を勧め易い。
※ よくわからない
※ 特に興味がなかつたのでわかりません。
※ 見ていない
※ もう少し拡充すべき
※ 見てない
※ 企業の数が少なかつたのではと思う。自分が対象にならないので判断は難しいが。
※ わからない
※ 行かなかつた
※ 関係ないのでどの程度機能的、効果的だったのか分からぬ
※ 気がつかなかつた
※ 新しい取り組みを始めたという点は評価できる。次年度以降、もっと内容を充実させて欲しい。
※ 参加しておりません。
※ 分かりません

## 質問11 リクルートブースについて（その他）

※ 特になし
※ 特になし
※ 参加していないので良くわかりません。
※ 接点がなかった。
※ 行っていない
※ 見ていない
※ 特に利用していないので、わからないが、利用希望者には良い機会を与えていたのかも知れない。
※ 学会が主体的にリクルート活動をすることのコンセンサスは得られているのでしょうか。各大学や所属機関の仕事のように思いますか。
※ 聞きにいっていないのでわからない。
※ 参加していないのでよくわかりません
※ 見なかつた
※ あるのは分かったが、何をしているか分からなかつた。
※ もっと早くから企業に呼びかけてより多くの企業の参加を。
※ 未参加のため、評価できない。
※ 未評価
※ 状況を把握していないのでわからない
※ 利用していないのでわかりません。
※ ブースにうかがってないので評価ができず申し訳ありません。
※ 利用がとても少なかつたように思う
※ 試みはよいと思うが、実際に就職に困っている・困る学生・大学院生の大部分はは学会年会に参加しているどころではないと思う。学会年会参加を後押し(サポート)してくれない指導教官をもつ大学院生ほど困っている状況に追い込まれているはず。
※ 見ていないのでわからない
※ もっと積極的に宣伝してもよいのではないか。
※ 見られなかつた。
※ チェックしていなため分からない
※ 参加していないので回答なし
※ 参加していないので不明。
※ 参加しなかつたので、よくわかりません。
※ 試みはとても評価します。ただ、あのぎちぎちの日程のなかで、あんなに会場から離れたところでやられても…せっかく学生を連れてきて、そこにだけ入り浸りになられても。旅費を負担する側としては複雑です。
※ 不参加
※ 参加していない
※ 利用しませんでしたので、コメントは差し控えます。
※ 試みとしてはよいが、数があれだけ少ないと…。
※ チェックできませんでした
※ 今回は聞いていない。
※ 見聞きしなかつたのでわかりません。
※ 興味なし
※ 見ていないのでわからない。
※ 見ていない
※ 存在を知りませんでした。
※ わからない
※ 見ていません。
※ 不参加でした。
※ 不参加
※ よくわからない。
※ みていない
※ 不参加
※ 見ていないのでノーコメント
※ とくになし
※ 訪れていないのでわからない。
※ 見てない
※ より多くの企業が参加してもらえると嬉しいです。
※ 参加していない
※ あらかじめスケジュールが分からないと参加しづらい
※ わかりません
※ ポスターーションの時間帯に閉まっているので、あまり見る事が出来ず残念だった。
※ 参加せず

## 質問11 リクルートブースについて（その他）

※ 参加していないので詳しくは分からぬが、そういう取り組みはぜひ続けて欲しいし、今後大きく成長させて欲しい。将来を悲觀して博士課程への進学をためらっている学生がたくさんおり、教員としても勧めるのに躊躇しないわけでもない。学会として取り組むことによって、企業側の体質にも変化が期待できるのではないか。各学会員は、自分の学生以外も含めて、優秀な学生を育てるという責任をもっと意識する必要がある。
※ 参加していない
※ 見ていないので特になし。
※ 行っていない。
※ 見ていない。
※ did not attend
※ 存在を知らなかつた。
※ 参加していませんが、そういうブースがあるのは良いと思います。「食っていける」という希望を持つことは、大変重要です。自分の教授も、就職活動を毛嫌いして、リクルーターを一切追い出したりしていますが、はっきり言って大馬鹿です。さっさと就職先を決めさせた方が、研究にも身が入るに決まっているのに。学生の首を絞めるのがお好きなようで。就職に苦しんだ学生はどうなるか？結局、辛いIT業界や変な事務系、やつたことのない工場の仕事に就きます。それって良いのかなあ？
※ 行っていないのでわかりません。
※ 見ていない
※ わからない
※ 参加していません
※ 活用していないのでよくわかりません。
※ 趣旨は大変ありがたかったが、業種が偏っている気がした。
※ 誰のための企画なのか、疑問に思った人は多いのではないだろうか？ポスドク問題を解決するために就職支援に取り組んでいるCPPが、この企画のために開催を中止した。ところがCPPの内容に比べるとこのリクルートブースは雲泥の差であった。参加企業もポスドク採用には全く興味がない。この時期多くのポスドクがアカデミアのポストを諦め、就職の検討に入る。今回のCPP福岡の開催を期待していたポスドクは分子生物学会の会員だけでも何百人といったはずである。それに取って代わろうとするのである以上、もっと責任感をもって開催すべきであったのではないだろうか？
※ 見に行かなかつたので、意見はありません。
※ 見ていないので評価できず。
※ 参加せず
※ 参加していないので分からぬ
※ 見ていない
※ 行っていない
※ 参加しませんでした。ただ、現状で多くの研究者が職に困っているので、そのチャンスが増えるのは良いことだと思います(研究発表の会である意義が損なわれない程度であれば)。
※ 見ていない。
※ 特になし
※ 聞いていないので分からぬ。
※ 知らなかつた。
※ 参加していないので分からぬ。
※ いらないもうちょっと会社が来るといい
※ すみません。行けませんでした。
※ 参加していない。
※ 行っていない
※ 良いと思うが、参加していないので何ともいえない。
※ 参加していないのでわからない。
※ みてない
※ 見ていない。
※ 参加しておりません。
※ 参加していないのでわからない
※ 見ていないので判断できない
※ 利用していないのでわからない。
※ 聞いていない
※ あるのは良いと思うが、自分が利用してないので良し悪しの評価はできない。
※ 参加していませんが、良かったのではないかと思います。
※ 行けなかつた。修士向けならない方がよい。博士取得(見込み)者だけを対象にした方がよい。
※ 見ていないのでわからない。
※ 見に行かなかつたので評価できません。
※ ブースを見ていない
※ みてないので、いいか悪いか判断できません。
※ リクルートブースには今回私は寄りませんでした。
※ 不参加

## 質問11 リクルートブースについて（その他）

※「学生が希望しているから」という理由でこのような企画を学会が行うのはいかがなものでしょうか？各大学なり所属機関の仕事なのではないでしょうか？
※ こちらもどこにあったのか気付きませんでした。単に関心がなかっただけかもしれません。反省します。
※ 行っていません。
※ 行っていない。
※ 2014年3月卒業の学生向けだと思いますが、実際に役に立つのでしょうか？ブース出典に協力された企業の意見が大事だと思います。
※ 興味ない。
※ 参加していない。
※ 参加していないので分かりません
※ 行かなかったのでわからない
※ 活用していないため、評価できない。
※ 関係なし
※ 参加していないので評価しません
※ 見ていないのでわからない
※ 見ていない
※ 見ていないので分かりません。
※ 気づかなかった。
※ 利用していないので分からぬが、リクルートの機会を増やすのは良いと思う。
※ 見ていないのでコメントできない
※ 個人的にはあまり関連はありませんが、知り合いの研究者の話では、以前から予定されていた企業との面談が、このブースの設置により中止になったと聞きました。需給間の接触機会を上げる試みとしてはもう少し調整が必要かなと感じました。
※ 参加していません。
※ 参加はしていないが、機会が多く提供されるのは良いと思う。
※ しらなかったです
※ 訪れていないので分かりません。
※ ただ企業を呼んで、説明会しました程度ではやる意味が無い。そもそも、この様な企画は学会をやっている横でやるようなものではないと考える。この様な企画に本腰を入れるとなると、学生は学会での講演を聞いている場合ではなくなるからである。この企画を続けるのであれば新卒を対象とした企画とすべきではなく、ポスドクを対象してCPPといったところと提携するべきである。新卒にはいくらでもこの企画を突然思いついた方々の、認識の甘さと計画の無さに驚いた。
※ とても良いと思います。
※ 未参加
※ 見ていないので、評価できません。
※ 見ることができなかった
※ ブースに行かなかった。
※ 試みは評価すべき。ただ金と時間をかけただけのブースになっていたかどうかが、見られていないので何とも言えません。
※ わからない

## 質問12 本年会の規模について（その他）

※ 分野が多岐に渡りすぎて、大きくなるのは仕方がないと思う
※ いつもより少ない感じた。
※ 参加しなかったのでよくわからない。
※ 規模は大きくとも小さくとも、必要な人が来るのだから気にしてもしょうがないと思うのは私だけか？
※ 規模は結果なので、特に重要ではないようにおもう。
※ 大きくてもいいと思うが、それをサポートするインフラがお粗末。バスにしても、休憩スペースにしても不足気味。ポスター発表が遅すぎるるので、夕方、疲れ切った参加者が狭い2階にひしめき合っていたのが印象的。ポスター会場は広くて疲れるので、もう少し近くに休憩スペースがあると良かったです。
※ 参加してないのでわからない。
※ 福岡開催としては適当であったが、他のところならもう少し大規模でも良い。
※ 4日で行うには、現在の規模が限界だと思う。
※ 参加者が6000名を越え、ポスターだけでも3000を超える学会の規模が適当とは思わない。しかし分子生物学という研究領域において参加者数が増え続けることは必然と考える。従って、開催する側も参加する側も年一回のお祭り的な巨大学会を有意義にする努力をし続ければいいのではないか。
※ 少ない
※ 特になし
※ 参加人数は多すぎるとは思わないが、参加人数に比べてセッション数や会場の大きさが足りていない気がした。
※ いつもより若干寂しい感じがしたが、数年に一度は是非、福岡開催にして頂きたい。
※ 大きいが、仕方ない。
※ 大きすぎるが仕方がないのでしょうか。
※ 例年より少なくないですか？
※ 参加者数にくらべて会場が手狭なように感じた。2日目以降、ワークショップ会場がどこも非常に混み合い、最初から会場にいてもずっと立ち見のことわざがあった。
※ かなり大きいが、その分のスケールメリットがあると思う。
※ 異分野の話を手軽に聞けるなど、大きい学会ならではの良い点は評価している。
※ おおきいがこれは仕方のないところであろう
※ ワークショップの会場に入れない事が多々あったので規模が大きすぎるのも考え方のかもしれない。いいね！が多くついたワークショップやシンポジウムは会場を広いものに変更する等柔軟な対応をしてはどうか？
※ 規模が大きすぎる。演題数が多く、またカバーする領域も多岐に渡るので、常に発散してしまっている。発表もone of themの研究が多くて、オリジナリティーに溢れる「面白い」発表が少なく、ガッカリした。ポスター発表者に話を聞きたくても、コアタイムにいなくて、結局最後までコンタクトできなかったり、ということもしばしばあった。TwitterもFaceBookは利用しておらず、今回のITを利用した、直接メールを送る方法は確かにあるのだが、面識のない方にいきなりというのは慣れていないので、抵抗があった。このような方式が浸透すれば、メールで気軽に発表者にコンタクトできる日が来るのかも知れない。
※ 大きすぎるがそれが分子生物学会の良さだと思う。
※ 規模の大きさと日程があつていいと思う。詰め込み過ぎな感じがした。
※ 口頭発表の会場が狭すぎて途中からは入れなかった。
※ これは一つの形態としてありと思う。
※ 部屋のサイズが小さく、聞けなかった講演がいくつかあった。
※ 人数的なものは不明ですが、会場のキャパが足りてなかった。大体の発表会場に立ち見が出てて、不便だった。
※ 規模が大きくなつたことに対する対応が必要。会場の外でモニターで視聴できるようにするが必須。博多駅などから学会バスを運行して、路線バスと両方稼働する事で、混雑を軽減することが重要。
※ この学会は生命科学のすべての分野を含むのが良いところなので、規模は大きい方が良い。植物系の参加者が減少したと聞いているが、来るよう努力してほしい。
※ 合同にてもっと大きくて良い
※ 規模は大会主催者が決めることではないので、参加者もなすがまだと思う。
※ わからない
※ 参加者の人数が6600名と知り、以外に少ないと感じた。分子生物学会は10000名以上の参加者がいると思っていた。
※ 適当だと思いますが、それぞれの会場が狭かったように思います。
※ 大きすぎるが領域の広さがあるので致し方がない
※ 発表内容、会場の分散がうまくいっていたと思います。参加人数の割にはストレスなく参加できました。
※ 出せば発表できる会というイメージなので。。演題数が多すぎる。そのわりにないようがまちまち。特にポスター。見る人は多くてもいいけど。どうせならもっと厳しく、そして客観的に平等に、演題採択してほしい。惰性のコネとかでのセッション発表とかオーガナイザーとかホントにがっかりする。
※ 参加しなかったので、よくわかりません。
※ 朝の9時から夜の8時過ぎまでの拘束は、1日に詰め込み過ぎだと思われる
※ 不満
※ 確かに、規模は大きすぎますし、日替わりポスターにもウンザリします。が、他の分野の方々と、情報交換できるので、分子生物学会の年会には、よく参加します。

## 質問12 本年会の規模について（その他）

※ 合同開催すべき
※ 例年より少ない気がしました。もう少し多い方が活気があってよいと思います。
※ いつもより少ないと思います。
※ 更なる発展を期待します。
※ 大きすぎると言うのはここ10年間の実感だがIT化の試みは巨大学会での会員間の距離を縮める事に役立ったと思う。
※ 学会は大規模化と専門化の二極化でよいと思う。参加のスタンスも変えていけばよい。
※ 大きすぎるが、会員数が多いので仕方がないと思う。
※ 生化学会との共催を続けてほしい。
※ 大きくなることは否めないので、工夫が必要。生化学会と重複する内容が多く、一緒にし、大型の学会としてもっと工夫し充実させる。
※ もっと複合的に。
※ 大きすぎて、他の会場に行く気がしなかった。ポスター会場が他の会場から隔離されていて、ポスター発表をした自分はみじめな気分になった。
※ 規模が大きいのはやむをえないと思います。ただ、聞きたいセッションが重なってしまうので、たとえば、期間を6日間とかにしたらいかがでしょうか。
※ 規模に見合った、来場者に便利な会場を選ぶべきではないか(毎年、横浜でも良いのではないか)。
※ すくなくとも福岡ドームで行うよりは良い。
※ 今回は参加していないので分からない。
※ 大会の規模について語るのは全くもってナンセンス。分子生物学会の規模が適当なのかと尋ねているのと同じ。この質問の意図が全く理解できない。
※ 明らかに大きすぎて学会の体をなしていないが、ある程度はしょうがないのかも。今回の試みは、検索の効率化やコミュニケーションの強化等により、この欠点をある程度補っていたと思う。
※ 比較的楽な規模だった。あらためて、生化学会との合同大会(連続ではなく同時開催)は、規模が大きくなりすぎる気がした。一方、分子生物だけだと、中身が単調な気がした。
※ 大きすぎるとは思うが、他分野の情報収集が出来て、大きな学会のよさもあると思う。
※ 毎年開催できているので適切なのかもしませんが、主催者のご苦労を感じます。
※ かなり大規模といえるが、いろいろな意見交換の場にもなるのでいいと思う。
※ 基本的にこの規模では、横浜一神戸の繰り返しが適当であると感じました
※ 大きすぎるけど、これが分生だと思っているので慣れた。ただ、シンポジウム/ワークショップが多すぎて選ぶのが大変なので、テーマを絞ってもいいのではないかと思う。
※ 同窓会的な意義もあるし、大きいからこそできることもあるのでそれを生かしてほしい。

### 質問13 本年の開催形式について（その他）

- ※ 分子生物学会しか参加していないので、連続開催については評価できないが、このような開催方法があっても良いと思う。ただ、片方の学科に参加した場合、もう一つの学会にも自由に参加or割引で参加できるようにしても良いと思う。
- ※ 少なくとも、生化学会のシンポジウムと分子生物学会のワークショップの重なりがあり、同じテーマを同じ研究室の複数の共同研究者が話しているような事態は避けるべきであると考えます。
- ※ 時期をずらすか、連続しないようにしたほうが良いと思う。
- ※ 共催にすべきです。2週間弱の出張は難しい先生方が多いと思います
- ※ 生化学会にも参加したが、同じ内容で発表している人が多々いた、開催時期を分けるか、合同開催の方がいいかと思う。
- ※ いっそ、合同にすればよい
- ※ 分離形式だったので、生化学会の発表を実質には聞きけなかった。
- ※ 分子生物学会の参加者には分かりにくいが、生化学会のみの参加者はこの時期の開催を疑問視していた。
- ※ 自分は片方(分子生物)のみの参加なので問題無いが、双方に参加する人にとっては長すぎると感じた
- ※ 連続は意味が無い。分離か合同でよい。
- ※ 人数の面から考えると単独開催が良いと思う
- ※ 判断が難しい
- ※ 連続開催は運営、参加者双方にとって負担が大きいのでは？(会場使用費、連泊のコストなど)
- ※ 学生は参加費が軽減されるものの継続した宿泊となり負担が大きくなる恐れもある。
- ※ 生化学会と分離開催に賛成。学会のカルチャーが違うので無理にいっしょにやらなくて良い。プログラム編成等に以前合同開催した悪影響が出ていると思う。
- ※ 両方でると長すぎて、とても出席できない。同時開催か、長期的には一緒になった方がよい。
- ※ 分ける必要も無いし、そろそろ統合の時期だと思う。
- ※ 連続開催にする理由が分からない。
- ※ 年末のこの時期にやるには長過ぎる。片方にしか参加できない。合同でないなら全く別のタイミングでやってほしい。
- ※ 毎年生化学会と合同にしてほしい。1週間も同じ場所に学会に参加するのは困難です。
- ※ 2つの学会に大きな違いがないことを考えると、合同で行うのが望ましいと考えます。
- ※ このようになった諸事情については分かりかねますが、連続にするくらいなら合同で良かったのではないかでしょうか。
- ※ 一週間もの間、研究から離れることにとても抵抗がありました。合同開催にして、3日間くらいに圧縮して欲しいです。金銭的にも負担が大きすぎます。
- ※ ほぼ同時期に開催日をずらして、同じ場所で連続開催する必要があったのか疑問が残る。今回のような形式ならば、むしろ、従来の「合同年会」の方がよっぽどマシだと思う。分離するならば、過去のように、生化学会を10月に行い、分子生物学会を12月に行う方式でないとあまり意味が無いように思う。
- ※ 連続開催より同時期の共同開催の方が見るものが増えてよいし、長期間滞在しなくて済むためはるかによい。知り合いは大体同じような文句を言っていた。
- ※ 連続開催の場合には、両方の学会に演題を出していると、発表が初日と最終日に分かれてしまうと、滞在日数が増えてしまうので、考慮していただけると助かります。
- ※ 連続開催だと日程的に長すぎて個人として全日参加するのは負担が大きすぎ、利点を感じない(運営上の利点はあるかもしれないが)。完全な合同開催ならないことはないと思う。
- ※ まったくもって意味がわからなかつた。分子生物学会の方ではなく、生化学会の方に言うべきなのかもしれません、連続して行う意味がわからない。それぞれに特色があるわけでもない。
- ※ 合同大会ならよいが、連続大会は長過ぎる気がします。特に、生化学会が土日に重なり、最終日の発表は聞けませんでした。ほぼ同じポスターを出している人もいましたし、連続大会にするなら合同大会にしていただくことを期待します。
- ※ 融合してしまうのが一番良い。
- ※ 合同開催の方がよかったです。
- ※ 期間が長過ぎてよきない。やるなら完全合同か同時期に同会場がよい。
- ※ いずれかの参加登録で両学会に参加できるようにしてほしい。
- ※ いつもは分子生物学会に参加するのですが、今回は自身の仕事の日程の都合があわなかつたため、生化学会に参加しました。同じ会場で、しかも連続して行うのなら、同時開催でもよかつたのではないかと感じました。
- ※ 上の人の都合に振り回されている感があります。普通にそれぞれが年会をやるのはそんな難しいことでしょうか？
- ※ 合同年会が望ましい。
- ※ 未評価
- ※ 合同開催にすべき
- ※ 分離してくれるのはありがたいが、連続して参加するほど時間的・経済的余裕のある方がどの程度いるのだろうか？
- ※ できれば、同時でお願いしたいです。
- ※ 個人的には分子、生化の合同開催の方が全ての時間帯において最低でも1つは興味のあるセッションがあるので望ましいが、規模が大きくなりすぎると類似のセッションが同時に複数重なることがあるので、セッションの内容を時間帯毎に万遍なく分布せざるを得ない、一定の工夫の上での合同開催が望ましいと考える。

### 質問13 本年の開催形式について（その他）

※ 生化学には参加していないので不明。
※ 生化学会に参加していない
※ 連続開催は、重複して参加する人が参加しにくいため良くない
※ 事前の無料参加可能に関しての周知が徹底されていなかった。プログラムに関しても、分子生物学会と同様のシステムで抄録にアクセスできていれば、事前に参加を計画することも可能であった。
※ 生化学会の日程が土日になったのが可哀想だった。
※ 合併した方がいいのでは？
※ 分離連続はよくなかった。合同にすべき。
※ 分子生物学と生化学を分けて考える、というコンセプトには賛同しますが、合同開催のほうがいろいろな発表が聞けてよいと思います。
※ 合同開催にすればよいと思う。
※ only attended one
※ 入会したばかりで、両学会の関係がよくわかりません。
※ 重複部分もあるので、期間を5日にして、共同開催を望む。
※ 連続開催のために、分子生物学会の会期が短くなり、スケジュールに無理が出るのは止めてほしい。連続開催で楽しているのは、企業ブースでしょう。
※ 分離しているので、連続開催の意味が無い。その方が開催経費を抑えられるのであれば理解しますが、殆どポイントがないと思います。
※ できれば、同時開催が望ましい。
※ よくない。負担が多く、メリットが見いだせない。同時合同開催の方が、まだよい。
※ 生化学会との同時開催が望ましい。
※ 毎年合同で良いと思いますが、いずれの学会も規模が大きすぎです。自分が選べる立場なら、どちらも出席しないで、もっと規模が小さく参加者の顔がよく見えて、参加者同士のつながりが作れる学会に参加したいと思います。「規模が問題と言うなら、地方部会があるじゃないか」と言われそうですが、関東支部会と関西支部会以外の小さな地方でこじんまりとマイナーな研究室だけが集まってやったところでどれだけの意味があるのかと思います。
※ 完全に合同にして開催した方が良い。
※ 1週間続けての参加は不可能なので、開催時期をずらすか、できたら合同開催が望ましいし、ありがたい。
※ 合同ならまだわかるが、連続にする意味はない。1週間も学会に行けるほどの暇と予算をもっている研究者がどれだけいるとかんがえているのだろうか？
※ 同時期に同じ開催地なら、できれば共同開催の方がよかったです。企業の方も大変そうでした。
※ 同時が良い
※ 生化学会との区別がはっきりしないように思います。色々な理由で一週間学会会場にはいられないように思います。
※ 生化学会のみに配慮する大義がない。生化学会は単独で年会を開催したくない理由は何なのか？財政的に苦しい（開催すると赤字になるから）ではないのか。それならば、生化学会は広い分野をカバーする年会は開催せず、何かに特化した会合を別の季節に開催してはどうか。また分子生物学会の年会は、分子生物学会主催ではあるが、希望する他の学会（生化学会に限らない）の会員にも門戸が開かれたものにしてはどうか。将来、もし分子生物学会が財政的に苦しくなった場合は、逆に分子生物学会は現在のような大規模な年会を開催しない選択もある。
※ 連続開催にする意味がわからない。やるなら合同で、合同にしないのだったらはじめから別々のほうがよい。今年の形式は、非常に中途半端で最悪だった。
※ これまでどおり、合同開催のほうが良いと思います。現実的に、連続で参加できるほど、ラボを空けておくことは困難だからです。
※ 生化学会不参加のため、よく分かりません。
※ 生化学会と分離しないで欲しかった。単独で開催する意義が理解できない。
※ 今回のような夜まで充実した形の規模で、合同開催を行うのが良いかなと思いました。
※ 期間が長すぎるので、両方は出られない。一方、発表数が減少することで、同じ時間帯に聞きたい発表が重なるリスクは低減できる。一長一短といったところ。
※ 分離するなら完全に分離し、一緒にするなら合同開催がよいと思う。
※ 分離・連続開催にするぐらいなら合同開催でよかったのではないだろうか。
※ 期間が長くなりすぎるため、できれば分散してほしい。
※ いいこととは思うが、疲れた。開催期間が長すぎる。
※ 最悪の形式。どうせ分離するなら、時期や開催地も別々にするべき。
※ いずれも巨大会なので、両方に参加しようとすると長期滞在になり、難がある。ただ、両方に参加したい人にはメリットがあると思う。
※ 生化学会と共同開催でやるなら、同時開催にすべき（連続開催は期間が長すぎる）
※ ほぼ同時期に開催するのであれば、わざわざ分離・連続開催する意義は無い。
※ 学生会員であれば生化学会の参加費が無料ということですが、それ以上の人達への配慮がないのが少し残念でした。個人的には生化学会にも興味深い演題がありましたが、分子生物学会だけでボリュームが十分で、生化学会に参加しようと思えるだけの時間的・体力的・金銭的余裕が今回はありませんでした。
※ 生化学会とは合同でやってほしい。

質問13 本年の開催形式について（その他）

※ 続けての開催ですと長期間の出張となり参加は困難です。共同開催が対費用効果としてもBetterではないでしょうか？

質問14 今後の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

※ 生化学会	40
※ 日本生化学会	14
※ 生化学会、細胞生物学会	4
※ 細胞生物学会	3
※ 生化学	2
※ 生物物理学会	2
※ not sure	1
※ いつも生化学会との合同でやるのがいいと思う。	1
※ バイオインフォマティックス研究会	1
※ やはり、合同開催であれば、生化学会だと思います。	1
※ 假に合同するとすれば、日本遺伝学会はいかが?分子生物学のベースは遺伝学なので。	1
※ 癌学会	1
※ 國際学会との合同開催	1
※ 今まで通り、生化学会との合同開催	1
※ 細胞生物学会や発生生物学会は合同どころか吸収されたらしいと思います。学会の数が多すぎます。	1
※ 実際に可能かはわからないが、実験動物学会。	1
※ 上述	1
※ 人類遺伝学会、ヒトとヒト以外(哺乳類以外)で分ければ合同も可能ではおもいますが。	1
※ 生化	1
※ 生化学会、細胞生物学会	1
※ 生化学会、進化学会	1
※ 生化学会、発生生物学会、細胞生物学会	1
※ 生化学会、細胞生物学会、発生学会	1
※ 生化学会、生物工学会、癌学会など。少しずれる今回のようなかたちがとても良いと思いました。	1
※ 生化学会、生物物理学会	1
※ 生化学会。	1
※ 生化学会神経化学神経科学	1
※ 生化学会・細胞生物学会	1
※ 生化学会が妥当。免疫学会とやるのは面白そう。	1
※ 生化学会との共催が良い	1
※ 生化学会との合同・合併を希望します。	1
※ 生化学会との合同開催を希望。いっそのこと、学会を一緒にしてほしい。	1
※ 生化学会との重複が著しく、合同開催にすべきことはもはや明らか。	1
※ 生化学会とは学会として合併すべきである。	1
※ 生化学会とは常時共催にしていいと思います。	1
※ 生化学会とは内容が重複する部分が多いので合同開催が良い。	1
※ 生化学会とは分けない方が良いと感じました。両方に所属する人は、大学を一週間欠席しなければならないからです。学生はお金がなく、移動にお金がかけられず、何度も往復することはできません。	1
※ 生化学会と合併同時開催	1
※ 生化学会と同じ場所で連続開催など愚の骨頂。合同開催にすれば、見に来て欲しい人にポスターを見に来て貰える可能性が大きく上がる。	1
※ 生化学会と同時開催にしてほしい	1
※ 生物物理	1
※ 他に知りません。	1
※ 当然、生化学会です。	1
※ 同時開催なら、生化学会以外に考えられない。	1
※ 日本バイオインフォマティックス学会	1
※ 日本ミトコンドリア学会、バイオインフォマティックス学会	1
※ 日本再生医療学会	1
※ 日本植物生理学会	1
※ 日本生化学会、日本免疫学会	1
※ 日本生化学会とは、連続開催よりはむしろ合同開催の方がいいと思う。会期が5日間になんて構わないから。	1
※ 分子生物学会は広く浅く(時として深いが)、他の学会は狭く深くだと思うので、基本的にどの学会でも合同or連続開催可能なのでは	1
※ 分野の近いのは、やはり生化学会ですが、規模が大きすぎる気がします。	1
※ 毎年、生化学会との合同開催が望ましい。	1

#### 質問14 今後の開催形式について <複数回答可> (その他)

※ 基本単独開催で、数年に一度合同or連続開催合同or連続開催の際は、分子生物学会と相手方の学会のそれぞれが得意and/orホットな話題をシンポジウムand/orレビュートークを含める、異分野融合、勉強になる、出来れば日本語で。
※ 連続開催は出張費がかさむ事と、長期間ラボを不在にする事が困難なため、合同開催を希望します。
※ 合同開催であればメリットがあり、連続開催ではメリットがない
※ 分子生物学会のよいところは、植物から動物、細菌、酵母とい間口の広いことになります。これまでも、細胞生物学会と共に生化学会の会員を取り込み、生化学会と共に生化学会の会員を取り込んできました。後は生理学会や解剖学会というあたりと一度共催してみると面白いと思います。
※ 分子生物学会と生化学会で扱われる研究内容の違いはほとんどないので、別々に学会が存在する意義は年々弱くなっていると思われます。様々な経緯があると思われますが、2年に1度ぐらいは生化学会との合同開催にして欲しいと思います(それ以外の年は単独開催でも仕方ない)。また、大抵の会員はどちらかしか参加しないので、今回のように連続開催することの意味は無いと思う。両方参加しようとすると旅費が嵩むだけで、時間も無駄。
※ 2年に1度は合同で。
※ 分子生物学会の野心的な取り組みが削がれること無く範囲での合同開催(たとえば、生化学会との)には、賛成します。
※ 特になし。
※ 可能か否かはわからないが、疾患に関する研究で基礎と臨床とのコラボレーションが話題に上ったことがワークショップやフォーラムでも有ったわけだが、これまで合同したことのない癌学会など臨床系学会との連携は有っても良いのかもしれない
※ 分子生物学会単独もよし、時には生化学会との合同もよし。それはそれなりに楽しめる。
※ 生化学会とは重複した発表もあるので同時開催が好ましい。
※ 生化学会とは共催にするべきです。
※ 単独開催にするか、生化学会との合同にするべきだと思います。今回のように1日だけ重複するような日程は、かえって不便です。
※ 分生自体が大きくなりすぎているので、植物と動物を分けてはいかがでしょうか?会を分けるということではなく日程を分けるということです。
※ どちらでもよい
※ 特に希望は無い。
※ 最近参加していない。大きくなりすぎていると思う。会員数が多いのは良いと思うが、目的が薄らぐ傾向にあるような気がする。
※ 生化学会と合同になると会場があまりにも大きくなりすぎて逆に興味のあるイベントにアクセスしにくくなるように思う。
※ 連続してやるくらいなら、合同でやればよい。
※ 参加していないので分からず。
※ ポスター発表と機器ブースの開会時間にオーバラップを持たせてもいいのではないか?
※ 会場の広さと人数があつてない(入れない会場が多かった)。
※ 従来のように生化学会と合同か、全く別に行うのがよい。期間が長過ぎるので、連続開催ならば今後は分子生物には参加しない。
※ 連続開催はすこし中途半端な感じがします。完全に合同するか、単独するかにしたほうがよい。
※ 規模が大きいので開催そのものに疑問を感じる
※ どちらでもよい。
※ 連続開催は意味がなく、会期だけ伸びて参加者の負担が増える。同じ話を2回続けて「聞く&する」羽目になるだけで時間の無駄である(実際にそうなっていた)。そうするならば共同開催にすべき。
※ 合同、単独どちらでも良いが、あまりにも規模が大きくなることには反対。ただ分子生物学会はほぼ全ての生物学分野を網羅しており、その特徴を生かし、双方の学会にとって刺激となる大会を企画する意味で合同大会にする意義はあると思う。毎年ではなくても、各大会でメインテーマを決め、その分野の主要学会に働きかけてみるのも面白いと思う。
※ どちらでもよい
※ 生化学会と同時開催の方が、幅広い分野(幅広い手法からのアプローチ)の発表を見聞きできるように感じる。分子生物学会を単独で開催する意味合いは薄れているのではないか。
※ 単独でも合同でも良い面はあると思うので、主張はありません。
※ たまには異種で合体
※ 4年に1度くらい生化と合同でもいいのではないか?
※ 類似で重複するメンバーの多い学会の存在意義不明。
※ 生化学会との合同会にするならば、今までのような形で行うべきで、今回のような形は、参加しにくかった
※ どちらでもよい
※ どちらでもよい。
※ 生化学会と合同でよいと思います。今回のような形がもっとも中途半端
※ どちらでも良い。
※ 連続日程にするなら合同開催にしたほうがよいと感じた。
※ 毎回合同だと規模も大きくなりすぎて会場も限られてしまうので、3-5年に1度で十分だと思う。

#### 質問14 今後の開催形式について <複数回答可> (その他)

※ 演題の偏りがなく数年前の用な形態であれば単独開催が良い。
※ 連続では日数的に厳しい。時間的かつ体力的にも。
※ 常に生化学会との合同のみがよい。2つの学会が別々に年会をする必要がない。
※ 規模が大きくなりすぎたため、同時開催だと演題をまわりきれないなどの問題が発生しそう。
※ 生化学会と一緒になるべきだと思います。
※ 生化学会との合併も含めて考えるべき。
※ 分子生物学会と生化学会の学会としてのコンセプトの違いは今も(厳然と)あるように思うが、分子生物学会が巨大化するにつれ、実際の演題としてはほとんど変わりがないと感じる。参加者の立場からすれば、生化学会と合同の方が、ある意味2度手間(時間、費用)が省ける。
※ 両学会の区別がはっきりしない時代が続いてきたと感じるが、近年は時代背景から字面通りの”生化学”的”のメインとする研究者は減少傾向にある。無論、生化学は極めて重要な学問分野なのでその発展を強く望むが、現在の分子生物学会と同レベルの学会規模を維持しようすることは時代背景にそぐわない。より生化学としての専門性の高さを追求することを主幹とし、その派生で分子生物学会あるいは細胞生物学会その他との連携を行なっていくことの方が、生化学会だけでなく科学界全体においてもメリットがあるよう思う。分子生物学会も他の学会との連携を模索することが理想だが、単独であまりに巨大なので現実には困難であろう。
※ 早く生化および分子の両学会が合同して欲しい。上層部の年寄り連中のわだかまりなどどちらには全く無関係。
※ 特に意見はない。
※ 分子生物学会と、生化学会の役割を明確にするのが良いように思います。そうすることで、一見、重複するように感じる、これらの学会の存在意義がわかります。また、同じような時期に連続して開催する必要もなくなると思います。
※ 特色あるもので、関連性があるものであれば、合同でも単独でも。
※ 同じような研究を行う学会が、分離、連続開催される意義が不明である。以前のような同時開催で十分である。学会側、参加者の時間と費用の無駄である。合同開催を強硬に反対する研究者グループがあるのか?どこかの国の政党を連想してしまう。
※ 数年ごとに生化学会と合同にするのはメリットがあるように思えます。システムバイオロジーや定量生物学などの集まりと融合するのも面白いかもしれません。
※ どちらでもよい。
※ 毎年合同ではなく3、4年に1回程度がよい。
※ 日本植物生理学会との連続開催が可能なら検討してほしい。現在、日本植物生理学会は、分子生物学会の植物版のようになっており、植物の広い分野を含んでいる。連続開催により、植物研究者が戻るきっかけになるのではないか。
※ 分離・単独開催なら、メリットは旅程だけなので、あまり有意義さを感じない
※ 大きな学会は一緒に開催した方が、金と時間の節約になる。分子生物はすでに十分大きいので、他の学会と一緒にでも参加者はそれほど増えないであろう。FASEBのように複数の関連学会が同時期に同じ場所で開催した方が効率的でよい。
※ 都合が付けば合同開催は旅費の節約にもなり良いと考える。
※ 生化学会との差別化もしくは合併
※ わからない
※ 単独か合同かどちらかにしてほしい
※ 合同で開催したり、単独で開催したり、いろいろで良いと思う。
※ 別にどちらでも良いが、主婦なのであまり長期間、家を空けたくないの、別にして欲しい
※ 分子生物と生化学会は時々合同年会を開いていますが、たとえば、共通するトピックが多いときは、ケースバイケースで合同で開くのは良いと思います。
※ テーマを小さくして、小分けに複数回する。
※ 他学会との合同開催が2~3年毎にすると相互交流の点で良いと思う。ただし、連続開催は両方の会員の者には、両方に発表しづらく、また参加についても体力的に厳しい。
※ 合同開催の希望は特にないが、興味を引く学会が続けてあれば、連続して参加してみたいと考えている。
※ 開催形式は、毎回の大会長に一任で様々な形式があった方が毎年刺激が多くて楽しいと感じました。マンネリ化するとつまらないです。
※ 今年のような奇妙な開催形式は今後はやめてほしい
※ シンポジウムのネットでのライブ放送、再視聴を可能にしてほしい。年末に近く仕事の関係で必ず開催場所に行って参加できるとは限らないから。ポスター発表の開始時刻が遅すぎる。また、シンポジウム、ワークショップに参加していたら、機器展示を見る時間がほとんどなかった。
※ 連続開催をするくらいなら合同開催にして欲しい。朝から夜まで演題が埋まっている状態のまま日程が延びるのはしんどい。
※ ポスターセッションがずいぶん夜遅くまであり、その後の関係者との宴…いやミーティングのスケジューリングが難しかった。
※ どちらでもいい。
※ 2年に1度くらいは生化学会との合同開催を希望します。学会としての個性は違いますが、内容でオーバーラップするところは多いと思う。少なくとも、今年のような開催形式は2度とやってほしくない。もちろん、今回、このような事態に至った事情は伝え聞いています。
※ 合同開催については特に意見はありません。

#### 質問14 今後の開催形式について <複数回答可> (その他)

- ※ 日本生化学会との合同開催を強く望んでいる。
- ※ 合同かどうかはそんなに重視しない。
- ※ 合同開催については、特に気にしていない。「聞きたい発表を聞きに行く」ので。
- ※ どちらでも良いと思う。
- ※ 生化学会と合併するのがよい。
- ※ 英語の発表は否定するものではないが、多様な専門分野の人が参加する場合には特定分野の専門用語が全く理解できないため、専門外の分野でのポスターがわかりにくく、議論に参加できなかつた。聴衆のほとんど(高校生を含めて)が日本人であるので、相互理解を深めるには日本語をもっと活用すべきと思う。
- ※ 単独、合同を隔年で繰り返す。
- ※ どちらでもよい。
- ※ わからない
- ※ どちらでも良いです。
- ※ 単独の場合は完全分離が望ましい。一緒にやるなら合同にすべきで、連続開催という中途半端であり、メリットが少ないと考える。そういう意味で、今回の連続開催は、貴重な経験であったと思う。
- ※ 学会どうしの共通部分を見いだす作業に各学会の発展があるとは思えない。それよりもむしろ、「らしさ」を見つけほかの学会にない特色のある年会を作り出すことに魅力を感じる。
- ※ 大きくすることの弊害を感じるので、むしろテーマごとに分割しては?
- ※ 開催地が同じなら日本生化学会と合同開催がよいと思います。
- ※ たまには生化学会以外と組んでほしい。
- ※ 分子生物学会は、大きな規模の学会なので、生化学会を除けば、他の学会と合同して、これ以上、規模を大きくする必要はない。
- ※ 人数が多すぎてすべてを把握できない。
- ※ どちらでもよいですが、連続開催はちょっとびしきです。
- ※ 特にこだわりはありません。
- ※ 単独でも良いと思いますが、連続開催のメリットは出席者側にはあまりないように思います。
- ※ この規模で合同にすると、大き過ぎて十分に参加できない。
- ※ どのような開催方法でもよいですが、参加人数が1万人になるようなことは避けた方がよいかと思います。
- ※ 生化学会とは、分野的にほとんど内容が重なるにもかかわらず、分子生物学会、生化学会のどちらかにしか所属しない人も少なくないので(特に学生)、昨年までのように両学会を合同で開催した方がいいと思う。この問題を根本的に解決するなら、分子生物学会と生化学会を合併した方がいい。
- ※ 合同なら合同で行い、分離するなら時期や場所をきっちり分けて欲しい。
- ※ 隔年など、毎年でなければ共同開催も良いと思う
- ※ 現在の分子生物学会のもつとも大きな問題点は大きすぎることであると感じているのはわたしだけであろうか?生化学会会員と重なっているからというのが理由なら、いっそ学会ごと一緒になってしまえばとも思うが、そうしないのはやはりデメリットが大きいからではないだろうか。個人的には、合同開催(特に生化学会)は自殺行為と思う。また、学会の一番大きな行事は年会開催であるが、それをやらない学会に意味があるのか?
- ※ ときどき合同開催
- ※ 生化学会との合同年会にするべき
- ※ 生化学会と合同にしてしまえばいろいろ手間が省けるのではないか。
- ※ 分子生物という括りが古いのではないか。ほかの学会で発表できないテーマがあるのか検討し、ないのであれば発展的解消が望ましい。
- ※ 分子生物学会単独の場合、全体に内容がドライで無機質な印象が強くなる気がする(気のせいでしょうか?)。
- ※ 毎回合同大会だと、横浜か神戸だけになってしまいます。一方で、毎回別々だと同じような話で2回発表したり、同じような内容のシンポジウムやワークショップを2回聞くことになります。隔年ごとで分子／生化合同大会とかにして貰えると有り難いです。
- ※ 特になし。
- ※ 今後の研究の発展を踏まえると、生化学と分子生物学をわざわざ分ける意味合いは薄れていくと考えられる。しかし、あえて分けるのであれば、従来のように開催時期をずらすと分離開催する意義がある。
- ※ 今回の学会くらいの規模がちょうどよいです。これ以上演題数が増えても1日にインプットできる情報量は限られているので参加する側のメリットが少なく、煩雑さと疲労感が増すだけのようになります。会期を延ばすなどすれば良いのかもしれません、1週間も続くのはあまり現実的ではありませんし、連続開催でもかまわないと思います。
- ※ 生化学会を吸收して欲しい。
- ※ 単独開催でも合同でもよいが、単独ならば連続開催ではなく、時期を離して欲しい。分子生物学と生化学は内容が近いので、連続開催ならば合同の方が良い。
- ※ 時々他学会との共催があるのはよいと思う。共通点が多いところより、少し異なる学会の共催による交流の方が、良い効果が得られるのではないか。
- ※ 特に意見はない。

## 質問15 他学会との連続開催や合同開催のメリットについて <複数回答可> (上記以外)

※ 複数の学会に行く時間、出張費が省ける
※ 生化学会と分子生物学会の両方の会員になっている研究者は相当する存在と思われる。それぞれの学会に別々の日程で参加(出張)するのは時間的にも金銭的にも大変である。合同開催であれば、そのような心配なく、多くの発表を聞くことができるだけでなく、多くの研究者との出会うことができ、共同研究などに発展することが期待される。
※ 数年に1度なら良いと思います
※ 期間が短くなる
※ 重複が避けられる。会費負担が減る。
※ ただでさえ、分子生物学会は規模が大きくなっているところに、他学会と合同で規模だけを大きくするのであれば、まったく必要はない。生化学会とは参加者も重複していることから合併を視野に、合同開催をおこなっていたのではないでしょうか。
※ 旅費が減っているので、いくつも学会に参加できない。
※ 出張費が安く抑えられる。
※ 参加者サイドからみると、分子生物学会と生化学会の違いはあまりない。分離してもワークショップ等はかぶりが多く、面白くない。合間にすれば、集中して良い。
※ 似たようなセッションをまとめることができる。さらに、これにより統合的な理解に繋がる。開催の経費が削減できる。普段会えない知人と会うチャンスが増す。お得感がある。
※ 生化学会と分子生物学会に分かれているのは、日本だけではないか。分野がかなり重複しているのに、「どちらかに出す」のでは聴衆が少し限定されます。かといって、両方に同じ演題を出すのもよくなし時間の無駄という気がします。
※ 参加する学会が少なくてすむ
※ 分子生物学会は単独でも十分規模が大きいので、むしろ合同開催した場合は相手方の学会にとってのメリットが大きいと思われる。関連のある他学会を助ける意味でも合同開催は積極的に進めるべきではないだろうか?
※ メリットが感じられない。
※ ワークショックが多数同時進行になるため、結局のところ近い分野のみしか出ていられない。
※ 今回の様に生化学会と分離開催になると、日程が長くなり、そのせいで会えなくなる人や聞きたい発表が聞けなくなるなどの弊害が出る。その様な事態を回避できる。
※ 生化学会、分子生物学会、両方に入っている者の負担軽減
※ スケールメリット(例えば海外の人を呼びやすい)
※ 類似したシンポジウム、ワークショップを一つにまとめることができる。
※ 参加者がさらに増えることでわけがわからなくなる。
※ 生化学会とは、ほぼ同じ内容なのだから、米国のように一体化すべき。
※ 分子生物学会自体が広い分野を網羅しているので、独自開催でも普段あまり触れることがない研究に触れることが出来るため、合同開催のメリットはあまり感じない。
※ 似たようなのは全部まとめてやればいいと思います
※ 日程的に参加しやすい。実際、分生と生化で重複しているようなセッションもあった。
※ 今の時代、分子生物と生化学を分けることにも無理があるし、一緒にやればいい。
※ 連続開催より合同開催の方がよい。
※ 連続開催は参加者の負担が大きすぎる。
※ 生化学会と境界分野があるのかは分からぬ。
※ 絶対XX学会だけ、という人もいるので、その人達の話を聞ける。
※ 今までに行われてきた生化学会との合同年会に参加した経験から、合同年会の方が、参加者の裾野が広がって、その分、より多くの知見を得ることができるから。
※ 既に述べたとおり。やるなら連続開催でなく合同開催がよい。ただそれも分子生物学会自体が巨大すぎるし、また、かなりいろいろな分野の発表が増えてきたので合同開催のメリットもあまり感じない。
※ 重複が多い
※ 学会参加や発表が一度ですむ。
※ 生化学会と分子生物学会というように境界が不明瞭なものがまとまる。
※ 興味がある分野に集中できる。
※ 分生自体が大規模なのでBMBのように合同開催しても特に変わらなかったように思う。相手学会の方には規模のメリットがあるかもしれない。
※ 生化学会と分子生物学会では、分野が共通しているところがある。このような場合は、効率は良くなる。一方、”普段あまり触れることが少ない研究に触れることが出来る”という設問とは違う。触れることがないものは別の学会に参加すればよい。共有してしまったら、学会としての価値はなくなる。
※ 一度の参加で済む
※ 両方の学会に一度に参加できる。独立していると、どちらかの学会しか参加しない。従って中・高年者は分子生物学会に益々参加しなくなるでしょう。
※ 合同開会には賛成であるが、連続開催には反対である。
※ 数年に一度、生化学会など、分野が違う学会と合同するのは違う視点でモノが見えるので良いと思います(しかし、実際のところ二つの学会が一緒にあっても、ほとんどの方はそれぞれ全く別の会場に分かれているような気がします)。

## 質問15 他学会との連続開催や合同開催のメリットについて <複数回答可> (上記以外)

※ 子供のいる主婦は長期間、家を空けられないので分けて欲しい。
※ 重複がなくなり、学会参加を減らせる。
※ 重複した領域研究者にとってメリット(時間節約)生化学会ならば重複領域が多い
※ 今回の規模くらいにまとめて内容をうまく振り分けなければメリットがあるかもしれません、分子生物学会自体が多様な分野にわたっているので特に他学会と共同開催する必要は感じません。いつのこと物理学会や有機化学系の学会などと共同開催するのなら話は別ですが。
※ 生化学会と分子生物学会では似ている印象なので、なるべく異分野の学会との共催や共同ワークショップがあると楽しいと思います。
※ 時間と費用の節約
※ 分子生物学と生化学にまたがる分野で研究を行っている身としては、合同開催の方が少ない日数で多数の研究に触れる事ができる利点が多いと考える。
※ 見かけばかりの活気とか、ホント必要ないと思うけど、同輩研究員との交流継続維持には役立つ会ではあるとおもう。忘年会的学会。大きい学会は国際学会が外にあるので、量よりある程度の質を高める方向にした方がいいのでは。
※ 私の研究分野(シグナル伝達)に限っていえば、両学会で参加者も似たようなものです。同じような学会に2度出かけるという非効率な行動をとらなくてすむことが私にとっては大きなメリットです。
※ 生化学会は内容がかぶるので合同で良いです。
※ メリットがあるか否かは判断できません。
※ 生化学会とは内容が重複する部分が多いので合同開催が良い。
※ 生化学+分子生物学の合同開催が良い。
※ 分生最終日にもいろいろ面白い講演が聞けてよかったです。生化学会がどんなところかも、雰囲気を知ることができた。
※ すでに分子生物学会で多くをカバーしている
※ 重複分野を一回の出席でカバーできるので節約になる
※ MBSJは既に大きすぎるうえにほとんど全ての研究分野を飲み込んでしまった(例えば、昔はlipidやsugarは生化学会の守備範囲だったと思います。進化も分子で語ることが増えてきたし、動態解析も細胞物理というよりも分子生物の範疇に入ってきた...)ので、他学会と合同開催する意義を見出すのは難しいと思います。
※ 普段会えない研究者と会うことができる。
※ 類似の学会を個別に参加するのは無駄が大きい今回は期間が長すぎて参加者も大変
※ 合同開催の場合は・両学会で重複する分野の発表がまとめて聴ける・両学会で重複する分野だがどちらかの学会にしか来ない研究者と交流できる・滞在時間、旅費・参加費が節約できる特に生化学会とは分野のほとんどが重複しているため、合同開催にせず連続開催にする意味がわからない。生化学会とは毎年合同開催にしてほしい。連続開催の場合は、他分野の学会には参加しないと思う。
※ 出張の手間が省ける
※ ○合同開催であれば、移動が節約できる。
※ 実質的にほとんど差がないので、一緒にやることは当然メリットがある。
※ 同じ話を何度も聞かなくてすむ。
※ not sure
※ 生化学会や細胞生物学会は、特に分子生物学会と分野の重なりが大きいと思います。また、両方の学会に所属する人たちが多くいるように思います。別々に年会を開催すると、時間の都合を考えて、どれかを選んで参加することになってしまい、どれかには参加できない、というようなことになってしまう人が多いと思います。そうすると、同じ分野で研究をする者同士でも、下手をすると出会えないことになってしまう危険性があります。私から見ると、別々に開催することは、デメリットばかりで、メリットは全くないように思います。分野が重なるものについては、合同開催を積極的に行ってほしいと願います。
※ 結果的に部分的参加が増え、分生自体にも全日参加者が減っているというデメリットがあるのではないだろうか。
※ 参加者、主催両方にとって時間と経費の節約も兼ねる
※ 合同開催しても、会期や参加費が別に設定されていれば、研究費から捻出したり、出張をお願いするのは難しいので、あまり意味がない。根本的に垣根を取つ払うなら話は別。
※ 連続開催は期間が長過ぎて実質的ではないだろう。合同開催には規模が大きすぎる。
※ 運営側は運営の効率化という意味ではよいのではないかと思います。
※ 両者の違いが浮き立つ結果となったと思う
※ 参加する学会が減る分、本来の大学の業務に集中できる。
※ もしも「機器展示」が重要であれば。
※ 人が増えることにより、ランチョンセミナーの充実も見込める。
※ 無駄が省ける。むしろ学会そのものを生化学会と合体し、国際学会がそうであるように、BMBにすることを提案する。
※ 連続開催は拘束時間が長くなるだけでありメリットを感じない。
※ 分子生物学会に関しては、生化学会との境界線が、不明瞭なので、合同で参加したほうがよいのではないか?
※ 生化学会以外の異なる分野の学会と合同開催するメリットを感じない。
※ 連続開催は長過ぎて疲れる
※ 何度も学会に参加する手間が省ける。

質問15 他学会との連続開催や合同開催のメリットについて <複数回答可> (上記以外)

- ※ 分子生物学会と生化学会は重複するテーマが多いので
- ※ 分子生物学会と生化学会は同じ分野の人が参加するので、まとめた方が便利。連続開催よりも合同開催の方が良い。
- ※ 一つの学会ですむので日程も経済的にも合同のほうが助かる。
- ※ 同じような話で2回発表したり、同じような内容のシンポジウムやワークショップを2回聞くことにならずに済む。
- ※ 分子生物学会、生化学会、細胞生物学会に本質的な違いがあるとは思えない。合併してもいいのではと思う。
- ※ 実質的に参加者が重複している
- ※ 中小規模の学会ではメリットがあると思うが、分子生物学会は規模が大きいのでどうだろうか…
- ※ 両学会に参加の場合長期滞在になり、大学業務に支障をきたすので連続開催には賛成できない。
- ※ 時間や旅費の効率的利用(ただし連続大会ではこのメリットは無い)
- ※ 着席聴講を考えますと単独がぎりぎりであると感じました

## 質問16 他学会と合同開催をした場合のデメリットについて <複数回答可> (上記以外)

- ※ 演題数が増えて期間を延ばさない場合、同時進行の演題が増えて、結果として見られない演題が多くなる。
- ※ 行きたいシンポジウムやワークショップが重なる
- ※ 逆に無理に合わせた印象があってもそのカオスから何か新しい物が産み出されるのであれば有意義だろう。ある程度近い関係にある学会(分子生物学学会と生化学会、違う領域では神経科学会と神経化学会)ではまだ無駄に大きくなっただけの印象がある。
- ※ 開催期間が長くなる。
- ※ 会場が混雑しすぎる、会場までの交通機関が混雑しすぎる、食事場所に困る。
- ※ 意味のない合同開催は反対。
- ※ 会場、日程の選定が難しくなる
- ※ 分子生物学だけでも十分大きすぎる規模であるにも関わらず、さらに多学会との合同に意義を感じない。
- ※ 会期が長い、トピックスがだぶっている
- ※ 期間を長くすると間延びするし、短くすると口頭発表の人数が減る。
- ※ 他学会に別途に参加費を取られるなら連続開催しても参加しないと思う。
- ※ 規模が大きくなつて行った場合、今回の学会で採用されたIT活用を押し進めなければ破綻してしまうと思われる。IT化をうまく使えば規模拡大のメリットを伸ばすことができると思われる。
- ※ 会期が長くなりがち(疲れる、出張費がかさむ)。
- ※ 類似のプログラムがぶつかってしまった場合は、観衆を取り合う形になる為、プログラム編集には相当の工夫が必要になる。各会員のセッションの参加パターンを分析してプログラムの最適化を行う等、この作業には機会学習を取り入れてもいいかもしれない。
- ※ 規模が大きすぎると会場が固定(横浜か神戸か)されてしまって、たとえば東北とか北海道といった離れたところの人との出会いが少なくなる。
- ※ プログラム編成が複雑になる。無理やり口頭発表が増える。
- ※ 今年であれば分子生物学学会が終わった後の4日目にポスター発表があるのは変に感じた。
- ※ そもそもメリットが小さいのでは?
- ※ 会期が長くなりすぎる。
- ※ 聞きたい講演が時間的に重なる。
- ※ 分子生物学学会は生物を対象にする最も多くの研究者が所属しているジェネラルな学会となっている。従つて、どの学会の要素も分子生物学学会の中に含まれるため、合同開催する場合には、その分野の取り上げが増えるだけで異質なものにはならない。生化学会とは共通部分がほとんどで、合同にしてもほとんど内容は変わらない。
- ※ 支出が増える
- ※ 宿が取れない
- ※ 人が多くなりすぎる
- ※ 出張等が長期に及ぶことになるため、時間がとりにくい。別の時期であれば本務を調整しやすい。
- ※ 日程を密にしないと会期が長過ぎるが、密にすると、聞きたいセッションが重なり、逃す確立が高まる。
- ※ 益々おきくなってしまうことであろうが、分子生物学だけでももう十分におきいので、それた新たなデメリットということはないであろう。
- ※ 参加者がさらに増えることでわけがわからなくなる。
- ※ これ以上規模を拡大させる必要はないと思う。自分の研究成果を発表するのならば、もっとこぢんまりした、目的が明確化・特化した学会に出すべきだと、今回強く感じた。発表する以上、私自身はいろんな方と議論したいので、「単にポスターを出すだけ」の発表と、「多くの方に見て貰い、しっかり議論したい発表」とをうまいこと区別できないものだろうか?自分の研究が「つまらない」と評価されているのならば、それも仕方が無いことかも知れないが。
- ※ 聞きたい発表が同じ時間帯になる可能性が高くなる。
- ※ どんどんやればいいと思う。
- ※ 分野の境界が分かりづらくなり、セッションの分け方がまちまちになつてしまうと思う。
- ※ 今でも十分大きいので、これ以上増えたところで見るのが大変という点では大した違いはない。
- ※ 規模が大きくなりすぎて長時間化、多会場化して回るのが大変。
- ※ 行きたいセッションがブッキングしてメリット感じられなくなる可能性がある
- ※ 1週間は期間が長過ぎる。開催地地元の人(今回は九大)にとっては便利かもしれないが、遠方から来る人にとっては予算が増える。どうせなら、late breaking abstractを募集せずに分生&生化を同一日程で開催してみてはどうか?そちらの方がお得間が増えると感じる。
- ※ 疲れる
- ※ これ以上巨大にしても参加者の負担が増えるだけでメリットは少ない。
- ※ 十分に多様性はあると思う。
- ※ スケジュールがハードで分子生物学学会に全日参加して生化学会に参加予定のメンバーが疲れていた
- ※ 生化学会との本学会の違いが分からず、重なつて会員となっているか、会費の負担からどちらかを選択している例が多いと思われる。概念的で無く、具体的な独自性を執行部が示すなら単独開催に理解を示せるかもしれない。
- ※ 聞きたい演題が重なつてしまい、結局は異分野の話をあまり聞けない。
- ※ 会場の規模が大きくなり疲れる。

## 質問16 他学会と合同開催をした場合のデメリットについて <複数回答可> (上記以外)

- ※ 大きくなれば良いというものではない。免疫学会は縮小が懸念されているが、快適です。生化学会と分子生物学会は、ぜひ融合してほしいです。互いに重ならない分野を残し、重なっている部分(ほとんど)は一緒にするのでどうでしょうか。分けて行うのであれば、発表者をだぶらせないでほしいと思います。
- ※ Q15に記述したように、他の学会がどのような学会かによって意見は異なるはずである。
- ※ 異質な研究をマージし、境界領域を形成することが求められている現状に、1のような回答を設定すること自体に大きな問題があります。
- ※ 分子生物学会はすでに大き過ぎていて、興味ある全ての演題を聞く事は不可能。多学会と一緒に開催してもその事情は大きく変わることは思えない。
- ※ 参加しないセッション、中日などが発生する可能性がある。
- ※ 生化学会と内容的に似通った発表が多く、年会費の2重取りされている感がある
- ※ 会期が長くなる。
- ※ 分子生物学会と生化学会の境界領域の区別がつかなくなりそうです
- ※ わからない
- ※ 規模が大きくなりすぎる
- ※ 規模が大きくなつて不都合な点が増えると思いますので、毎年は望ましいとは思いません。(特に時間、空間的にポスターにしわ寄せが、。)
- ※ 期間が長すぎると疲労がたまるのでは?
- ※ 分生だけでも大変忙しいのに(4日間で約40のポスターを聞きました)、さらに他学会と一緒にやるという発想は、発表を聞いていない方の考え方だと思います。体が持ちません。
- ※ 混雑する
- ※ 結局分生の側の発表しか聞かないようでは意味がないのでうまくプログラムを組んでください。
- ※ 時間が限られるので、結局、それほどいろいろなところを見ることができない。
- ※ テーマが分散して不便。
- ※ 会場数などの制約から類似のセッションが同日同時間帯に複数重なる事がある、ならびに、ポスター発表の全体数が増える事で閲覧希望するポスターのうち、議論可能な発表数がより少なくなる。
- ※ 内容がさらにうすまる。
- ※ ポスター会場が混みすぎるという問題点は確かにあります。ただ、行きたい会場を探すのが大変というほどのことはありません。プログラムが見にくくなるということも特にはありません。分子生物学会年会がすでに巨大です。なお、上の『他学会とのジョイントは異質なものを無理に合わせる印象がある』との選択肢そのものが現執行部の排他性を感じさせ、残念な気持ちになります。
- ※ 生化学会と合同でやるとシンポジウム会場が溢れます。それで前列で寝られたりすると腹が立つ。
- ※ 日程編成がぎゅうくつになる
- ※ デメリットがあるか否かは判断できません。
- ※ 聞きたい演題等プログラムが重なることが多くなる
- ※ メリットも、特になし。
- ※ 上記の通り
- ※ 分子生物学会は現在でも大き過ぎて、拡散し過ぎていると感じます。これ以上、年会の規模を大きくする必要性は感じません。
- ※ 発表採択の競争率が上がる。
- ※ 行きたい演題がかぶる
- ※ それぞれの学会の個性が打ち消され、かえって面白みが失われる。分子生物学会は新しいものを貪欲に吸収して変化していくというのが特徴なので、他学会とジョイントで開催する必要性は感じない。
- ※ 連続開催では遠方から来る場合、滞在期間が長くなるので厳しい。
- ※ not sure - but cost? the total expense it rather large if were to attend both
- ※ 余りに人が多くなりすぎると活気より騒然になりかねない。
- ※ 分生がすでに日本一の学会になっている以上、他学会と合同になんでも大きなデメリットはないと思われる。
- ※ 経費の配分のむずかしさ
- ※ 今回のような情報インフラを構築すれば、プログラムや発表が多くなっても、対応できると思う
- ※ 参加する側は日程的にどちらか一方になります。
- ※ 単独開催でも、医学、薬学、農学など数多くの分野の研究発表を聞くことができた。複数学会間で会期の調整やジョイント企画の摸索などに労力をとられるくらいなら、分子生物の学会員に対して年会が有益になることを目指してほしい。
- ※ 免疫学会から続いている先生は疲れている様子であった。あるいは、大変だとこぼされていた。
- ※ too much confusion!! simpleに研究のことを真剣に考える場の提供を第一に考えるべきで、confusionが多くなる様な環境に陥る開催は辞めて頂きたい。
- ※ 滞在期間が長くなる。
- ※ 人数が増えすぎると、何をしに行くのかわからなくなる。
- ※ 疲れる。
- ※ プログラムの数はそんなに増やせないので(特にオーラルは)、むしろ発表したい人にとっては、その機会が減るのがデメリットではないか? 聴く方にとってはよく吟味されたプログラムがきけるのであればありがたい。

## 質問16 他学会と合同開催をした場合のデメリットについて <複数回答可> (上記以外)

※ ワークショップ等のタイトルに重複が生じてしまう。
※ ワークショップ等のタイトルに重複が生じてしまう。
※ 年会長が他学会からの申し入れに困惑させられるような事態は、決してあってはならない。そもそも現在のように事務局に無理をかけたままの学会運営では、ジョイント開催などをする事務局の負担が一層増すので、強行してはならない。まずは事務局体制をしめるべく拡大して、無理のない(年会および日々の)学会運営ができる体制の構築が大前提である。
※ しかしながら、今回導入されたスマートフォンを利用したシステムがあれば、解決可能であると考えます。
※ 分子生物学会だけでも規模が大きいのに、合同にするとさらに大きくなりすぎて限界を越えている。メリットにあげられている「境界分野の発展」や普段と違う機器展示をみたければ、合同になどせず直接他の学会にさんかしたほうがはるかに効果的である。
※ 今回のようなIT化によって、合同開催で規模が大きくなても、プログラム上の不都合は、だいぶ減ったと思う。
※ 生化学会との合同開催は、人数も大幅に増加することもないし、内容的にほとんど同じなので異質と感じることもないで、全くデメリットがない。
※ 時期や場所によっては参加が難しいので生化学会と分子生物学会が完全に分かれているのはメリットがあるが、今回のような運営ではそのメリットがない。分子生物学会の理事や管理運営側の人が旧帝大や研究所の人ばかりで、地方大学の学生や教員のことを考えていない(または実状を知らない)のではないか?
※ 人と発表演題が多くてカバーしきれない。
※ 聞きたい発表が重複するリスクが上昇する。会場が広くなると、移動が大変になる。合同大会の規模になると、プログラムの検索において、IT活用が必須だと思う。
※ 発表が時間的に重複する可能性が増える
※ 毎回合同大会だと、場所が横浜か神戸だけになってしまって、開催地の地方色がない。
※ 大きすぎる。
※ 大きすぎてしまうかもしれない。
※ 開催期間が長くなることを懸念します。
※ 分子生物学会単独でも既に規模が大きいので、これ以上増やす必要はない
※ 出張期間が、2つに分けられる恐れがある。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

※ 異分野勉強用に、日本語のレビュートークのようなものがあっても良い。ポスターの終わる時間が遅すぎる、終わる時間を早めて開催期間を1日延ばすのも考えても良いと思う。
※ 1、託児所を利用でき、とても有難い。もう少し、開設時刻に余裕があればなお良かった。自身の9時からの発表は15分前に受け付けをすませるシステムだったが、託児所が8時45分から開設だったためとても困った。また、託児所の終了時刻とポスター発表の終了時刻が同時に20:15だったので不便に感じた人もいたのではないかと思う。2、今回は、ポスター発表の終了時刻が20:15であったが、その時刻にはバスがほとんど無く、自費でタクシーを利用することになりつらかった。
※ 捏造問題は極めて深刻かつ重大であり、研究活動の本質に関わるものである。年会はこの問題をもっと取り上げるべきである。また、理事の学会関係業務の半分以上はこの問題に割かれるべきである。研究費が無駄になることを心配するのも大事だが、少なくない若者の研究生活が捏造の引き継ぎから始まり、人生への失望と研究者集団への軽蔑感情をもって研究の世界から去っていることについて一番問題意識を持つべきである。
※ 会場は出来るだけコンパクトにまとめる方が良い。ポスター会場には神戸や横浜のように休憩場があると良い。
※ 今年の年会のITシステムは大変よくできており、他の学会でも採用されるべきものと思います。分子生物学会発足時の本来の趣旨に戻って、もう少し、ポスター発表からワークショップへの採用枠を増加して、若い方に口頭発表の機会を与えることができればよいと考えます。
※ 今回の年会はとにかく楽しめました。関係者に感謝します。2011年年会のように「分子からヒトへ」なんて一面的で保守的なコピーを掲げてはダメです。大学院生からシニアまで知恵を出しあって、どんどん新しいことに取り組んで、年会こそがフィールドを活性化させる推進力となって欲しいとおもいます。次の年会長が言われている海外ポスドク200人呼び寄せ計画、新理事長にも期待しています。
※ 今までにない、非常に思い切ったIT企画で、阿形会長の努力に頭が下がる思いです。今後の年会に生かされることを願います。
※ 全体的に詰め込まれていて、なかなか集中して聞くにはつらかった。
※ 演者さえ来ないショートトークはやめれ。ポスター発表は時間無制限にデータの前でフランクに議論できるのが良いところなのに、ショートトークはその良いところを全部失っている。
※ 可能であれば、会場に大型プリンタ—設置(レンタル)してその場でプリントできるサービスや、気に入った演題の追加資料等(演者が事前にアップロードしておいて)それをその場でプリントできるプリントサービスとか、そういうこともできるようになるといいかもしれませんね。画面でpdfで確認して、というのもいいですが、紙じゃないと！と思う瞬間もあるので
※ 多くの人の利便性を考えるなら、横浜と神戸の隔年開催が良いと思う(九州や北海道の人は毎回大変だらうけど)。
※ 発表言語は英語・日本語を好きな方を選べるようにして欲しい。日本人しかいない会場で下手な英語の発表につきあうのは苦痛。ポスターは中身は英語でよいが、タイトルは日英併記にして欲しい。
※ 生化学会と分子生物学会の対象、内容が殆ど区別ができなくなっている。個々の特長が見えなくなっているのであれば少なくとも年会は共同開催で良いと考える。また、言語はポスター、スライドなどは英語日本語併記として、基本言語は日本語にしたほうが良い。日本の学会において基本言語は日本語にしたほうが学部生も含めた理解、議論が深まる。
※ 横浜、神戸、たまに福岡が最近の年会会場ですが違うところでの開催を期待しています
※ ショートトークについては、今のスタイルでは必要がない。発表者が来ない場合もあり、他の講演を聴く場合に、わざわざショートトークは優先して聞きにはいかない。可能であればだけれど、YouTubeなど専用サイトを作り、宣伝用の数分の映像ファイルをアップして、会場に行く前から確認できるほうがよい。ポスター発表時間が遅すぎる。アメリカなどの学会のように、宿泊施設を備えている会場であればよいが、日本の場合はそうではない。
※ シンポジウムは聞きたい話が少なかった。
※ 今回のスケジュールは非常に中途半端な気がしました。出張期間が長くなるので、たとえ両方に興味のある発表があっても参加できにくい状況でした。
※ 特になし
※ ショートトークは本当に迷惑だった。企画した人の頭はどうかしてる。
※ 交通の便が極めて悪い。ポスター終了時に公共交通機関がないというのは問題ではないか。
※ 減数分裂のワークショップがよかったです。
※ 会場までの交通が良くなかった。これだけの人数が集まるのであるから、バス会社と交渉して、期間中は朝晩(特に朝)に臨時増便してもらうとかの措置が必要だったのではないかと思います。
※ ショートトークは意味が無いし、ポスター発表時間までの待ち時間が長すぎる(昼から18時まで見るものがなかった)。さらに、椅子と机が少なすぎてパソコンを使った作業もできなかった。
※ 合同年会の場合、半年ごとの年2回開催にして、口頭はどちらか一つしか発表できないようにする。主催は、それぞれ生化・分子生物学会とする。
※ 特にありません。
※ 生化学会と連続開催なのは、大学教員に取ってはとてもしんどい日程だと思います。ラボを空ける日程もそれだけ連続して長くなります。やはり、合同開催にして4日程度で行うのが現実的ではないかと思います。
※ 要旨閲覧システムは大変良くできていた。開発者には最大級の賛辞を送りたい。来年以降にも継承してほしいし、他学会にも広めてほしい。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

※ 分野全体が細分化され、興味のある分野、理解できる分野しか聞かなくなつたので、それぞれの分野について、過去から現在の研究に至るまでの流れを、わかりやすくレクチャーしてもらえる機会があると、助かります。
※ 生化学会との合同のほうが良いと思う。似たようなセッションが両方で設けられていて、違和感を感じる。
※ ショートトークが酷かった。今後は絶対にやめて欲しい。会場が分離していないため、他の発表と声が重なつてしまい、何のために話しているのかと感じてしまった。あれは発表者を馬鹿にしているとしか思えない。英語なのか日本語なのか、最初に決めたことを徹底すれば良いのに後から日本語が基本と付け加えたのも悪い。ポスター前でただ立っているだけにならないようにとの配慮だそうだが、本来ポスター発表で聞きにくる人がいなければ、自分の仕事はその程度のものだと認識する機会にもなるわけで、そのことに学会側が特段の配慮をする必要は全くない。
※ 無線LANをあれだけスムーズに接続できるようにセットアップするのはさぞや大変だったと思います。大変おつかれさまでした。
※ 運営に携わった先生方、大変お疲れさまでした。充実した学会をありがとうございました。来年以降もどうぞよろしくお願ひ致します。
※ 日のあるうちはオーラルを聞いていて、暮れたらポスターとしていると企業展示ブースを見る時間がない。どうしてポスター発表の時間には企業展示が終わっているのか。屋台はよかったです！別にビールを飲みながらポスターのディスカッションでもいいんですね。もう少し宣伝してもよかったです。
※ 年会は生化学会と交互にでもして、テーマ別のシンポジウム(2日～3日、ゴーデン等のように合宿形式もあり?)を合同で年に数回開催するはどうでしょう？
※ iPadの導入、屋台やコーヒー店の設置はとても素晴らしいと思いました。打ち合わせ室の設置も非常に重要なと感じましたので、できる限り多く、そして予約制などを取ることで合理的に使えるようになると、密なディスカッションを可能にするように思いました。ポスターからワークショップに採択された場合、同日に両方の発表が行われるのは旅費の面からも当然ではありますが、あえて別の日に設定し、どちらかを聞き逃しても次の日に聞けるチャンスがあるほうがいいのにと思うものがかなりありました。特に素晴らしい成果の発表の場合必要かと感じました。
※ 連続開催の場合、学生でなくとも参加費に関して割引があると良いと思う。
※ オーラルは英語化を推進する方がいいのではないか。ショートトークは、時間と場所が良くなかった。ワークショップはいつもと違う顔ぶれで新鮮だった。今後もこのシステムの継続をお願いしたい。学会が大きすぎるのは、キーストンのように分科会として開催することも可能と思われる。
※ In the guidebook the schedule on page 28–29 shows the session titles in Japanese even if the session is in English. It would be nice if the schedule on page 28–29 shows session titles in English if the session is in English so we don't have to look up the details of the session in the guidebook.
※ マイスケジュールを作成するために、聞きたい発表全てに「いいね」を押す必要があったのが煩わしかった。ちょっと興味があるから時間があれば聞いてみようと思った演題にも「いいね」を押すのに違和感があり。
※ IT企画は便利で、総じて成功だと思う。何らかの機器を持ち歩かないとならない点が、デメリットか。会場のどこでもWiFi接続が容易にでき、便利だった。高校生参加は面白いかも知れないが、最終日の夕方では、後泊や生化学との連続参加するもの以外は参加不可能である。
※ 分子生物学会と生化学会を5つくらいの分野の学会に再編してはどうか。または、細胞生物学会、発生生物学会、遺伝学会や蛋白質学会に割り振れば事足りるのでは。生化学会は医科生化学会とすれば。夜遅過ぎ。一日目の朝早過ぎ。飛行機の早割予約の期限よりも前に自分の発表日時が分かるようにしてほしい。旅費は公費(税金)負担、無駄をなくすため学会全体の旅費宿泊費の安くなる首都圏で毎年固定開催すべき。
※ アンケートで書き忘れたことがあるので、ここのみ送ります。要旨 PDF のダウンロードは、口頭発表も含めて一括してダウンロードでないとありがたいです。いまだと、ポスターのみ一括ですよね。いまからサイトが閉鎖される期間までに、なんとか改善できませんでしょうか。
※ 連続開催はやめてほしい。会の規模が大きくなる場合は、分野毎に日にちを区切って、会期の一部だけ参加できるように配慮して欲しい。
※ 今回の福岡の様に、横浜と神戸以外の場所で時々開催してくれると嬉しい。
※ ブース出展時間の終了後にポスターセッションが設けられていたが、せめてブース出展時間中にポスターセッションを開催して欲しい。WiFi環境が非常によく、ストレスなく学会に参加できた。ネットワークインフラの整備は今後も続けて欲しい。
※ 今回のフォーラムのようなくだけた企画がもっと有つたら是非参加したいです。
※ ショートトークはワークショップと時間が重複しない時間帯で行ったほうがよかったです。会場が満員で立ち見や入れないことが多く、会場の広さを確保していただけるとよかったです。
※ 薬学系は12月の大学業務が多いため、生化学会と合同にして別の日程に行うことを希望する。
※ ショートトークは聞くことができなかつた。理由：会場がわかりづらい。口演とかぶつているとわざわざポスター会場まで足をのばさない。今回IT企画がうまくいっていたので、抄録とリンクさせて、YouTubeのようにクリックしたら画像と説明が出てくる形にしたら良いのではないか。
※ 毎回発表会場の席数が少ない。会場間を移動することもあり、立ち見することが多くなつた。会場によっては立ち見でさえ入れない状態も見受けられた。余裕のある広さを確保していただきたい。
※ 特になし
※ 使いやすいシステムでいつもよりも楽しめました。今後は継続して、このシステムを発展させていってほしいです。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

- ※ ポスター発表が6時以降はやはり遅すぎる。展示をしている企業にとっても、ポスター行なっている時にはブースは閉まっている状態であり、よくないのではと思われる。もし6時以降にも行なう必要があるのなら、一部WSなどをこの時間帯に行なえばよい。
- ※ abstractを審査して、rejectの率を上げるべき。質より量は、いかがなものか。diverseするのは良いと思うが、たくさんの(雑多な)演題のある分科会の開催と、極めてレベルの高い総会に分けて開催したほうが、良い気がする。
- ※ ショートトークはWSの会場とも離れており、来場者が少ない印象だった。何を目的として新しくショートトークを開催したのか、その意図が全くわからなかった。今後は実施すべきでないと思う。今回は学会のIT化をテーマにしていたが、実際の会場では昨年の分生と特に変化が感じられなかつた。重い要旨集を持たず、iPad1枚で簡単検索できた点は評価できるが、それ以外のメリットをあまり感じなかつた。別にIT化しなくても、もっと各WSのドアに大きくセッションのテーマを貼ったり、ポスター会場では、ポスター貼付け用の壁に、図書館のような分野分けの紙をはる方が、ずっと回りやすくなると思う。
- ※ 國際学会でないにも関わらず、至る所で英語を義務付けるというのは、外国人研究者も理解できるようにという意図は分かるが、やはり違和感を感じる。今年は昨年、一昨年よりも緩くなっていたので、まだましであったが…。
- ※ 今回の生化学学会との連続開催は最悪でした。二度として欲しくないです。
- ※ 現在、要旨が閲覧できるHPは閉じられていませんが、これはいつまで閲覧可能なのでしょう？また、今後も閲覧可能な人は、今回の学会参加者だけに限定されるのでしょうか？それとも、ある時期に不特定多数の方が閲覧できるようになるのでしょうか？
- ※ Q9でも書いたが、ポスターで使う言語を英語で統一するのは、果たして意味ある事だろうか？日英併記で良いと思う。ポスター発表の時間を遅くした事は、便利な点と不便な点の両方を感じた。いっその事、ポスター発表の時間を1日に2度設けるのは、どうだろうか。また、実現は難しいかもしれないが、同じポスターを複数日貼りっぱなしにできないだろうか。
- ※ ポスター・ショートトークは意味がないと思いました。
- ※ ホームページやポスターのデザインがダサい。
- ※ IT企画は、目新しかったものの、普段スマートフォンを使っていない人にとっては、あまりメリットが無い。また、当方の使い方が良くなかったのか、要旨検索等があまりできず、かなり不満が残る。
- ※ 会場間が遠いポスターと展示の時間があってないので、スポンサー(出展企業)がかわいそうだった
- ※ 分子生物学会と生化学会を分離・連続ではなく合同開催がよい。
- ※ 今後ともオンライン要旨を継続してほしい。ランチョンでの携帯ゴングでリアルタイムで意見が表示されるのも新鮮だった。
- ※ WSオーガナイザーに若手研究者を積極的に取り入れると良いと思う。
- ※ 全体的に詰め込み過ぎな感じがしました。
- ※ プログラムの検索システムはよかったです、ランチョンセミナーが含まれていない。一日の計画を立てる上で、ランチョンセミナーの要旨も見られるようにして、マイプログラムに記憶できるようにして欲しい。
- ※ IT化を色々なところでは非進めてほしい。とても良い試みだと思いました。
- ※ オンライン要旨へのログインパスワード名札と一緒に印刷され送付されましたが「I」「I」が見分けられず、困りました。フォントを工夫するか、まぎらわしい文字は除外してください。
- ※ IT関連の企画・運営が良かった。初めての試みのためか、周知不足があったかもしれないが、繰り返すことで、この良さがわかってく ると思う。かくいう私も、最終日に初めて“いいね”の存在を知りました^^A
- ※ 交通の便の良いところが良い。終了時間が遅い上にタクシーの長蛇の列を並ばないと帰れない場所では、多数の参加は厳しいです。ITが充実していた点は良かったと思います。
- ※ ポスター会場に人が多く集まる時間には機器展示が終了しており、展示側には不利なスケジュールだった。会場と博多駅等を結ぶシャトルバスがあると良かった。ポスター発表終了時に一般路線のバスが終了していたり、朝は地元の通勤者と同乗でラッシュになつたりと交通の便がわるかった。
- ※ ITを最大限に利用した非常に先進的な学会で、非常に面白かった。来年もこの流れを生かして、進んだ学会であってほしい。
- ※ ポスター発表の時間帯をもう少し早くして頂きたかったです。
- ※ 面白いシンポジウムが多く、企業ブースも充実しており、最新の知見を得る良い機会となった。シンポジウムの充実に今後も力を入れて欲しい。
- ※ 合同学会の方が好きです。
- ※ オンライン要旨システムは非常に使いやすく便利でした。ぜひ継続して利用してほしいです。
- ※ 緊急フォーラムに参加した。学会のメンバーが関わった大規模な論文捏造事件について、学会はもっと事を重大視し厳しく対応する必要があると思う。
- ※ 福岡での他学会との連続開催の場合、アクセスがたいへんなうえに交通費が大きくなるので、例えば、分子生物学会の初日と生化学会の最終日に発表が分かれた場合に、途中で一旦職場に戻るという選択ができない。このような連続での長い学会期間の開催形式であれば、横浜など各方面からのアクセスがしやすい会場の時に実施すればどうかと思います。
- ※ 年会の時期は昔から12月なので動かないかもしれません…アメリカのASCBといつもかぶり気味なのは残念。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

※ 今回は自分の興味のある分野の発表がワークショップに集中していてとても興味深かった。ポスターセッションも充実していてとてもよかったです。オンライン要旨をあまり活用しなかったため、キーワードを使った検索機能の存在を知らず、興味のある発表を聞き逃してしまって非常に残念でしたが、次回からは使いたいので、来年も同じシステムをぜひ採用してほしい。
※ 生化と分生の両学会が、早く一つに統合して欲しい。それだけです。
※ iPadの貸し出しがもっと増やしてほしい。できれば、iPad miniなど、重くない方がよいと思う。また、今回はインターネットブースがなく、IT機器も持っていないなかったため、ネット検索もできなかつた。(毎回ネットブースがあるので当てにしてました。遠出でただでさえ荷物が重いので、パソコンやタブレットを持って行くのをやめました。)皆がスマートフォンやiPadを持ってきているわけではないので、インターネットブースはなくさないで欲しい。
※ ポスター発表の時間が遅過ぎた。ショートトークは誰のため?
※ 全体としてとてもよく運営がなされていた。ポスター終了が20時15分は遅く、疲労した。最終日の早い終了はよかったです。online 抄録の充実はとてもよかったです。ショートトークは聴き手もなく、時間の無駄であった。
※ DNA損傷関連のワークショップのレベルが例年以上に高く、また参加者も例年より遙かに多く、よかったです。
※ 今回の学会でのショートトーク会場が非常に分かり辛く、隅の方にあつたため訪れにくかった。
※ オンライン要旨は、学会で使用したパスワード(もしくは会員番号とメールアドレス)で、10年くらいは見れるように残してもらえるとありがたい。もし半永久的に残すことができれば、紙の要旨集は地図や会場案内など、最小限ですむような気がします。
※ オンライン、オフラインのプログラムが充実すればプログラム冊子は不要である。今年は重くなってしまったのでほとんど見ていなない。(持っていたかなかった)
※ シンポジウムの会場とポスター会場が同じ方がよい。シンポジウムが終ってからポスターが始まるまでの時間が長すぎた。プログラムを工夫すれば、シンポジウムとポスターは、平行して開催でも良いのではないか?
※ 分生の年会が終わると今年も終わり。そんな気がします。
※ 会場が2つに分かれていたために、移動に多くの時間を費やさざるを得なかつたのが残念。ショートトークはワークショップの時間とはずらすべき。ほとんどの人が聞きに来ていていなかつたように思えた。
※ 大きな学会の不便さの解消に努力してください。
※ 生化学会と分子生物学会は、内容的にかなりの部分が重複しております。両者の共同開催が望ましいと考えます。
※ Wi-Fi環境が整っており、持参したPCをフル活用できて良かった。スタッフの皆さんに感謝。
※ ポスター会場やシンポジウム会場に子どもを連れてくる人がいるか、止めさせてもらいたい。子どもが来るべき会場ではないし、走り回ったりして迷惑である。海外の学会では、その様な光景を見たことはほとんどない。会場までのバスが、増発はしているのだろうが一般客と一緒に到着まで時間もかかり不便だった。出来るならば、有料で構わないので博多駅から直行の会場行きバスを運行すべきだったと思う。
※ 座席数が少なく、立ち見が目立つ講演が多かった。
※ 学会は様々なトピックスを一堂に会する場にするべきです。そもそも、生化学と分子生物学(または細胞生物学)が分かれているのは、各学会の発表内容を鑑みても研究の現状に全く即していません。そもそも細目的なものは研究会としてフォーカスして密着したものを行うべきで、学会としてそのような場をサポートしつつ(特定や新学術の班会議的)、年会はそれらを全て含めた、総合的な場にするべきと考えます。また今後は少子高齢化による影響もあり、小さな学会から潰れていくでしょう。過去の遺恨を現代、そして未来に残すこととは日本の基礎生物学に対してよい影響を与えない感じます。
※ 実際、生化学会からどれだけの人が来たか疑問生化学会員が分子生物学会にも参加したという数値があれば、励みになるかもしれません
※ ポスターなどが関連分野が分散しすぎている感がある。分野ごとにコンパクトのまとめ、集中して聴けるようにした方がいい。
※ 企業展示、特別企画展示の場所が講演会場と離れていたのと、それらの展示時間が終わってからポスターセッションの時間になつたため、効率が良くなかった。
※ ショートトークは、学生への口頭発表の場の提供など、新たな取り込みでいいと思う。が、今回のショートトークは「ワークショップ、シンポジウム等と時間が重なる」「3分間という限られた時間での発表のため、結果が重視されすぎて、専門外の分野では理解する時間がない」などの理由により、途中から出席しなくなってしまった。出来ればショートトークも希望性にし、全員が発表しなくてもいいようにし、参加人数で時間を分けるなどの工夫がほしい。
※ オンライン要旨の検索機能、ハイパーリンク機能が使いやすかったです。お疲れさまでした。
※ 今年の年会は非常によかったです。来年これを上回る盛り上がりを期待している
※ 今回強く不便さを感じた会場についての設問がないようだが、口頭発表とポスター発表の会場が離れていたこと、口頭発表が多すぎて、ポスターが夜遅くにはみ出していたことなどに対する不満はよく耳にした。企業展示が店じまいしてからのポスター会場は閑散としていて、聞きに来る人が明らかに少なかった。ポスター会場にテーブルとイスがなく、かなり疲れた。2階まで上がってすわってしまうと、今度はポスターに戻るのが面倒になった。
※ iPadをお借りしました。初めて使いましたが、大変便利でした。ありがとうございました。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

- ※ Q9にも書いたが、ショートトークについては本年会のような形式ならするメリットは少ないと思う。ただ、結果がどうであれこのような新しい試みをすること自体はいいと思う。現にオンラインプログラムに関してはかなりよかったです。
- ※ 分子生物学会のように規模の大きい学会で、ショートトークのような口頭発表の場をむやみに増やす意味が分からない。ポスター発表を充実させ、口頭発表は敷居を上げて厳選すべき。口頭発表の機会を増やす事は、もっと小さな学会やワークショップで試みた方がいいように思う。
- ※ ワークショップが盛況でよかったです。昨年のような5-6分のtalkセッションは中途半端なので今後もいらないと思う。
- ※ 一般発表をおまけのように扱うのはやめて欲しい。ポスター発表が夜8時過ぎまでとかふざけているとしか思えない。ポスター発表を先に行い、その日の最後のプログラムはワークショップにするべきである。
- ※ ポスターセッションの時間が遅く、朝からショートトークを聞こうと思うと拘束時間が長すぎて大変だった。
- ※ 仕方がないことですが、トークの会場とポスターの会場が遠いと大変です。出来るだけ近いところでお願いしたいと思います。難しいと思いますけれど。また、今回、企業の展示がポスターの時間以前に終わったのはなぜでしょうか？ 必要がある場合、午前中や午後のトークの時間に無理に行かなくてはならず、企業としても人が増えるポスターの時間にお客さんが来られた方が良いと思うのですが、。
- ※ 高校生の発表が新鮮でとても良かったと思います。どうも有り難うございました。
- ※ ショートトークは学術的交流をすすめるという観点からは外れてしまったようを感じる。発表会場には発表者とその関係者のみであり、学術交流とは無関係の実態があつた。また、聴講したいワークショップやシンポジウムと発表時間が重なり、会場も離れているため、聴講できなくなつたことを残念に感じた。ショートトークへの発表の有無は自由のことでしたが、やはり、設定されれば発表しなければと思ってしまいます。更に、ポスター発表の開始時間も遅すぎたと感じています。ポスター発表はデータの数や説明が多く、質疑応答もできるので、もっと有効的な場にしてほしい。
- ※ 今回はポスター討論の時間が少々遅すぎたように感じました。遅いと参加者数が減り活気が無くなるように思います。
- ※ 國際会議場は無駄に広すぎる
- ※ 神戸、横浜に比べ会場がよくなかったと思う。特に交通の便や会場間の距離、また周囲の食事施設などの点で不満があった。
- ※ トイレの個室にグライナーの袋が大量に捨てられているのはいかがなものか。
- ※ いいねボタンから、自分の関連する分野のプログラムを見つけられたことがとても良かった。ポスター発表が、奇数と偶数番だと、どちらかに興味のある内容が偏ってしまったり、自分の発表と被っていて聞きに行けないことがあるのが困りました。
- ※ お疲れさまでした。分子生物学会の特徴はポスターの前で侃々諤々と議論することだと思います。もう少し早い時間にやって頂きたかったです。それとプログラム(本)が時間ではなく会場でまとまっていたので、読みずらかったです。同じ会場にずっといることはないので、時間で統一した方がいいと思いました。
- ※ ポスター会場とワークショップ会場の距離をなるべく短くしてほしい。
- ※ 今回の学会のショートトークは会場設定(同時並行)、全てのポスターについてやるかどうかについて、改善の余地があると思った。今後、シンポジウム、ワークショップともに、公募枠を設けるのが良いと思う。
- ※ ランチョンの整理券があつたという間になくなり、年会中一度も参加できなかつた。
- ※ 蓄積したノウハウが引き継がれ、ムダなコストを掛けること無く、運営されていくようよろしくお願ひいたします。
- ※ 初参加でしたが、大変勉強になり楽しい4日間でした。どうもありがとうございました。
- ※ IT化に疑問がありました。実際使ってみると、便利でよかったです。
- ※ 今回のポスター会場では、同じフロアにちょっと座れる場所が無かつたこととコーヒースタンドが無かつたことが、体力的につらかったです。
- ※ ポスター終了時間が遅すぎる。7時までが適当である。
- ※ IT化は避けられないと思いますが、それに伴うマナーの徹底をするべきだと思います。公演中のデジカメ撮影や、口演内容をPCでノートする方で必要以上にキーボードを強く叩く方が、今回の年会で特に目立っていました。
- ※ IT化をうまく利用できればとても参加しやすくなると感じました。少なくとも分厚い要旨集を持ち歩いて疲弊することがなくなるだけでも意義があると思います。ランチョンのご飯がおいしかつたです。神戸はご飯が不安です。よろしくお願ひします。
- ※ IT化(特に、オンライン要旨集)は非常に良かったです。今後もこの方向性を是非発展してゆくことを希望します。
- ※ 英語力がプアな発表者やフロアー研究者の講演・質問・意見表明はあまり意味が無いと思います。無理に英語化せずに日本語で密度を濃くするべきだと考えます。
- ※ 時間がタイト過ぎに思えました。
- ※ ポスター発表の際に、飲み会の相談など関係ない話をしている人がいるので、主催者側で配慮してほしい。基本的に良い学会だと思います。
- ※ 演題を検索する際に、特定の単語を入力して検索すると、4日分の演題がバラバラに出てきたので、目的の演題を探すのに時間がかかりました。できれば、特定の単語を入力した時の検索結果を日付順に並べるか、日付別にできるような機能が欲しかつたです。
- ※ 貸し出すならiPadよりもiPad miniかiPod touchくらいのサイズがいいと思う。
- ※ 新しい企画が多く、非常に良かったと思います。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

※ 学術振興会やJST、厚生労働省などの役人だけが話をするシンポジウムや公開討論会が分子生物学会の枠内にあっても良いと思う。「研究費の配分手法に関する公開討論会」「文科省と財務省との科研費の折衝の裏側」「科研費の不正利用と罰則に関する国の方考え方」など。
※ 分子生物学会に参加しなかったのは、留学中だった十数年前以来初めてのことです。今年は生化学会側で委員会の集まりがあり、しかし、一週間もラボを留守にするにするわけにもいかず、仕方なく生化学会だけに参加しました。生化学会と分子生物学会が異質という声があることはわかっていますが、古いメンバーのこだわりのようにも感じます。学会を立ち上げた頃はいざしらず、現在ではかなり同質化していると思います。少なくともBMB2010の時のアンケートでは毎年でないにしても合同開催を望む声が多くたはず。学会は執行部だけのものではなく、会員のためのものであることを考えていただきたい。
※ 企業ブース、このままだともう出なくなるのでは。日中ずっと口頭が続いて、ポスター会場なんかいきません。人がやっと来るころには閉まっているんだから、ブースを出している意味がないです。退屈した学生にアピールしても仕方ないでしょう。予算執行ができる人が、少なくともブースの前を通りかかるような工夫をしてあげては?
※ 運営大変お疲れさまでした。大変有意義な会にしていただき感謝しております。
※ 周辺に宿泊施設が少ないから遠くからバスで行くことになるけど、朝混雑がひどかった。地元の人が相当迷惑している感じだった。朝と夜だけでもいいから、シャトルバスを出すなどのアクセスを良くするための配慮がほしかった。
※ 日本生化学との合同開催を強く望んでいる。
※ 今回の学会では、どこの会場でもスムーズにwifiに接続できたのでとても良かったです。また、Myスケジュールも使いやすかったです。ランチョンセミナーもスケジュールに入れることができたら良かったと思います。電子ポスターマップは大変役に立ちました。マップ内に演題番号を記載してあつたらもっと良かったと思います。今回はとても楽しめた学会でした。また、色々なことに挑戦して頂けたらと思います。
※ 今回はポスター発表の時間帯が例年より1時間近く遅くなり、夜の時間の活用に難点があった。また、向かい側とのポスターとの間隔が狭いことで通行が困難な箇所があった。以前、担当者が巡回してポスターの前で12分のショートトークをしたことがあったが、その形式は比較的良かったと思うので復活を希望する。
※ IT化は便利でした。
※ 1. ポスター発表者のショートトークセッションは不要。ほとんど聞いている人はいない。やるとしても、免疫学会のように一般演題(口頭発表)の最後に1人1分程度で良い。3分は長すぎる。2. 演題登録の際、「特に4日目の発表は希望しない」を選択しても4日目の発表となった。そのような選択肢がない方が、4日目の発表でも納得できる。
※ ポスター発表を遅くまで行うのは、よく感じなかった。若手が口頭発表するチャンスを。英語にすると学部生(研究者のたまご)の学会デビューしにくくなる。
※ 無理に英語化しなかったので、口頭発表のセッションが聞きやすかった。特に質疑応答で議論がかみ合わないことがほとんどなかった。国際化も大事だが、母国語でサイエンスを議論できる機会もつぶさないで欲しい。IT化にはついていけないものを覚えるが、内容的にはとてもよかったです。組織委員会の皆様ありがとうございました。
※ 今回の年会は、ITを中心に種々にわたり工夫が見られ、非常に良かったという印象が残りました。スケジュールも見やすく、有用でした。有難うございました。
※ アメリカ細胞生物学会も12月に年会が開催されるので、それと重ならないように日程を調節して頂きたいです。
※ 今後IT化がさらに進んでもプログラム集は紙媒体のままにしてください。空き時間にパラパラと演題に一通り目を通す人(特に年配層の偉い方々)は周りにはけっこういる。そういう方に自分の発表を見てもらえる=研究への意見をもらえるきっかけになると思うので。
※ ネットの利用で斬新でよかったです。ショートトークがどこでしているのかわからないなど、ネット上で調べても、載っていないことが多数あった。もう少し細部を詰めていただければ、良かったのに。
※ 日本で行うのですから、なるべく日本語で行うべきだと思います。
※ さまざまな斬新な試みを実現された組織委員会に敬意を評します。お疲れ様でした。
※ 今回の試みによって、少なくとも生化学会とは合同開催にすべきことが自明となった。
※ 海外研究者も発表しやすいような工夫がほしい。
※ ランチョンセミナーが充実していた
※ 働地で学会を行わないでください
※ 保育室の設置などに積極的なのはよいが、ポスター発表の時間が遅く、子供を優先させると結局ポスター発表時間はほとんど参加できないのではないか?多少遠方でも日帰りで参加の方もおられますし、お子さん連れで回られている方もいらっしゃいましたが、未就学児には疲れてくる時間帯ですし、小学生については学校を休ませているのかと思うと大人の都合も大事ですが、子供の立場も考えてあげられる学会になってほしいと思います。私は福岡在住で保育園児、小学生がいるため、夫の都合が悪い時はお迎えや食事を食べさせるために遅くとも18時前には会場を後にしなければなりませんでした。
※ IT化は素晴らしい試みだと思います。関係者の努力には頭がさがります。今後も電子化を進めていただきたいと思います。しかし、ショートトークは不要です。かわりに、ポスター発表をもっと充実させて欲しい。私は研究者と直接会って議論するために参加しております。ヒトとのつながりを支援する仕組みがもっとあれば良いと考えております。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

※ とにかく不便であった。2つの会場が離れすぎている。座る場所がない。都心からのバスが満員でなかなか乗れない。等々。ネット環境が非常によく、使い勝手がよかつた。企業が提供する昼のセミナーの入場整理券の配布方法は何とかならないか？聞きたいと思っても整理券が手に入らないため、聞きたい発表を聞くことができなかつた。
※ プログラム分厚すぎ。重いし見にくい。workshop シンポは会場ごとのくくりで見にくかった。時系列でくくって欲しい。ポスターは字がでかすぎ。IT化は賛成だが、プログラムを重くするのは反対。ログインIDとpwの表示フォントがひどい。ありえん。「アルファベットのアイ、エル、数字の「1」「アルファベットのオー」と数字の「0」が識別不可能。表示通りのpw入力でログインできない。複数文字で大文字小文字含めて何パターン試せっていうのか。分かった時点で「数字の「0」に見えたらアルファベットのオー」など案内を出せ。簡単なことで多くの人の時間をセーブできる。ミスは仕方ないが対応が無いのは非常に腹立たしい。
※ 無線LANは是非来年も同じものを。
※ 水ぐらい用意しても良いのでは。参加企業が配つてはいたが、サーバーをレンタルしてもいいと思うが。最近はどの学会も、その手のサービスはなくなってきた。
※ 今回のように同じようなセッションが別々の学会で連続でやるのは効率が悪いだけのよう思います。今の時代分子生物学と生化学を分ける意義はほとんどなく、むしろ融合した分野が主流になることを念頭においてやはり合同でやるのが良いと思います。
※ 今回の分生年会は、私がこれまでに参加した分生年会の中で、最も良い印象を受けました。分子生物学会の年会は、数千人規模で非常に大きいので、私はこれまで、「こんなに大規模にやっても、数人とか会えないし、あまり意味がないのではないか」と思っていました。しかし今回のIT企画によって、分生年会に参加するたくさんの方たちと簡単に連絡を取り合うことができたり、様子を知ることができたりしたので、非常に有意義な年会を過ごすことができました。今後も、是非とも、このような人と人との繋ぎ工夫をした学会運営をしていっていただきたいと希望します。これは、巨大な分子生物学会にとって、非常に重要なことだと思います。
※ はじめてiPadの存在意義を感じました。
※ 参加人数は多いけれども、何だか盛り上がりに欠けた年会との印象を持ちました。
※ プログラム委員会・執行部の先生方の努力に委ねるべきマターであるが、生化学会との合同開催の永続化、ひいては生化学会との合併を切に希望致します。
※ トーク会場とポスター会場がとても離れていて、間が海風が強くて寒い。
※ 今回、当方のラボは都合により生化学会のみに参加したのですが、12/14の午後に数名の学生が貼った「生化学会」用ポスターが分子生物学会のポスター撤収係に廃棄されると言う驚きのトラブルがありました(当方の学生だけでなく、他にも被害者はかなりいたようです)。急遽、生化学会大会事務局でA3用紙で印刷し、それらを繋ぎ合わせた不格好なポスターを作製し直しましたが、かなりの時間とエネルギーを浪費しました。分子生物学会の撤収時間と重なった不運な事故だと思いますが、ホームページ等で今回のトラブルを説明し、今後このようなことが起こらないような対策を考えるべきだと思います。
※ 英語と日本語の両方の要旨は、不要だと思います。英語または日本語にした方が良いと思います。
※ 短期間での導入にも関わらずここまでITシステムの構築にこぎ着けた実行委員会の皆様の努力を讃えます。今後の学会運営のモデルケースとして広く発展するものと思います。
※ 今回の情報インフラは非常に良かったと思います。タブレットやスマートフォンがプログラム・要旨集になるのは、持ち運びだけでなく、検索や情報収集に有益だったと思います。またiPadの貸し出しを行っていたのも素晴らしい試みだったと評価します。このスタイルをこれからも発展させていって欲しいです。ただショートトークは別のスタイルを考えるべきです。
※ とにかく聞きたいセッションに入れないと多々あった。参加費を取つておきながらこれはないと思う。外国の学会に参加してこのようなお粗末な経験はしたことがない。IT云々という前に、聞きたいものは聞けるという基本的なところをしっかりと保証して欲しい。ポスターの説明時間が過ぎる。
※ 要旨にコメントをいただいてもアラートのような通知がないので、見逃してしまいました。
※ 年会の成功に会場の規模や立地は重要だと思う。会場までの公共交通機関のアクセスが路線バスのみで最終バスが8時台というのはお粗末だと思う。結果、ポスター発表の終了が遅すぎる印象を持たざるをえなかつた。年会の盛況ぶりに水を差しかねないこのような事態について、今後シャトルバスの導入などさらなる検討が必要ではないか。
※ 子どものいる研究者からは不満が出るかもしれないが、一日でも土日を入れてくれると、平日が大学の業務でつぶれる場合も参加できる。
※ 分野が多岐にわたることが分子生物学会の良さであるが、他の学会と日程が近すぎると、その分野の人が来なくなる(今年の場合は、前週の免疫学会)ので、ある程度規模の大きな学会とは日程をうまく調整してほしい。
※ 総じて、とても良かったと思っております。
※ 今回は日本生化学会とは別開催だったので、生化学会が週末土日を含む日程であった。今後は、開催場所が同じ場合は、日曜日から始めて金曜日に終わるような日程をお願いしたい。
※ 会場の設定が不便。1)ポスターと講演とが遠すぎる。2)シャトルバスをだし、交通手段を簡便にする。大変の不便であった運営時間について夜遅すぎる。夕食時間がこのように遅くなるなら、夕食が会場でとれる工夫が必要。総会について総会開催時が、ポスター発表時に重複させるとは非常識きわまりない。
※ 会場内のWifiについては、どこの場所でも快適に接続できたため、非常に良かったと思います。また、タブレット端末で要旨の検索やマイスケジュールへの登録ができたため、分厚いプログラム集を持って歩き回る必要がなくなり、負担が少なくなりました。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

※ 口頭発表が出来ない人のためのお情けのショートトークなら、次回からは廃止にして頂きたいと思う。余計な時間もとられるので。
※ ニンテンドーDSが電波を拾ってくれなくて困りました
※ 今回の学会については、同じような主旨のワークショップが多く、発表者に口演の機会を与える意味では意義があるが、全体として散漫な印象を受けた。分子生物学会にはいろいろな分野の専門家が来るので、各研究分野の意義を他分野の専門家が聞いても分かるように、講演してもらいたい。ゲノムの詳細な分析が進むにつれ、「環境」をどのように定義し、分子生物学会研究の中に取り込むかが重要になってきた。環境がゲノム(の機能や構造)にどのような影響を与えるかのか、「分子生物学にとって環境とは何か」を問うシンポジウムや企画が望まれる。
※ 会場の問題だが、会議室の入り口、トイレの場所、エスカレーター乗り場が片側に固まっているため、人の動線が非常に混雑していた。階段はほとんどつかわれていなかった。会議室内にもWSの番号くらい表示がほしかった。入り口のプログラム、各表示、案内が小さくわかりにくかった。プログラムタイトル冊子をもっと薄くし、持ち運びが楽になるようにしてほしい。
※ ワークショップやシンポジウムと時間が重なっていたため、ショートトークブースでの客員数は、正直少なすぎて悲惨でした。互いの発表者が、自分の発表のため、義務でそのブースに座っているのみ！あれならポスターセッションのみの方が、まだ活気あるdiscussionができたと思います。
※ 大会運営はスムーズでしたし、テーマも面白かったです。ご尽力された先生方、スタッフに感謝いたします。
※ ポスター発表を軽視しているような気がする。時間が遅すぎる。ポスター発表開始が遅すぎてそれまでに疲れてしまっている。終了時間も常識範囲(午後7時台)にすべきである。さらにポスター発表時間中に他のプログラムが走るという編成はポスター軽視でありきわめてよくない。ポスター発表時間には機器展示が終了していた(これもポスター時間が遅すぎたため)。
※ 今回のITを利用したシステムはすばらしかった。Wi-Fiの接続もよく、運営の準備に携わった方々のご努力に感謝致します。
※ ただなんとなく例年通りに流されるのではなく、少しでも変えて行こうという試みはよかったです。ただ、今年は準備不足が目立ち、不備な点も多かったです。それらの項目に丁寧に向き合って分析し対策を講じていけば、来年はかなりよくなるだろう、と期待できる。また、WEBアンケートサイトは開会期間中から立ち上げておくべき。このアンケートのように後からまとめて思い出しながら、というタイプよりも、はるかに細かい気づきや意見が寄せられる。そうしたリアルタイムな意見こそが、学会の新しいスタイルの模索に役立つはず。
※ IT化に力が入っており、Web抄録集は大いに活用させていただきました。昨年の課題であったというWi-Fiは非常に快適な環境であり、会場で時間を余すことなく有意義に過ごせました。
※ 係員が大変なのはよくわかる。が、学生が安い金額で学会に参加しているのに対して一般はある程度のお金を払っているのだから、一般会員としては金だけってこれが！と思ってしまった。だったら学生からももう少しお金を集めきちんとしたものにして欲しい。
※ 規模が大きすぎる
※ 今回はポスター発表の討論時間が18:15-20:15と遅い時間にシフトしていたため、いつもよりも討論にくる人の数が少ないと感じられた。出来たら今までと同様に討論時間は16:30-18:30あたりの時間帯でお願いしたい。
※ 今回のIT化は、大変良かったです。細菌学会運営の参考にさせて頂きます。
※ IT化されたプログラムは非常によかったです。iPodの貸し出しまでとても助かりました。次年度以降も継続していただけると大変よいと思います。
※ シンポジウムやワークショップと同時にショートトークをやると、ショートトークの聴衆が少ないため意味がないと思う。ポスター発表時間はもう少し早いほうがよく、企業の展示ブースをやっている時間にしてほしかった。福岡駅から会場までの臨時バスを出してほしかった。朝は一般のお客さんもいて大変混雑してました。
※ 本年度の不満点は、生化学会と合同で開催しなかったこと、ショートトークを導入したことの2点である。この点を改善すれば(前年度までに戻せば)、後はどうでもいい。そんなことより、合同開催の是非がどうだとかくだらない議論をするくらいなら、分子生物学会の設立された歴史的経緯など若い人は全く知らないので、分子生物学会と生化学会は早急に合併するべき。両者が別々であるメリットを感じない。
※ IT企画を組織された方、実行された方、本当にお疲れ様でした。お陰様でとても楽しくかつ非常に有意義に学会に参加することができ、効率良く知識を吸収し、関連研究者との交流を深めることができました。正直なところ、ともすれば、IT化といつてももっと中途半端で、狙いは良かったんだけど実態は使いづらくて残念だね～、という状況に陥ってしまうことも失礼ですがやや危惧しております。実際はアイディアが良いのみならず使い勝手も良く、企画運営された皆様の意気込みの強さを感じました。IT化の企画運営に携われた皆様に心より感謝致します！
※ 分子生物学会は、旧帝大・理研・国立研の人を対象に運営されているという雰囲気(権威主義的な雰囲気)を強く感じました。「最先端のサイエンスを行う人・大型予算を持つ人・研究のみを生き甲斐とする人、以外は振り落とす」という姿勢ばかりでは先細りになると思います。なお、生化学会ではそういう雰囲気を感じませんでした。
※ 久しぶりに分子生物学会に参加・発表しましたが、とても良い学会でした。組織委員の先生方、お疲れ様でした。
※ 年会専用の掲示板を作ってはどうだろうか。参加者同士の連絡などに使えないだろうか。使い方を知っている人ならばツイッターで十分なのかもしれないが、ひょとしたら案外需要があるかもしれない。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

- ※ 1. ポスターセッションと機器展示・特別展の時間が完全に分離されてしまったのが残念でした。展示時間中にポスターセッションを行うと展示会場が賑わってよかったのではないかと思います。2. 印字されたログインID/Passの小文字の「l」と大文字の「L」が両方「l」と表示されていたのでどちらの文字か判断ができません。来年はフォントに一工夫して頂きたいです。3. プログラム集を無くす事には賛否両論あるようですが、来年は申し込み時にプログラム集が欲しいか否かの選択性にしてみては如何でしょうか。私は今年のIT企画が継続されるならば必要としません。
- ※ ますます期待します
- ※ 会場までのバスの増発やシャトルバス等を考えて欲しかった。博多駅から、混雑で乗れない一般客もいた。また、ポスター発表後の帰宅時のバスが少なく、タクシー待ちに行列ができていた。
- ※ 小型(7インチ)タブレットを持っている私にとってはオンライン要旨閲覧システムはとても便利でした。個人的には来年も採用されることを強く希望しますが、タブレットを持っていない人には無意味かもしれませんね。ポスターセッションの終了が8時15分というのはやはり遅すぎるのではないかでしょうか。そのあとでご飯を食べに行くにはやはり不便です。あるいは、ポスターセッションで飲食物やアルコールの販売はできないでしょうか。より親密なディスカッションが期待できる、という利点もあります。ポスターセッションの時間に企業ブースが閉じてしまっているのもちょっと不便でした。
- ※ 動物の病気に関するセッションに偏りすぎている。以前のように、もっと様々な生物種、さまざまな研究を網羅する学会の方が良い。お医者さんの学会かと思ってしまうくらいなので、基礎研究者はどんどん離れていきそうだ。
- ※ ポスターセッションが終わるのが20時というのは、遅すぎる。1日の日程が長すぎて、最後は疲れ果ててしまった。スケジュールを改善して欲しい。
- ※ 各種電子化は、非常に有効だったと思います。ただ、フォーラムが、電子版のプログラムから漏れていたのがたいへんに良くなかつたと思います。
- ※ 素晴らしい年会でした。
- ※ もちろん学会期間すべてに参加したいが、他の用事等で自分の関連分野の発表がある日を選んで参加する場合もあるので、同一分野のポスターは、日程をまとめて欲しい。ショートトークは必要ないと思う。
- ※ 休憩所でも歩行中でも大部分の参加者が端末に見入っていた。これはかなり異常な光景のように思えた。せめて休憩所ではネットを離れて、参加者同士がコミュニケーションをとって欲しいですね。
- ※ 分子生物学会と生化学会を統一する努力を役員はすべき。独立した分野はあっても、別々に総会をやる意味はない。
- ※ Q15\_16にも記したように、毎回分子／生化合同大会でも、毎回別々開催でもそれぞれにメリット／デメリットが有ると思います。(合同だと横浜か神戸だけになってしまい。別々だと同じような内容のシンポジウムやワークショップを2回聞くことになる、など)。隔年ごとで分子／生化合同大会にして貰えると、2年に1回地方も楽しめるし、2年に1回は参加が1回で済むし、有り難いです。
- ※ 楽しかったです。
- ※ 夕方6時からポスター発表はダメでしょう。夕方遅くからは参加自由な催しにすべき。IT革命しなくて良い。一つの建物で済むような企画にすべき。
- ※ 余り大きな学会大会になると、焦点がぼけるし、実質的な討論が出来ない。それこそ、知人や同門との親交を深める会のきっかけに成り下がっている。例えば演題は厳しく選りすぐり(採択率を低く設定する)、学会で発表出来ることを一つのステータスになるようにしてはどうか。また、毎年やっても研究成果が余り代わり映えしないものが多い。各研究分野を大きく二つに分け、交互に回ってくるようにしてはどうか。
- ※ 今年は行かなかったのでよくわからない
- ※ 例年通りのスケジュールでやってほしい。ショートトーク、ポスターセッション開始時間の遅さ、帰りの足の準備不足等、今回の学会は不満だらけ。次回も同じなら参加しない。
- ※ トークとポスターの会場が離れすぎ。スケジュールがきつく、毎日忙しかった。もう少し扱う分野を少なくしてもよいのではないか?なんでもかんでも扱うとかえって学会自体の質の低下を招く恐れがある。
- ※ 企業展示時間が不適当。ポスター討論時間は開いておくべき。
- ※ ポスター会場やシンポジウムの会場までの距離が長く移動が大変だった。(福岡会場はそのあたりが不便に感じた。)
- ※ 自分の研究成果を他大学、企業の研究者の方とディスカッションする機会は学生の私には無い経験でした。ポスター発表の短い時間の間に、自分の研究の課題などを発見することができました。このような機会を与えて頂きありがとうございました。
- ※ プログラム大変見やすかったです。若干のバグがきになるところは有りましたが、重い題目集から解放され、非常に快適な会でした。ポスター発表の時間が遅いのが気になります。そのせいかポスター発表の時間に企業ブースが空っぽなのが非常に寂しいです。かきいれ時と思うのですが…
- ※ 演題が減っているにも関わらず、プログラム集が昨年より厚くなっている。文字を小さくしてでも、持ち運びが楽になるようにしてほしい。
- ※ ショートトークとシンポジウムの時間帯が重なっていたのは残念でした。ワークショップに採択されず、ポスター発表を行う人達は、この学会では学生が多いと思われます。そのような若手にシンポジウムに参加して欲しかったです。
- ※ 高校生の参加は本当に素晴らしい企画だったと思います。

## 質問17 その他、年会についてのご意見

※ 海外の学会では、講演者と聴衆の距離がもっと近いように感じる。そのようにするために、講演会場そばに飲食スペースを設けて、かるくつまみながら、講演内容やその他のことについて話ができるようになっている。会場の制約があつて難しい面があると思うが、講演者と聴衆の距離を縮める工夫があるともっと良いと思う。
※ 量から質への変換が必要ではないか？
※ 終了時刻が20:15は遅すぎる。
※ ワークショップ参加者の懇親会はいい触れ合いの場であった
※ 生化学会との合同・分離開催については賛否両論あるかと思いますが、本年会において一石を投じたことは間違いないと思います。また新たなことに挑戦しようとする関係者の皆様の熱い意気込みは、十分肌に感じ取ることができました。本年会が分子生物学会年会のターニングポイントなることを切に願っております。年会の企画・準備・運営等、ありがとうございました。
※ フォーラムのプログラムは、ポスターとかぶせるのであれば、ワークショップとかぶせた方がよい。私の中では興味ある企画の順位としては、フォーラム>ポスター>シンポジウム=ワークショップです。
※ 会場のWi-fiの無料開放は特によかった。iPadの貸し出しも非常によく、タブレットを持っていない人からすれば大変助かった。今回のIT化はとても評価できると思う。
※ 企画に携わった方々の献身的な働きに感謝します。新しい試みにトライする姿勢は素晴らしいです。次回の年会も楽しみにしています。本年会の企画・運営に携わった方々のご苦労が少しでも報われますように。
※ たまには横浜、神戸以外でも良いかなと感じました。
※ IT企画がとても良かった。口頭発表の演者と参加者の交流を図れるように、更なる工夫と発展に期待する。要旨集は電子版のみで良いと思う。紙の消費を減らすことは、環境への配慮といった視点でも大切ではないでしょうか。夜ゼミがマイマイ有効に活用されていなかったように感じる。上手く使える人が増えると、学会を更に盛り上げることになりそう。会場のどこかを利用して、小集会的な企画もできるとおもしろい。
※ ポスター発表をメインにする様なプログラムで、夕方からの討論等は不適切です。2日掲示にしてたっぷり討論するのが良いと思います。ポスターのハードルをさらにあげて、今回の様な英語要旨添付とかショートトーク必須等、たっぷり議論をすること前提にする伝統を作ればもう少し未熟な演題が減ると思います。
※ 主人と同じ学会に所属し、共に研究者です。小学校の子どもがいると、学会中は学校を休ませる訳にも行かず、両方が学会に参加するのは難しい状態です。発表日を分野テーマを選ぶことであらかじめ決めることができれば、分担して参加することも可能なのです。そのようなシステムになれば幸いです。
※ 是非ShortTalkをビデオ中継で会場各地で聴講できるようにしていただけるといいのではないかと思います。今回であれば、屋台コーナー広場辺りDisplayを発表者分だけ置いていただければ移動の手間も省けますし、いいかと思います。もしくはRePlayaしていくともいいかもしれません。されば、IT化のMeritを生かして、Youtubeにアップするなど、各自がPoster発表の時間までに任意の時間で聴講できるようにしてはいかがでしょうか？
※ 新しい試みが斬新であった反面、本学会らしさが見えにくいとも感じた。何を残し、何を変えていくのか、会員の意見をより多く取り込んで良いのではないか。
※ ポスター発表の時間帯を夕方6時スタートにしないで欲しいです。人気のあるポスターは演者に近寄れないで、今後、何らかしらの工夫ができたらいいと思いました。進化関連のシンポジウムやワークショップをもっと大きな会場でやって欲しいです。
※ IT企画(電子抄録)は今後も絶対採用して欲しい。非常に使いやすく、有意義な方法だと考える。周囲の研究者の反応も良かったと思う。
※ 今回は特に良かったと思います。新しい試みをやることが大切だと思います。
※ ショートトークの会場、及び形式について再考する必要があると思いました。会場がマリンメッセの中でも行きにくく見付けにくい場所であるため、聴衆も少なかったです。また同じような分野のシンポジウムやワークショップと重なっているため、聞きたい演題に行くことが出来ませんでした。iPadの貸し出し等、重い抄録を遠隔地まで運ばなくて済む工夫は良かったと思いました。
※ 数年前の要旨集を見たいということがよくあります。今回せっかく完全電子化したのですから、もう一步踏み込んで、過去の要旨集を永続的に検索閲覧できるようにしてもらいたいものです。できればclosedでなく公開を希望します。たとえば、学会終了後1年経ったら公開、とか、同意した人だけ公開、ということでもよいと思います。
※ ITプログラムは今後も継続していただきたい。